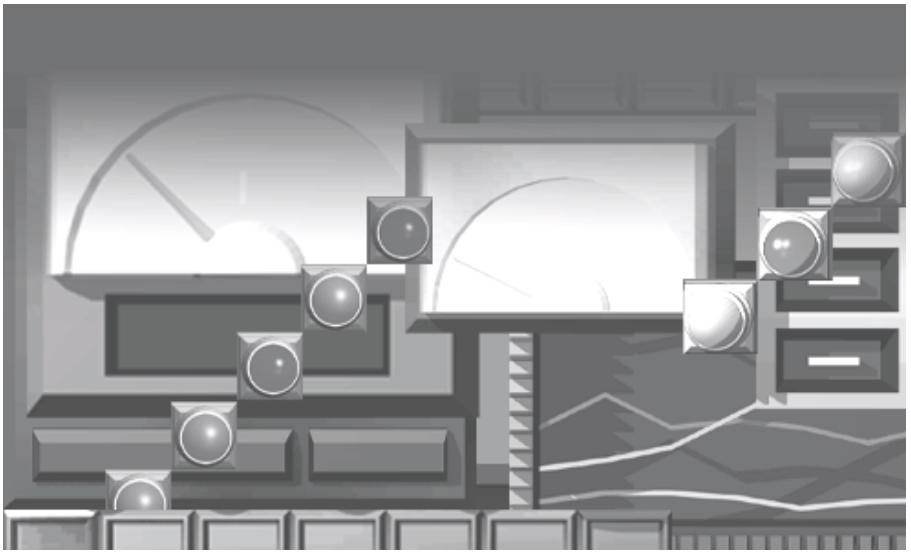
MITSUBISHI

GT SoftGOT2 Version1

オペレーティングマニュアル

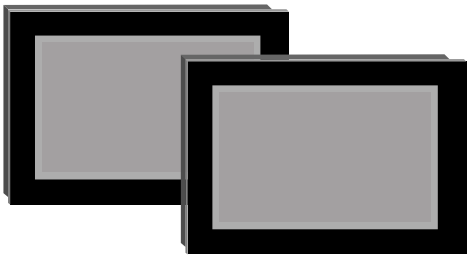
MELSOFT



Graphic Operation Terminal

900

series



統合FAソフトウェア
MELSOFT

SW1D5C-GTWK2-J
SW1D5C-GTD2-J

三菱グラフィックオペレーションターミナル

● 安全上のご注意 ●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は，本製品に関するもののみについて記載したものです。

この●安全上のご注意●では，安全注意事項のランクを「危険」，「注意」として区分してあります。

⚠危険	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
⚠注意	取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお，⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【テスト操作時の注意事項】

⚠危険
● ユーザ作成モニタ画面のテスト操作（ビットデバイスのON/OFF，ワードデバイスの現在値変更，タイマ／カウンタの設定値，現在値変更，バッファメモリの現在値変更）は，マニュアルを熟読し操作方法を十分理解した上で行ってください。また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対にテスト操作でデータ変更を行わないでください。誤出力，誤動作により事故の原因になります。

A－1

本ソフトウェアご使用上の注意事項（重要）

1. 使用するパソコンのメモリについて
   パソコンの機種によっては主メモリ64Mバイト以下の場合，Windows® により処理を終了される場合がありますので，主メモリを64Mバイト以上にしてご使用ください。

2. ハードディスクの空き容量について
   本ソフトウェア実行中は，ハードディスクに100Mバイト以上の空き容量が必要です。
   100MバイトのWindows® のスワップ領域として必要な領域であるため，GT SoftGOT2実行中に空き容量が100Mバイト以上確保できなくなった場合は，Windows® により処理が終了される場合があります。
   ハードディスクの空き容量を十分確保して使用してください。

3. 実線以外（点線など）の太線の表示上の注意事項
   実線以外を太線で作画した場合，パソコン上の画面では線種が正しく表示されない場合があります。

A－2

改 定 履 歴

※取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改　　定　　内　　容
2002年12月	SH(名)-080354-A	初版印刷
2003年 4月	SH(名)-080354-B	一部追加 2.1.2項，7.1節 一部修正 5.3.1項，5.3.2項，5.3.3項，付1
2003年 8月	SH(名)-080354-C	一部追加 2.2節，2.3.2項，2.4.1項，3.3.1項，6.5.7項 一部修正 2.3.1項，3.2節，3.3.2項，5.3.1項，5.3.2項，5.3.3項，5.3.4項， 5.5節，5.5.1項
2003年11月	SH(名)-080354-D	一部修正 2.4.1項
2004年 1月	SH(名)-080354-E	一部追加 2.3.2項，2.3.3項，2.4.1項，3.2節，3.3.1項，5.4.4項 一部修正 2.1.2項，5.4.3項，付2 追加 付1
2004年 7月	SH(名)-080354-F	一部修正 2.3.1項，2.4.1項，3.3.1項，5.5.1項，6.9.1項 追加 2.6節 形名コード変更 13JV67を1DM202に変更した。
2004年10月	SH(名)-080354-G	一部追加 2.4.1項，5.5.1項 一部修正 5.5節，付2 追加 7.5節
2005年 1月	SH(名)-080354-H	一部修正 マニュアルについて，本マニュアルで使用する略称，総称，1章，2.1.1項， 2.2節，2.3.1項，2.5.1項，2.6節，3.2節，3.3.1項，4.1節，5.1節， 5.2節，5.7節，5.11節，6.4.2項，6.4.3項，6.4.4項，6.5.3項，6.6.3項， 6.7.1項，6.12.2項，付2

A - 3

印刷日付	※取扱説明書番号	改　定　内　容
2005年 7月	SH(名)-080354-I	一部修正 1章，4.1節，4.2節，5.8節，5.11節，6.1.1項，6.2.1項，6.7.1項，6.7.2項，索引 追加 2.6.1項，2.6.2項
2005年11月	SH(名)-080354-J	一部修正 マニュアルについて，3.2節
2006年 3月	SH(名)-080354-K	一部修正 2.3.4項

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2002 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

は　じ　め　に

このたびは，三菱グラフィックオペレーションターミナルをお買い上げいただきまことにありがとうございました。

ご使用前に本書をよくお読みいただき，グラフィックオペレーションターミナルの機能・性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださるようお願い致します。

目　　次

安全上のご注意 ・・・

第４章　GT SoftGOT2の画面構成　4- 1～4- 5

4.1　GT SoftGOT2の画面構成と各種ツール……4- 1
4.2　メニュー構成……4- 4

第５章　GT SoftGOT2の操作方法　5- 1～5-33

5.1　GT SoftGOT2でモニタを行うまでの概略手順……5- 1
5.2　ライセンスキー／ライセンスキーFDの使用方法……5- 2
5.3　Ethernet接続時の設定方法……5- 6
5.3.1　E71を使用する場合……5- 6
5.3.2　QE71を使用する場合……5-11
5.3.3　Qシリーズ対応E71を使用する場合……5-14
5.3.4　GT Designer2での設定……5-17
5.4　計算機リンク接続時の設定方法……5-19
5.4.1　Aシリーズ使用時の設定方法……5-19
5.4.2　QnAシリーズ使用時の設定方法……5-20
5.4.3　Qシリーズ使用時の設定方法……5-21
5.4.4　伝送仕様……5-21
5.5　通信設定……5-22
5.5.1　通信設定ダイアログボックスの内容……5-23
5.6　環境設定……5-25
5.6.1　環境設定ダイアログボックスの内容……5-26
5.7　モニタの実行……5-27
5.8　プロジェクトを開く……5-28
5.8.1　モニタデータの読出しダイアログボックスの内容……5-30
5.9　モニタ時の操作……5-31
5.10　モニタの停止……5-31
5.11　GT SoftGOT2の終了……5-32
5.12　自動起動について……5-33

第６章　GT SoftGOT2の機能　6- 1～6-40

6.1　スナップショット機能……6- 1
6.1.1　操作手順……6- 1
6.2　印刷機能……6- 2
6.2.1　操作方法……6- 2
6.2.2　印刷プレビューについて……6- 2
6.2.3　ページ設定について……6- 2
6.3　データ参照機能……6- 3
6.4　メール送信機能……6- 4
6.4.1　メール送信機能の概要……6- 4
6.4.2　メール送信機能使用時の操作の流れ……6- 5
6.4.3　メール送信機能の設定方法……6- 6
6.4.4　メールの送信について……6-12
6.4.5　メール送信履歴について……6-14
6.5　遠隔デバイスモニタ機能……6-15
6.5.1　遠隔デバイスモニタ機能の概要……6-15
6.5.2　遠隔デバイスモニタ機能のシステム構成……6-15

6.5.3　遠隔デバイスモニタ機能使用時の操作の流れ ・・・

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには，下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号（形名コード）	標準価格
GT Works2 Version2/GT Designer2 Version2 オペレーティングマニュアル（スタートアップ・入門編） GT Designer2のインストール方法，初めてGOTを使用する人向けの，作画方法について説明 (別売)	SH-080513 (1D7M17)	¥1,500
GT Designer2 Version2オペレーティングマニュアル GT Designer2の操作方法，GOTへのデータ転送方法などについて説明 (別売)	SH-080514 (1D7M18)	¥3,000
GT Designer2 Version2リファレンスマニュアル GT Designer2で使用する各オブジェクト機能の仕様，設定内容などについて説明 (別売)	SH-080515 (1D7M19)	¥4,000
GOT-A900シリーズオペレーティングマニュアル (GT Works2 Version2/GT Designer2 Version2対応　拡張機能・オプション機能編) GOTで使用できる下記の拡張機能・オプション機能について説明 ・ユーティリティ　・回路モニタ　・システムモニタ ・特殊ユニットモニタ　・ネットワークモニタ　・リスト編集 ・モーションモニタ　・サーボアンプモニタ　・CNCモニタ ・かな漢字変換　・文字フォント切換え　・システムダイアログ言語切換え (別売)	SH-080516 (1D7M20)	¥3,000

A－8

本マニュアルで使用する略称，総称

本マニュアルの説明で使用している略称，総称，用語について下記に示します。

略称／総称		内　容
ソフトウェア	GT Works2 Version2	SW2D5C-GTWK2-J形ソフトウェアパッケージの総称
	GT Designer2 Version2	SW2D5C-GTD2-J形ソフトウェアパッケージの総称
	GT Designer2	GOT900用画面作成ソフトGT Designer2の略称
	GT Simulator2	GOT900用スクリーンシュミレータGT Simulator2の略称
	GT Converter	GOT900用データ変換ソフトGT Converterの略称
	GT SoftGOT2	モニタリングソフトGT SoftGOT2の略称
	GX Developer	SW□D5C-GPPW(-V)/SW□D5F-GPPW(-V)形ソフトウェアパッケージの総称
	Acrobat Reader	Adobe Acrobat Readerの略称
CPU	QCPU (Qモード)	Q00JCPU，Q00CPU，Q01CPU，Q02CPU，Q02HCPU，Q06HCPU，Q12HCPU，Q25HCPU，Q12PHCPU，Q25PHCPU，Q12PRHCPU，Q25PRHCPUの総称
	QCPU (Aモード)	Q02CPU-A，Q02HCPU-A，Q06HCPU-Aの総称
	QCPU	QCPU (Qモード)，QCPU (Aモード) の総称
	QnACPUタイプ	Q2ACPU，Q2ACPU-S1，Q3ACPU，Q4ACPU，Q4ARCPUの総称
	QnASCPUタイプ	Q2ASCPU，Q2ASCPU-S1，　Q2ASHCPU，Q2ASHCPU-S1の総称
	QnACPU	QnACPUタイプ，QnASCPUタイプの総称
	AnUCPU	A2UCPU，A2UCPU-S1，A3UCPU，A4UCPUの総称
	AnACPU	A2ACPU，A2ACPU-S1，A3ACPUの総称
	AnNCPU	A1NCPU，A2NCPU，A2NCPU-S1，A3NCPUの総称
	AnCPUタイプ	AnUCPU，AnACPU，AnNCPUの総称
	A2US(H)CPU	A2USCPU，A2USCPU-S1，A2USHCPU-S1の総称
	AnS(H)CPU	A1SCPU，A1SCPU-S1，A1SHCPU，A1SCPUC24-R2，A2SCPU，A2SHCPUの総称
	A1SJ(H)CPU	A1SJCPU，A1SJCPU-S3，A1SJHCPUの総称
	AnSCPUタイプ	A2US(H)CPU，AnS(H)CPU，A1SJ(H)CPUの総称
	ACPU	AnCPUタイプ，AnSCPUタイプ，A1FXCPUの総称
	FXCPU	FX_0シリーズ，FX_{0N}シリーズ，FX_{0S}シリーズ，FX_1シリーズ，FX_{1N}シリーズ，FX_{1NC}シリーズ，FX_{1S}シリーズ，FX_2シリーズ，FX_{2C}シリーズ，FX_{2N}シリーズ，FX_{2NC}シリーズ，FX_{3UC}シリーズの総称
	モーション コントローラCPU	A273UHCPU，A171SHCPU，A172SHCPU，A173UHCPU，A173UHCPU-S1の総称
	FAコントローラ	LM610，LM7600，LM8000の総称
	MELDAS C6/C64	FCA C6，FCA C64の総称
Ethernetユニット	E71	AJ71E71-S3，A1SJ71E71-B2-S3，A1SJ71E71-B5-S3，AJ71E71N-B2，AJ71E71N-B5T，A1SJ71E71N-B2，A1SJ71E71N-B5T，A1SJ71E71N3-Tの総称
	QE71	AJ71QE71，A1SJ71QE71-B2，AJ71QE71-B5，A1SJ71QE71-B5，AJ71QE71N-B2，AJ71QE71N-B5T，A1SJ71QE71N-B2，A1SJ71QE71N-B5T，A1SJ71QE71N3-Tの総称
	Qシリーズ対応E71	QJ71E71，QJ71E71-B2，QJ71E71-100の総称

A - 9

略称／総称		内　容
他社 シーケンサ	オムロン社製 シーケンサ	C200HS, C200H, C200HX, C200HG, C200HE, CQM1, C1000H, C2000H, CV500, CV1000, CV2000, CVM1-CPU01, CVM1-CPU11, CVM1-CPU21, CS1, CS1D, CJ1H, CJ1G, CJ1M, CPM1, CPM1A, CPM2A, CPM2Cの総称
	安川電機社製 シーケンサ	GL60S, GL60H, GL70H, GL120, GL130, CP-9200SH, CP-9300MS, MP-920, MP-930, MP-940, MP-9200(H), PROGIC-8の総称
	SLC500シリーズ	SLC500-20, SLC500-30, SLC500-40, SLC5/01, SLC5/02, SLC5/03, SLC5/04, SLC5/05の総称
	MicroLogix1000 シリーズ	1761-L10BWA, 1761-L10BWB, 1761-L16AWA, 1761-L16BWA, 1761-L16BWB, 1761-L16BBB, 1761-L32AWA, 1761-L32BWA, 1761-L32BWB, 1761-L32BBB, 1761-L32AAA, 1761-L20AWA-5A, 1761-L20BWA-5A, 1761-L20BWB-5Aの総称
	MicroLogix1500 シリーズ	1764-LSPの略称
	Allen-Bradley社製 シーケンサ	SLC500シリーズ, MicroLogix1000シリーズ, MicroLogix1500シリーズの総称
	シャープ社製 シーケンサ	JW-21CU, JW-22CU, JW-31CUH, JW-32CUH, JW-33CUH, JW-50CUH, JW-70CUH, JW-100CU, JW-100CUH, Z-512Jの総称
	PROSEC Tシリーズ	T2 (PU224タイプ) , T2E, T2N, T3, T3Hの総称
	PROSEC Vシリーズ	S2T, Model3000(S3)の略称
	東芝社製シーケンサ	PROSEC Tシリーズ, PROSEC Vシリーズの総称
	SIEMENS社製 シーケンサ	SIMATIC S7-300シリーズ, SIMATIC S7-400シリーズの総称
	大型Hシリーズ	H-302(CPU2-03H), H-702(CPU2-07H), H-1002(CPU2-10H), H-2002(CPU2-20H), H-4010(CPU3-40H), H-300(CPU-03Ha), H-700(CPU-07Ha), H-2000(CPU-20Ha)の総称
	H-200～252シリーズ	H-200(CPU-02H, CPE-02H), H-250(CPU21-02H), H-252(CPU22-02H), H-252B(CPU22-02HB), H-252C(CPU22-02HC, CPE22-02HC)の総称
	Hシリーズ ボードタイプ	H-20DR, H-28DR, H-40DR, H-64DR, H-20DT, H-28DT, H-40DT, H-64DT, HL-40DR, HL-64DRの総称
	EH-150シリーズ	EH-CPU104, EH-CPU208, EH-CPU308, EH-CPU316の総称
	日立製作所製 シーケンサ (HIDEC Hシリーズ)	大型Hシリーズ, H-200～252シリーズ, Hシリーズボードタイプ, EH-150シリーズの総称
	松下電工社製シーケンサ	FP0-C16CT, FP0-C32CT, FP1-C24C, FP1-C40C, FP2, FP2SH, FP3, FP5, FP10(S), FP10SH, FP-M(C20TC), FP-M(C32TC)の総称
その他	内蔵メモリ	GOTに内蔵されているメモリ（フラッシュROM）の略称
	OS	GOTシステムソフトウェアの略称
	オブジェクト	動画となる設定データ
	ライセンスキー	A9GTSOFT-LKEY-P形ライセンスキー（DOS/Vパソコン用）の略称。
	ライセンスキーFD	SW5D5F-SGLKEY-J（パソコンCPUユニット用ライセンス登録パッケージ）の略称。
	DOS/Vパソコン	IBM PC/ATおよび互換機のDOS/V対応のパソコン。（PC98-NX® を含む）
	パソコンCPUユニット	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応のパソコンCPUユニットの略称。
	パソコン	DOS/Vパソコン及びAT互換パソコンCPUユニットの総称。

＊ 本マニュアルでは，下記の製品を新しい名称で記載しています。

旧名称	新名称	備　考
GPPW	GX Developer	SW□D5C-GPPW(-V)/SW□D5F-GPPW(-V)形ソフトウェアパッケージの略称

A - 10

第1章 概　　要

本マニュアルは，モニタリングソフトウェアGT SoftGOT2（以下GT SoftGOT2と略します。）のシステム構成，仕様，画面構成，操作方法などについて説明したものです。

GT SoftGOT2はGOT-A900シリーズと同等の機能を持っており，ランプ表示，データ表示，メッセージ表示などをパソコンやパネコン上で実行することができるソフトウェアです。

なお，本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は，対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証してください。

ポイント

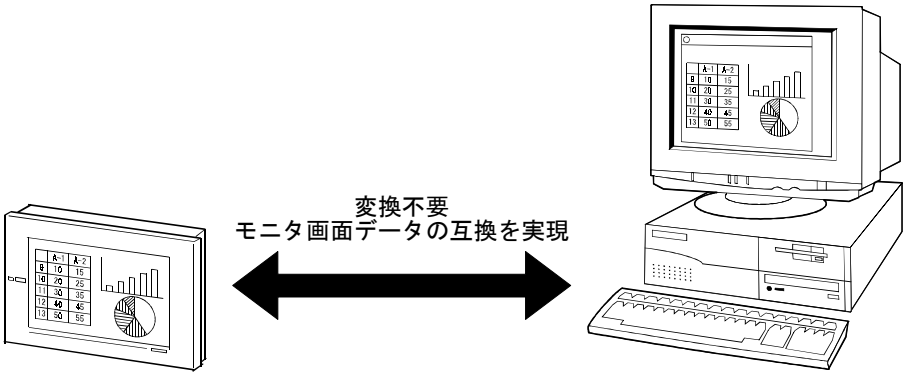
GT SoftGOT2のインストール方法，起動方法についてはGT Works2 Version□/GT Designer Version□オペレーティングマニュアル（スタートアップ・入門編）を参照してください。

1.1 特　　長

(1) GOT-A900シリーズで使用していたモニタ画面データがそのまま使用できます。

GT SoftGOT2で使用するモニタ画面データはGT Designer2で作成したものを使用しますので，GOT-A900シリーズで使用しているモニタ画面データをそのまま使用することができます。

GOTと同一画面，同一操作性を実現していますので，オペレータや保全者に違和感や混乱を与えることもありません。



(2) さまざまな画面サイズに対応

GT SoftGOT2ではXGA（1024×768ドット：15型相当），SXGA（1280×1024ドット：18型相当）に対応していますので，従来よりも詳細な画面設計が可能になります。また，A97*GOT（640×480ドット：10型相当），A985GOT（800×600ドット：12型相当）と同様の画面サイズを使用することも可能ですので，画面サイズを用途に応じて選択できます。

備　　考

GT SoftGOT2では，GT Designer，GT Designer2両方のモニタデータが使用できます。

1

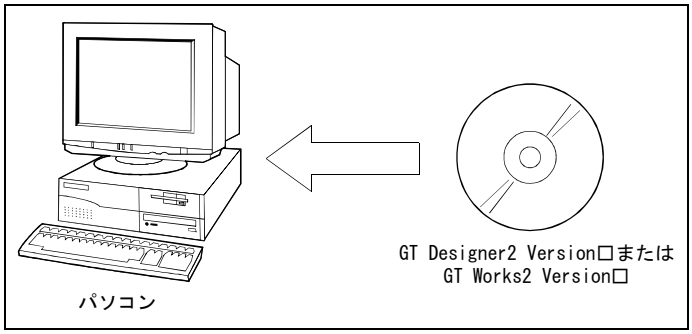
メ　モ

1 - 2

第２章　システム構成

2.1　GT SoftGOT2インストール時のシステム構成

2.1.1　システム構成



2.1.2　動作環境

GT SoftGOT2の動作環境を下記に示します。

項　　目	DOS/Vパソコン使用時	パソコンCPUユニット使用時
パソコン	Windows® が動作するパソコン	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニット
OS	Microsoft® Windows® 98 operating system Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 operating system*1*2 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system*2 Microsoft® Windows® XP Professional operating system*2*3 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system*2*3	WindowsNT® Workstation 4.0*1, Windows® 2000
コンピュータ本体 CPU 必要メモリ	次ページの「使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能」を参照。	
ハードディスク空き容量	インストール時：200MB以上 動作時　　：100MB以上*4	
ディスクドライブ	CD-ROMディスクドライブ	3.5インチ(1.44MB)フロッピーディスクドライブ CD-ROMディスクドライブ
表示色	256色	
ディスプレイ	解像度800×600ドット以上（全画面表示機能時は640×480ドット以上）	
必要ソフトウェア	GT Designer Version5 D版以降またはGT Designer2	
必要ライセンスキー／ ライセンスキーFD	A9GTSOFT-LKEY-P*5	SW5D5F-SGLKEY-J

＊1　Windows NT® Workstation4.0はService Pack 3以上がインストールされているものを使用してください。
＊2　WindowsNT® Workstation4.0, Windows® 2000 Professional, Windows® XP Professional, Windows® XP Home EditionにGT SoftGOT2をインストールする場合，administratorの権限が必要です。
　　また，Windows® XP Professional, Windows® XP Home EditionでGT SoftGOT2を使用する場合，administratorの権限が必要です。
＊3　「互換性モード」，「ユーザの簡易切り換え」，「デスクトップテーマ（フォント）の変更」はサポートしていません。
＊4　GT SoftGOT2複数起動時は，“起動しているGT SoftGOT2×100”MB必要になります。
　　また，モニタ画面データのサイズ（容量）が大きい場合，200MB以上必要になる場合があります。
＊5　A9GTSOFT-LKEY-Pを使用する場合，DOS/Vパソコンにパラレルポート（セントロ／プリンタコネクタ）が必要です。

2

使用する基本ソフトウェアとパソコン本体に必要な性能

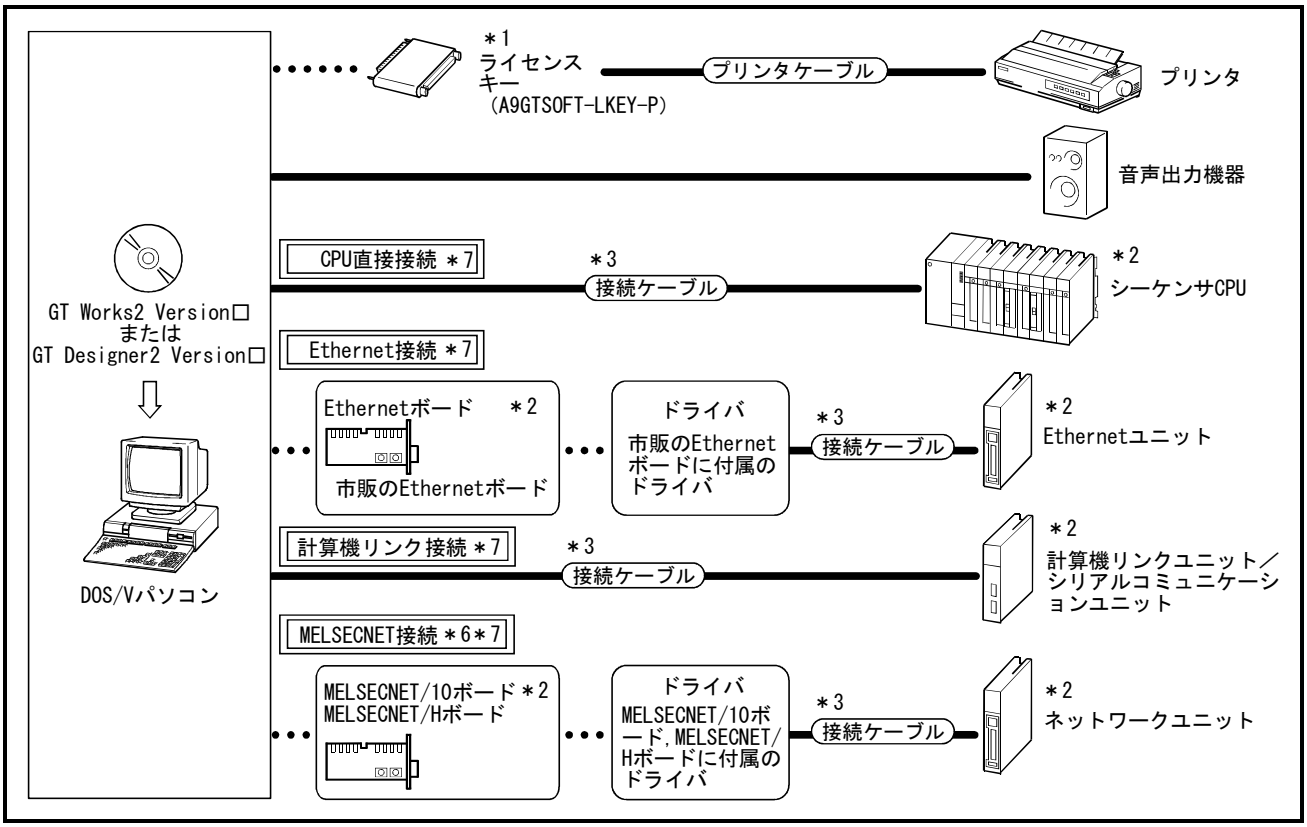
基本ソフトウェア	パソコン本体に必要な性能		
	CPU	必要メモリ	
		GT SoftGOT2のみ	GX Developer 同時使用時, GT SoftGOT2 複数起動時
Microsoft® Windows® 98 operating system	Pentium® 200MHz以上 (Pentium Ⅱ® 300MHz以上推奨)	64MB以上 (96MB以上推奨)	96MB以上 (128MB以上推奨)
Microsoft® Windows® Me operating system	Pentium® 200MHz以上 (Pentium Ⅱ® 300MHz以上推奨)	64MB以上 (96MB以上推奨)	96MB以上 (128MB以上推奨)
Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 operating system	Pentium® 200MHz以上 (Pentium Ⅱ® 300MHz以上推奨)	64MB以上 (96MB以上推奨)	96MB以上 (128MB以上推奨)
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Pentium® 200MHz以上 (Pentium Ⅱ® 300MHz以上推奨)	64MB以上 (96MB以上推奨)	96MB以上 (128MB以上推奨)
Microsoft® Windows® XP Professional operating system Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system	Pentium Ⅱ® 300MHz以上 (Pentium Ⅱ® 450MHz以上推奨)	128MB以上 (192MB以上推奨)	128MB以上 (192MB以上推奨)

ポイント

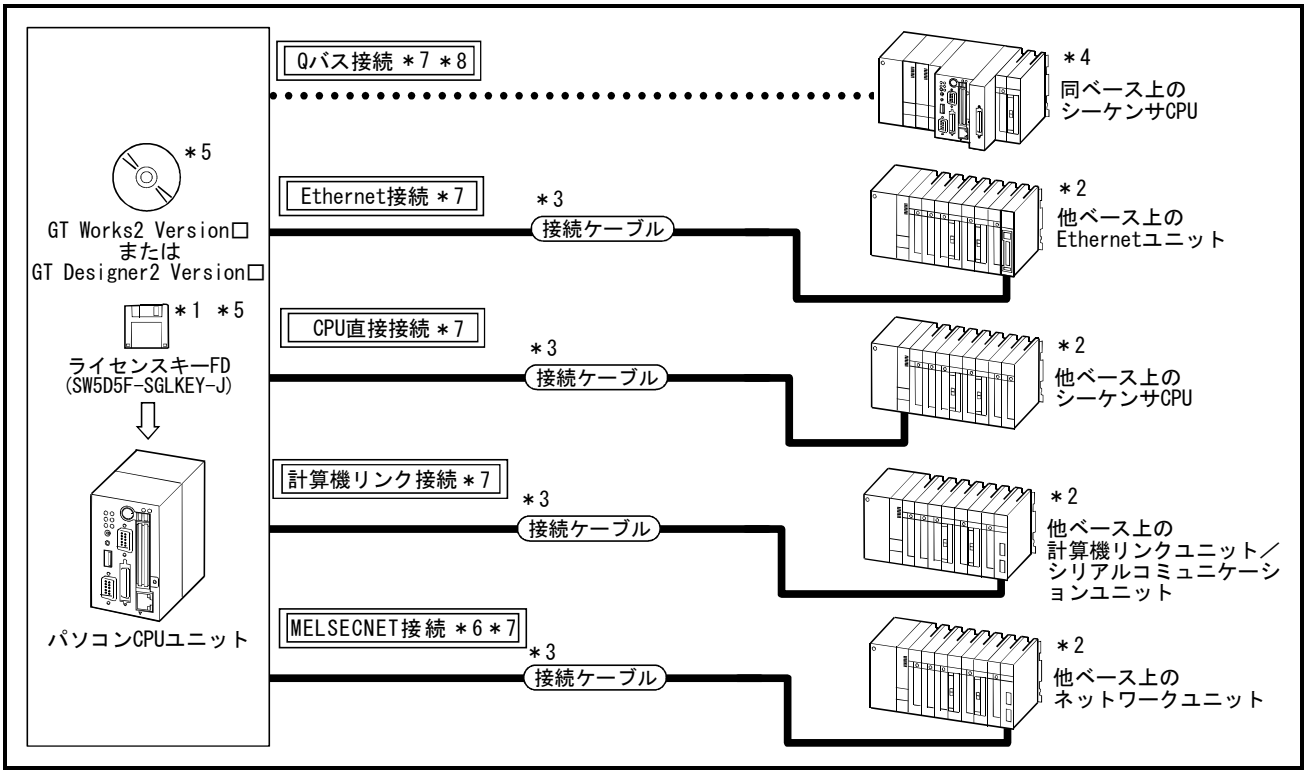
・ Windows® のコントロールパネル内の地域設定を“日本語”以外に設定した場合，本ソフトウェアは起動しませんので，必ず“日本語”に設定してください。
・ 使用するDOS/Vパソコンについて
ご使用となるDOS/Vパソコンは，弊社にて動作確認済みのDOS/Vパソコンをお使いになることをお薦め致します。
動作確認済みの機種は別資料の「GOT900シリーズ用動作確認機器一覧」(PLC-D-318)に記載しています。
必要な場合は，最寄りの各支社にお問い合わせください。
上記テクニカルニュースは三菱電機FA機器技術情報サービスMELFANSwebホームページでも参照することができます。
(MELFANSwebホームページ：http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb)

2.2　GT SoftGOT2実行時のシステム構成

(1) DOS/VパソコンでGT SoftGOT2を使用する場合



(2) パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合



＊1 ライセンスキー／ライセンスキーFDが必要な場合は，最寄りの支社，代理店にお問い合わせください。
＊2 使用できるユニットについては2.3節を参照してください。
＊3 接続するケーブルについては2.4節を参照してください。
＊4 Qバス接続を行う場合，パソコンCPUユニットの「パソコンCPU設定ユーティリティ」はVersion1.02以降のものを使用してください。（パソコンCPU設定ユーティリティのバージョンは，「バージョン情報」に表示されます。）
＊5 GT SoftGOT2やライセンスキーFDをパソコンCPUユニットにインストールする場合，パソコンCPUユニット専用のCD-ROMドライブ，FDドライブが必要になります。
パソコンCPUユニットおよび，パソコンCPUユニット関連製品のご購入に関しては，株式会社コンテックまでお問い合わせください。
＊6 MELSECNET(Ⅱ)/B接続はできません。
＊7 各CPUで使用できる接続形態については，2.3.1項の(2)を参照してください。
＊8 Qバス接続では，マルチCPUシステム構成時，パソコンCPUユニットから他号機のCPUにアクセスできます。

2.3 GT SoftGOT2と接続できるユニット

2.3.1 接続できるシーケンサCPU

(1) 適応CPU一覧

GT SoftGOT2（パソコン）と接続可能なシーケンサCPUを下記に示します。

種　類		形　名
QCPU	QCPU（Qモード）	Q00JCPU, Q00CPU, Q01CPU, Q02CPU, Q02HCPU, Q06HCPU, Q12HCPU, Q25HCPU, Q12PHCPU, Q25PHCPU, Q12PRHCPU, Q25PRHCPU
	QCPU（Aモード）	Q02CPU-A, Q02HCPU-A, Q06HCPU-A
QnACPU	QnACPUタイプ	Q2ACPU(S1), Q3ACPU, Q4ACPU, Q4ARCPU
	QnASCPUタイプ	Q2ASCPU(S1), Q2ASHCPU(S1)
ACPU	ACPU（大形）	A2UCPU(S1), A3UCPU, A4UCPU, A2ACPU(S1), A3ACPU, A1NCPU, A2NCPU(S1), A3NCPU （AnN(S1)のリンク付きはバージョンL以降，リンクなしはバージョンH以降）
	ACPU（小形）	A2USCPU(S1), A2USHCPU-S1, A1SCPU, A1SHCPU, A1SCPUC24-R2, A2SCPU(バージョンC以降)，A2SHCPU, A1SJCPU(S3), A1SJHCPU, A0J2HCPU(バージョンE以降), A2CCPU(バージョンH以降), A2CCPUC24, A2CJCPU
		A1FXCPU
モーションコントローラCPU（Aシリーズ）*5		A171SHCPU*1, A172SHCPU*2, A173UHCPU(S1)*3，A273UHCPU(S3)*3
FXCPU		FX_0, FX_{0N}, FX_{0S}, FX_1, FX_{1N}, FX_{1NC}, FX_{1S}, FX_2, FX_{2C}, FX_{2N}, FX_{2NC}, FX_{3UC}*4
MELDAS C6/C64		FCA C6, FCA C64

*1 A1SHCPUの範囲でのみモニタ可能です。
*2 A2SHCPUの範囲でのみモニタ可能です。
*3 A3UCPUの範囲でのみモニタ可能です。
*4 FX_{2N}のデバイス範囲でのみモニタ可能です。
*5 モーションコントローラCPUとGT SoftGOT2を接続する場合，他のMELSOFT（GTシリーズをのぞく）製品を同時に使用しないでください。
使用した場合，モーションコントローラCPUとGT SoftGOT2が，正常に通信できない場合があります。

(2) 各シーケンサCPUでモニタできる接続形態

GT SoftGOT2でモニタできるシーケンサCPUは，モニタするシーケンサCPUまでのシステム（接続形態）により変化します。
GT SoftGOT2でモニタできるシーケンサCPUを接続形態ごとに示します。

○：接続可　×：接続不可　△：一部制約あり

モニタするシーケンサCPU		Qバス接続	CPU直接接続	計算機リンク接続	Ethernet接続	MELSECNET接続			CC-Link接続		
						ネットワークシステム		データリンクシステム	インテリジェントデバイス局	リモートデバイス局	G4経由
						MELSECNET/H	MELSECNET/10	MELSECNET/B,(II)			
QCPU (Qモード)	二重化システム以外	△*1*2	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	二重化システム	×	○*6	×	×	○*3	○*3	×	×	×	×
	MELSECNET/Hネットワークシステム リモートI/O局（ネットワークシステム）	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
QCPU（Aモード）		×	○	○	○	○	○	×	×	×	×
QnACPU		×	○	○	○	○	○	×	×	×	×
ACPU		×	○	△*4	△*5	△*5	△*5	×	×	×	×
FXCPU		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
MELDAS C6/C64		×	○	×	○	×	×	×	×	×	×
モーションコントローラCPU (Qシリーズ)		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
モーションコントローラCPU (Aシリーズ)		×	○	○	○	○	○	×	×	×	×
他社シーケンサ		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
マイコン		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

＊1 Q00CPU，Q00JCPU，Q01CPUのQバス接続は，機能バージョンB以降のみ対応しています。
＊2 Qバス接続時，マルチCPUシステムに対応しているQCPUのみモニタ可能となります。
＊3 MELSECNET/Hボードを使用してください。(MELSECNET/HモードおよびMELSECNET/10モードで使用できます。)
MELSECNET/10ボードは使用できません。
＊4 A0J2-C214-S3，A2CCPU，A2CJCPU，A1FXCPUの計算機リンク接続はできません。
＊5 A2CCPUC24，A2CJCPU，A1FXCPUのEthernet接続，MELSECNET/H接続，MELSECNET/10接続はできません。
＊6 二重化システムのCPUユニットにCPU直接接続した場合は，系切替えに自動追従できません。
2台のGOTを制御系および待機系の各CPUユニットに接続してモニタしてください。（1台のGOTでモニタする場合，系切替えが発生すると制御系のCPUユニットへケーブルを差し替える必要があります。）

2.3.2　接続できるEthernetユニット，Ethernetボード／カード

(1) Ethernetユニット

GT SoftGOT2と接続可能なEthernetユニットを下記に示します。

種　　類	形　　名			接続CPU
Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-100	QJ71E71-B2,	QJ71E71-B5,	QCPU (Qモード)
QE71	AJ71QE71, AJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71N-B2,	AJ71QE71-B5, AJ71QE71N-B5, A1SJ71QE71-B5, A1SJ71QE71N-B5,	AJ71QE71N-T, AJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N-T, A1SJ71QE71N-B5T	QnACPU
E71*1,2	AJ71E71-S3, AJ71E71N-T, AJ71E71N-B5T, A1SJ71E71N-B5,	A1SJ71E71-B2-S3, AJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-T, A1SJ71E71N-B5T	A1SJ71E71-B5-S3, AJ71E71N-B5, A1SJ71E71N-B2,	QCPU (Aモード) , ACPU
FCU6-EX875	FCU6-EX875			MELDAS C6/C64

＊1 AnAの範囲でのみモニタ可能です。

＊2 GT SoftGOT2では， AJ71E71，A1SJ71E71-B2，A1SJ71E71-B5は接続できません。

(2) Ethernetボード／カード

弊社で動作確認したDOS/Vパソコンで使用可能なEthernetボード／カードを下記に示します。

メーカ名	形　　名	備　　考
3COM社製	EthernetLinkⅢ LAN PC Card	Ethernetボード／カード
アライドテレシス社製	CenterCOM LA-PCM Ethernet PC Card LAN Adapter	
	RE2000(ISA)	Ethernetボード

ポイント

パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合，パソコンCPUユニットに標準装備のEthernetユニット通信ポートよりアクセスを行います。

2.3.3　接続できる計算機リンクユニット，シリアルコミュニケーションユニット

GT SoftGOT2と接続可能な計算機リンクユニット，シリアルコミュニケーションユニットを下記に示します。

RS-422通信による接続は行えません。

種類	RS-232C通信時
MELSEC-Qシリーズ(Qモード)使用時	QJ71C24(-R2), QJ71C24N(-R2), QJ71CMO
MELSEC-Qシリーズ(Aモード)使用時	A1SJ71C24-R2, A1SJ71UC24-R2
MELSEC-QnAシリーズ使用時	AJ71QC24(-R2), AJ71QC24N(-R2), A1SJ71QC24(-R2), A1SJ71QC24N(-R2)
MELSEC-Aシリーズ使用時	AJ71C24-S8, AJ71UC24, A1SJ71C24-R2, A1SJ71C24-PRF, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-PRF, A1SCPUC24-R2, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF

2.3.4　接続できるネットワークユニット，ネットワークボード

(1) ネットワークユニット

GT SoftGOT2と接続可能なネットワークユニットを下記に示します。

種　　類	形　　名	ドライバ	対応OS
MELSECNET/H	QJ71LP21,QJ71LP21G,QJ71LP21-25, QJ71LP21S-25,QJ71BR11	PPC-DRV-01	WindowsNT® Workstation 4.0, Windows® 2000 Professional

(2) ネットワークボード

GT SoftGOT2と接続可能なネットワークボードを下記に示します。

種　　類	形　　名	バス 形式	ドライバ	対応OS
MELSECNET/10	A70BD-J71QLP23,A70BD-J71QLP23G, A70BD-J71QLR23G,A70BD-J71QBR13	ISA	SW3DNF-MNET10	Windows® 98, WindowsNT® Workstation 4.0
MELSECNET/H	Q80BD-J71BR11,Q80BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21G	PCI	SW0DNC-MNETH-B	Windows® 98, WindowsNT® Workstation 4.0, Windows® 2000 Professional, Windows® XP Professional

2.4　ケーブルについて

2.4.1　CPU直接接続時に使用する変換器／ケーブル

弊社で動作確認したケーブル/変換器を下記に示します。

(1) QCPUの場合

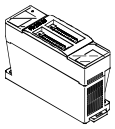
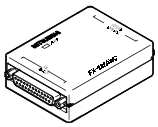
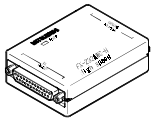
(a) 三菱電機製を使用する場合

RS-232ケーブル
 QC30R2（パソコンのコネクタがDサブ9ピン）

・GT SoftGOT2とQCPUのUSB通信はできません。
（USB通信した場合，通信回線の確認メッセージ「通信回線をチェックしてください」が表示されます。）

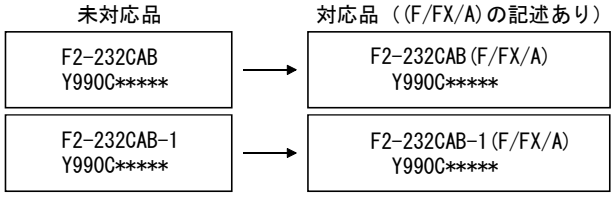
(2) QnACPU,ACPU,モーションコントローラCPU,FXCPUの場合

(a) 三菱電機製を使用する場合

パソコン側（RS-232ケーブル）	RS-232/RS-422変換器	シーケンサCPU側（RS-422ケーブル）
 F2-232CAB （パソコンのコネクタがDサブ25ピンの場合）	 FX-232AW	QnACPU,ACPU,モーションコントローラCPU,FX1/FX2/FX2CCPUの場合  FX-422CAB（0.3m） FX-422CAB-150（1.5m）
 F2-232CAB-1 （パソコンのコネクタがDサブ9ピンの場合）		
 F2-232CAB-2 （パソコンのコネクタがハーフピッチ場合）	 FX-232AWC	FX0/FX0S/FX0N/FX1S/FX1N/FX2N/FX2NC/FX3UCCPUの場合  FX-422CAB0（1.5m）
 AC30N2A(25pin—25pin) （NEC PC-9800,DOS/V機に使用する場合は，9pin—25pinストレート変換ケーブルが必要です。）	 FX-232AWC-H （FXシリーズのみ）	

・FX3UCにFX-232AWC-Hを用いて接続した場合は，伝送速度9.6kbps,19.2kbps,38.4kbps,57.6kbps,115.2kbpsをご使用できます。
FX-232AWC,FX-232AWで接続した場合は，伝送速度9.6kbps,19.2kbpsどちらかを選択してください。

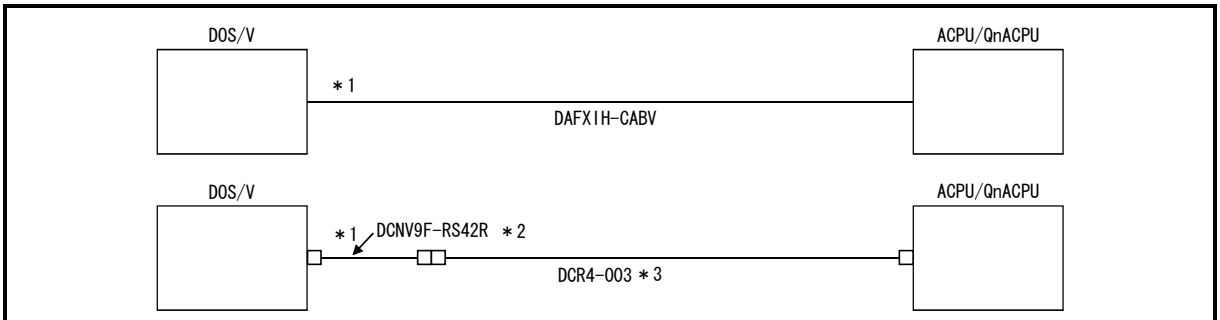
・ F2-232CAB，F2-232CAB-1ケーブルを使用する場合，対応品を使用してください。
未対応品は使用することができません。
対応品は，ケーブルに付いている形名ラベルの表示方法で確認してください。



(b) ダイヤトレンド製を使用する場合

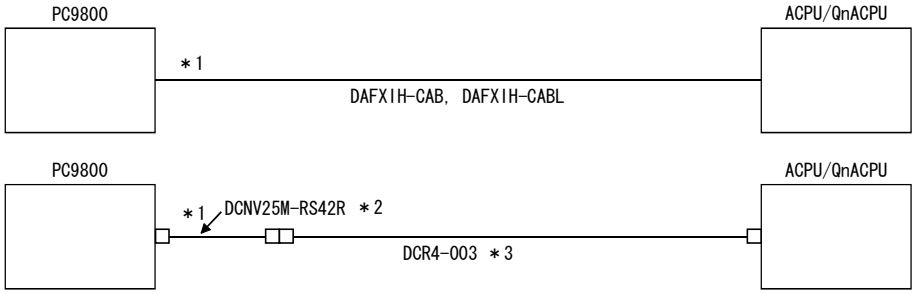
・ダイヤトレンド株式会社
〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場2-2-14
TEL(06)4705-2100　FAX(06)4705-2101

DAFXIH-CABV，DCNV9F-RS42RによるDOS/Vパソコン←→ACPU/QnACPU間の接続例



＊1： 上図に示すDOS/Vパソコン←→ACPU/QnACPU接続用変換ケーブル
DAFXIH-CABV （Dサブ9ピン←→Dサブ25ピン）
DCNV9F-RS42R（Dサブ9ピン←→Dサブ25ピン）
＊2： DCNV9F-RS42Rをご使用になる場合には，必ずシーケンサシステムのFGを接地してください。
＊3： DCR4-003（Dサブ25ピン←→Dサブ25ピン）のケーブル長は，3m以内で使用してください。

DAFXIH-CAB，DAFXIH-CABL，DCNV25M-RS42RによるPC9800←→ACPU/QnACPU間の接続例

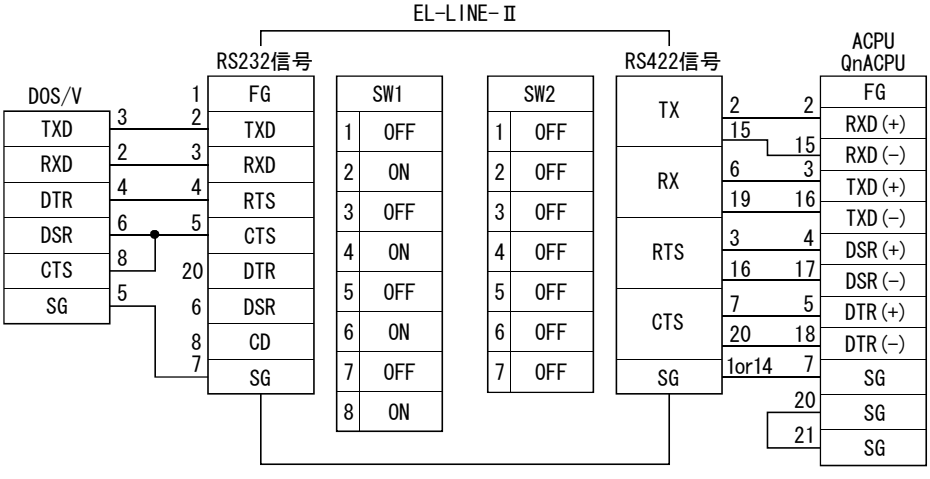


＊1： PC9800本体のRS-232コネクタの形状により，ハーフピッチ←→Dサブ25ピンのストレート変換ケーブル（コネクタ）が別途必要になる場合があります。
ご使用のPC9800取扱説明書の指示に従い，必要に応じて変換ケーブルをご用意ください。
（上図に示すPC9800←→ACPU/QnACPU接続用変換ケーブル）
DAFXIH-CAB　（Dサブ25ピン←→Dサブ25ピン）
DAFXIH-CABL　（ハーフピッチ←→Dサブ25ピン）
DCNV25M-RS42R（Dサブ25ピン←→Dサブ25ピン）
＊2： DCNV25M-RS42Rをご使用になる場合には，必ずシーケンサシステムのFGを接地してください。
＊3： DCR4-003（Dサブ25ピン←→Dサブ25ピン）のケーブル長は，3m以内で使用してください。

(c) エル・エンジニアリング製を使用する場合

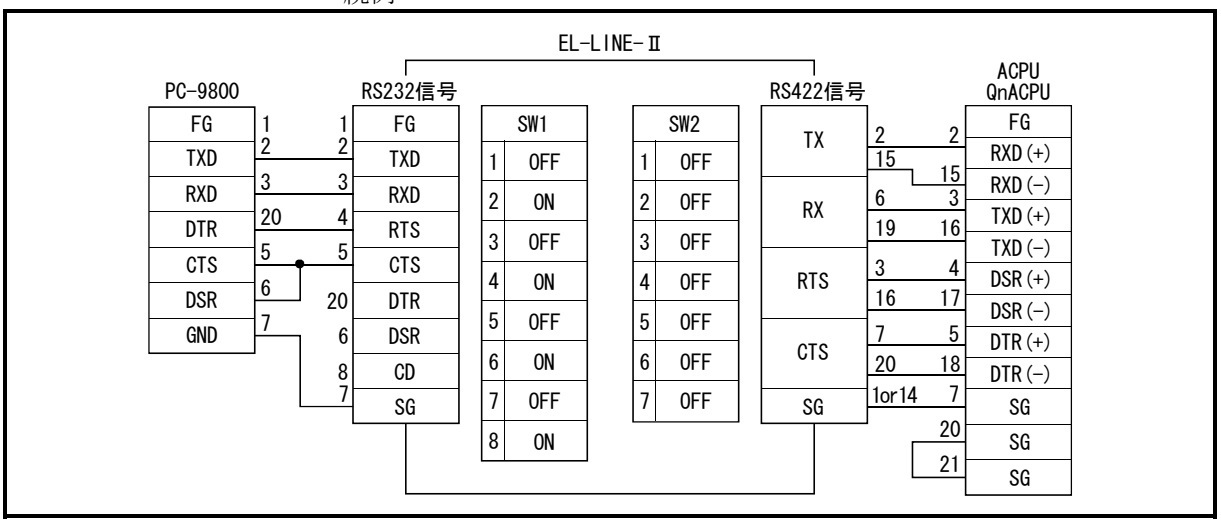
・有限会社エル・エンジニアリング
〒454-0805 愛知県名古屋市中川区船戸町7番16号
TEL(052)361-2290　FAX(052)363-1050

EL-LINE-ⅡによるDOS/Vパソコン（Dサブ9ピン）←→ACPU/QnACPU間の接続例



ACPU/QnACPU側に接続するコネクタは，DDK製17JE-23250-02相当品を使用してください。

EL-LINE-ⅡによるPC9800シリーズ（Dサブ25ピン）←→ACPU/QnACPU間の接続例

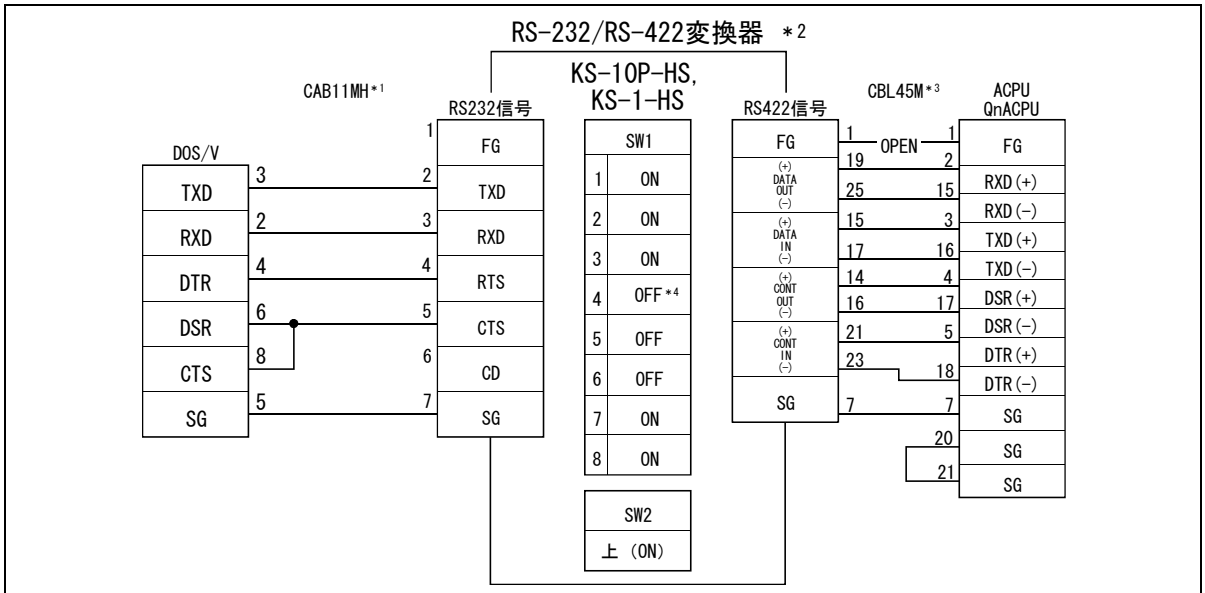


ACPU/QnACPU側に接続するコネクタは，DDK製17JE-23250-02相当品を使用してください。

(d) システムサコム製を使用する場合

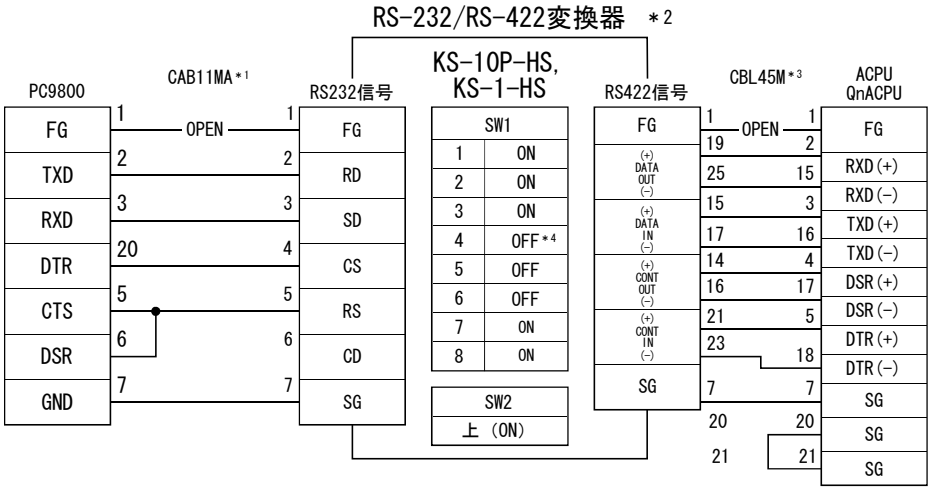
株式会社システムサコム販売
〒103-0002　東京都中央区日本橋馬喰1-6-6
TEL(03)5623-5933　　FAX(03)3660-0891

・KS-10P-HS,KS-1-HSによるDOS/Vパソコン（Dサブ9pin）←→ACPU/QnACPU間の接続例



*1：上図に示すDOS/Vパソコン←→変換器接続用RS-232ケーブル
　　CAB11MH（Dサブ9ピン←→Dサブ25ピン）
*2：KS-10P-HSをご使用になる場合には，必ずシーケンサシステムのFGを接地してください。
*3：CBL45Mのケーブル長は，3m以内で使用してください。
*4：KS-1-HSの場合，DIPスイッチSW1-4はONにします。

・KS-10P-HS,KS-1-HSによるPC-9800®シリーズ（Dサブ25pin）←→ACPU/QnACPU間の接続例



*1：PC9800本体のRS-232コネクタの形状により，ハーフピッチ←→Dサブ25Pのストレート変換ケーブル（コネクタ）が別途必要になる場合があります。
ご使用のPC9800取扱説明書の指示に従い，必要に応じて変換ケーブルをご用意ください。
（上図に示すPC9800←→変換器接続用RS-232ケーブル）
CAB11MA（Dサブ25ピン←→Dサブ25ピン）
*2：KS-10P-HSをご使用になる場合には，必ずシーケンサシステムのFGを接地してください。
*3：CBL45Mのケーブル長は，3m以内で使用してください。
*4：KS-1-HSの場合，DIPスイッチSW1-4はONにします。

ポイント

・RS-422インタフェース変換ケーブル・変換器は，仕様や注意事項などについて各製品のマニュアルをよくお読みいただき，正しい取り扱いをしていただきますようお願いいたします。
・RS-422インタフェースからDC5V電源を受電する変換ケーブル・変換器を抜き差しする場合は，シーケンサCPUユニット側の電源をOFFしてから操作するようにしてください。
・RS-422インタフェースからDC5V電源を受電しない（外部電源より受給する）周辺機器，および変換ケーブルを抜き差しする場合も，作業前には必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて，ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電し，その後に下記操作手順にてお取り扱い願います。
① パソコン側の電源をOFFする。
② 変換ケーブル・変換器の電源をOFFする。FG端子がある場合は接地する。
③ パソコンとシーケンサ間の変換ケーブル・変換器を抜き差しする。
④ 変換ケーブル・変換器の電源をONする。
⑤ パソコンの電源をONする。
⑥ ソフトウェアパッケージを立ち上げる。

(3) MELDAS C6/C64の場合

GT SoftGOT2とMELDAS C6/C64を接続する場合，MELDAS C6/C64のコミュニケーションターミナル接続用コネクタ（TERMINAL）に変換ケーブルを使用して接続します。
変換ケーブルは，下記の接続図を参照してユーザにて作成してください。
詳細は，使用するMELDAS C6/C64のマニュアルを参照してください。

(a) 変換ケーブルの接続図

MELDAS C6/C64（TERMINAL）側 (20pin ハーフピッチ)		ケーブル接続と信号方向	パソコン（GT SoftGOT2）側 (9pin D-SUB)
信号名	ピン番号		信号名
GND	1	←→	GND
	2	→	RD
	3	←	SD
	5	←→	GND
SD	6	→	DR(DSR)
	8	←→	CS(CTS)
GND	11	←	
RD	16	←	
ER(DTR)	18	→	

(b) 適合コネクタ・コネクタカバー

① MELDAS C6/C64側

コネクタ	10120-3000VE（住友3M製）
コネクタカバー	10320-52F0-008（住友3M製）

② パソコン側

パソコンに対応するコネクタを使用してください。

(c) 変換ケーブル作成時の注意事項

変換ケーブルの長さは，15m以内で作成してください。

備　考

・GT SoftGOT2で使用する変換器／ケーブルはGX Developerで使用する変換器／ケーブルと同一です。
・GT SoftGOT2をパソコンCPUユニットで使用する場合は，DOS/Vパソコンで使用する変換器／ケーブルと同一のものが使用可能です。

2.4.2 Ethernet接続時に使用するケーブル

Ethernet接続時に使用するケーブルは，使用するEthernetユニットとEthernetボード／カードに対応したケーブルを使用してください。

2.4.3　計算機リンク接続時に使用するケーブル

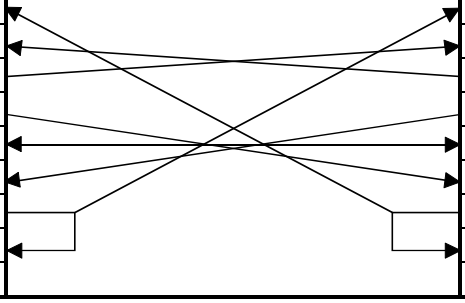
GT SoftGOT2と計算機リンクユニット／シリアルコミュニケーションユニットを接続するRS-232Cケーブルはユーザにて作成する必要があります。
各ケーブルの接続図を下記に示します。

(1) Qシリーズの場合

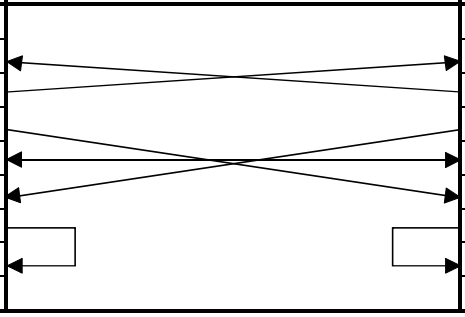
コネクタ仕様を下記に示します。

ピン番号	信号名	信号名称	信号方向 Q対応C24 ↔ GT SoftGOT2
1	CD	受信キャリア検出	←
2	RD(RXD)	受信データ	←
3	SD(TXD)	送信データ	→
4	DTR(ER)	データターミナルレディ	→
5	SG	送信グランド	↔
6	DSR(DR)	データセットレディ	←
7	RS(RTS)	送信要求	→
8	CS(CTS)	送信可	←
9	RI(CI)	被呼表示	←

① CD信号（1番ピン）をON/OFFできる接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向 （全二重／半二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)
RI(CI)	9		

② CD信号(1番ピン)をON/OFFできない接続例
DCコード制御またはDTR/DSR制御を行うときの接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向 （全二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)
RI(CI)	9		

2 - 15

(2) QnAシリーズ（大型QC24(N)）の場合

① CD信号（8ピン）をON/OFFできる接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向（全二重／半二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

＊ 本配線接続する場合，QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

② CD信号（8ピン）をON/OFFさせない接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向（全二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

＊ 本配線接続する場合，QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

(3) QnAシリーズ（小形QC24(N)）の場合

① CD信号（1番ピン）をON/OFFできる接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向（全二重／半二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)

＊ 本配線接続する場合，QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

② CD信号（1番ピン）をON/OFFさせない接続例

シリアルコミュニケーションユニット側		ケーブル接続と信号方向（全二重通信用）	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)

＊ 本配線接続する場合，QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

(4) Aシリーズの場合

① C24(計算機リンクユニット)が25ピンコネクタの接続例1

計算機リンクユニット側		ケーブル接続と信号方向	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

② C24(計算機リンクユニット)が25ピンコネクタの接続例2

計算機リンクユニット側		ケーブル接続と信号方向	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

＊ 上記接続で交信を行う場合はCD信号の接続は不要です。RS-232C CD端子チェック設定（バッファメモリのアドレス10BHで設定）は，CD端子チェックなし（1を書き込む）を設定してください。

③ C24(計算機リンクユニット)が9ピンコネクタの場合の接続例1

計算機リンクユニット側		ケーブル接続と信号方向	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)

④ C24(計算機リンクユニット)が9ピンコネクタの場合の接続例2

計算機リンクユニット側		ケーブル接続と信号方向	GT SoftGOT2（パソコン）側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD(RXD)	2		RD(RXD)
SD(TXD)	3		SD(TXD)
DTR(ER)	4		DTR(ER)
SG	5		SG
DSR(DR)	6		DSR(DR)
RS(RTS)	7		RS(RTS)
CS(CTS)	8		CS(CTS)

＊1 上図のように，C24(計算機リンクユニット)のDTR信号およびDSR信号を外部機器と接続することにより，DCコード制御またはDTR/DSR制御が可能となります。

＊2 上記接続で交信を行う場合はCD信号の接続は不要です。RS-232C CD端子チェック設定（バッファメモリのアドレス10BHで設定）は，CD端子チェックなし（1を書き込む）を設定してください。

2.4.4　MELSECNET接続時に使用するケーブル

MELSECNET接続時に使用するケーブルは，MELSECNET/10，MELSECNET/Hシステムで使用する光ファイバケーブル，同軸ケーブルと同一です。

ケーブルの詳細はMELSECNET/10ネットワークシステムリファレンスマニュアルまたはMELSECNET/Hネットワークシステムリファレンスマニュアルを参照してください。

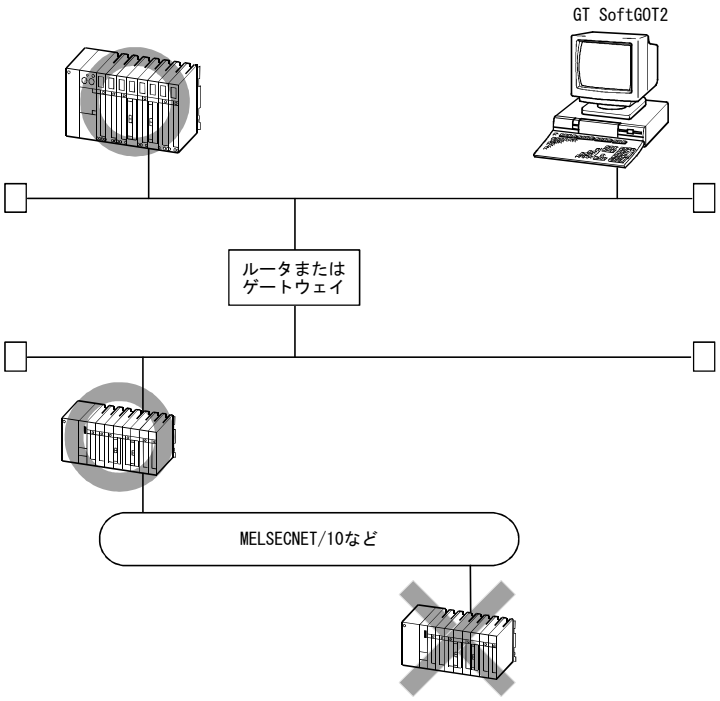
2.5　モニタできるアクセス範囲

2.5.1　CPU直接接続，計算機リンク接続時にモニタできるアクセス範囲

QnACPUと接続した場合，QnACPU以外の他局のモニタは行えません。
その他のモニタできるアクセス範囲はGOT-A900シリーズと同一です。
モニタできるアクセス範囲についてはGOT-A900シリーズユーザーズマニュアル（接続編）を参照してください。

2.5.2　Ethernet接続時にモニタできるアクセス範囲

GT Designer2のEthernet設定で設定したEthernetユニットがモニタ可能です。
MELSECNET/B，MELSECNET(Ⅱ)，MELSECNET/10経由での通信は行えません。
ルータ，ゲートウェイを介しての通信はQCPU（Qモード）のみ行えます。



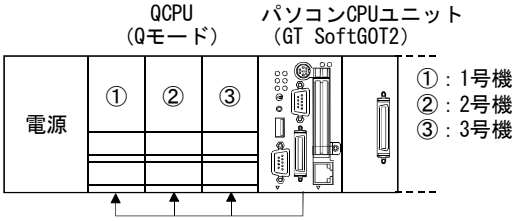
ポイント

Ethernet接続時の設定方法については5.3項を参照してください。

2.5.3　Qバス接続時にモニタできるアクセス範囲（パソコンCPUユニット使用時のみ）

マルチCPUシステム構成時，パソコンCPUユニットからQバス経由で他号機のCPUにアクセスが可能です。

パソコンCPUユニットからのCC-Link経由での他局アクセスは行えません。



2 - 21

2.5.4 MELSECNET接続時にモニタできるアクセス範囲

(1) 自局アクセス範囲

自局にアクセスする場合，MELSECNET/10,MELSECNET/Hボードの，すべてのデバイスがモニタ可能です。

デバイス	MELSECNET/Hボード（MELSECNET/Hモード時）	MELSECNET/Hボード(MELSECNET/10モード時) MELSECNET/10ボード
X(LX)	X0～X1FFF(8192点)	
Y(LY)	Y0～Y1FFF(8192点)	
B(LB)	B0～B3FFF(16384点)	B0～B1FFF(8192点)
W(LW)	W0～W3FFF(16384点)	W0～W1FFF(8192点)
SB	SB0～SB1FF(512点)	
SW	SW0～SW1FF(512点)	

(2) 他局アクセス範囲

他局にアクセスする場合，アクセスするCPUの，すべてのデバイスをモニタできます。

(3) 他ネットワークへのアクセス

CPUを経由して他のネットワークにアクセスする場合,MELSECNET/10,MELSECNET/H,Ethernetネットワーク上のCPUにアクセス可能です。
（Ethernetネットワーク上でアクセス可能なのはQCPU（Qモード），QnACPUのみです。）

ポイント

他ネットワークをモニタする場合は，MELSECNET/10ボードまたはMELSECNET/Hボードユーティリティにてルーチングパラメータの設定が必要です。
ルーチングパラメータの設定についてはMELSECNET/10インタフェースボードユーザーズマニュアルまたはMELSECNET/Hインタフェースボードユーザーズマニュアルを参照してください。

備　考

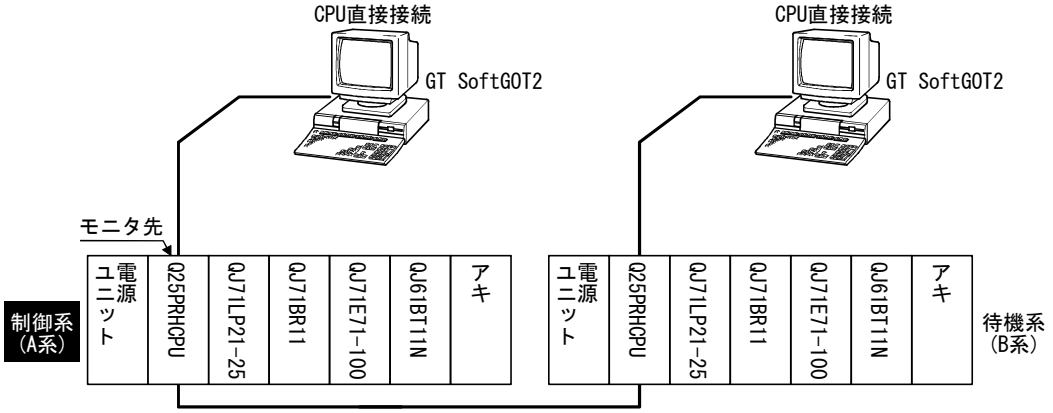
1. GT SoftGOT2のアクセス範囲は，GX Developerのアクセス範囲と同一です。
2. GT SoftGOT2はGOTと一部仕様が異なります。
   GT SoftGOT2とGOTの相違点を下記に示します。

項　目	GT SoftGOT2	GOT
QCPU(Qモード), QnACPUモニタ可能範囲	すべてのデバイス	AnACPU範囲内
マルチCPUのモニタ	可能	不可
他ネットワークのモニタ	可能	不可

2.6 QCPU二重化システムのモニタ方法

2.6.1 CPU直接接続の場合

GT SoftGOT2を制御系側と待機系側に接続するため，2台必要になります。
制御系のGT SoftGOT2と，待機系のGT SoftGOT2の画面を作成してください。



ポイント

注意事項および詳細については，GOT-A900シリーズユーザズマニュアル（接続編）2.4節QCPU二重化システムのモニタ方法を参照してください。

2.6.2 MELSECNET/H接続の場合

MELSECNET/H接続（ネットワークシステム）の場合，系切替えが発生するとモニタ先（局番）を自動的に切替えるためにスクリプト，画面を作成します。
スクリプトは，局番切換え機能または画面切換え機能を実行します。
局番切換え機能，画面切換え機能のメリットおよびデメリットを下記に示します。

機能	メリット	デメリット
局番切換え機能	局番1（制御系）用，局番2（待機系）用のモニタ画面を一つの画面で実現できます。	オブジェクトにより局番の切換えができないものがあります。
画面切換え機能	局番ごとにモニタ画面を作成するため，すべてオブジェクトを使用できます。	局番1（制御系）用，局番2(待機系)用のモニタ画面を別々に作成する必要があります。

各機能を使用する方法を，下記に説明します。

(1) 局番切換え機能を使用する方法

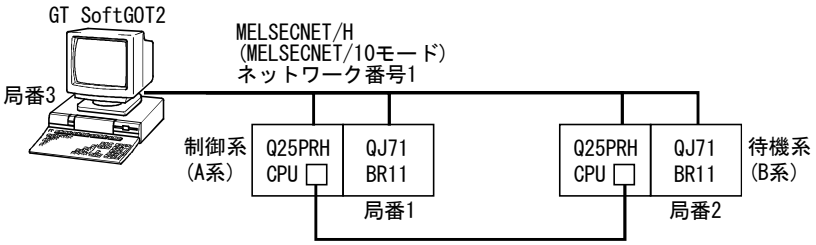
(a) この機能の特長は，局番1（制御系）用，局番2（待機系）用のモニタ画面を一つの画面で実現します。
GT SoftGOT2は，系切替えが発生しても，同じモニタ画面上で制御系シーケンサCPUへのモニタを追従できます。

(b) 実現方法は，GT SoftGOT2のスクリプトでシーケンサCPUの特殊リレーSM1515（運転状態）を監視して，最新の制御系の局番を局番切換デバイスに格納します。

2 - 23

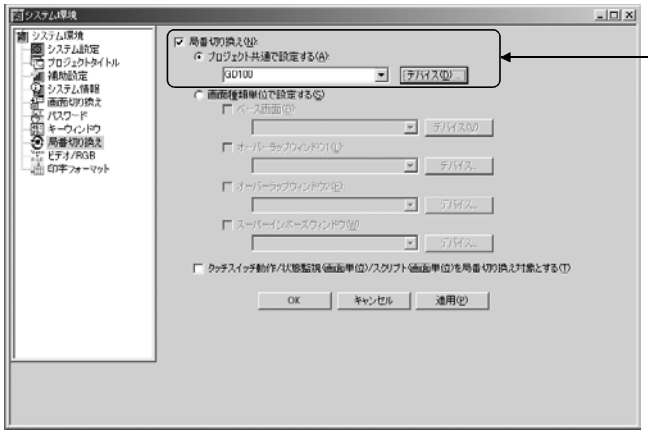
(c) 制約事項
オブジェクトによっては，局番切換えができないものがあります。
GT Designer2 Version2リファレンスマニュアル　3.3節「局番切換え用のデバイスを設定する」を参照してください。

(d) 設定するための方法を，例を基に説明します。
＜システム構成例＞



接続ユニット	ネットワーク番号	局番
制御系のMELSECNET/Hネットワークユニット	1	1
待機系の MELSECNET/Hネットワークユニット		2
MELSECNET/H接続のGT SoftGOT2		3

① 局番切換えデバイスを設定します。
【共通設定】-【システム環境】-【局番切り換え】で，「プロジェクト共通で設定する」を選択し，局番切換えデバイスに内部デバイスGD100を設定します。



② 状態監視を設定します。
【共通設定】-【状態監視】のプロジェクトにてMELSECNET/Hの異常局情報(SW70)がONした場合，局番切換えを行うように設定します。

条件1：SW70.b0(ON中)	←b0がON時，局番1は異常
動作　：GD100=2	←局番を2へ切換え

条件1：SW70.b1(ON中)	←b1がON時，局番2は異常
動作　：GD100=1	←局番を1へ切換え

条件1：GD100==0	←局番切換えデバイスの値が0
条件2：SW56<=2	←現在管理局が二重化CPU
動作　：GD100=SW56	←局番を現在管理局へ切換え

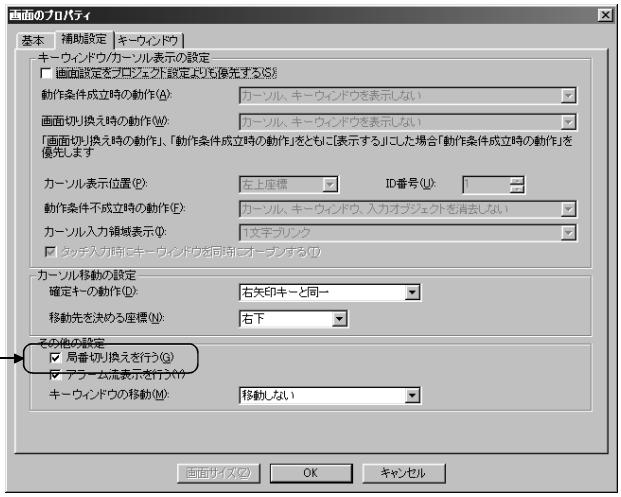
条件1：GD100==0	←局番切換えデバイスの値が0
条件2：SW56>2	←現在管理局が二重化CPU以外
動作　：GD100=1	←通常，制御系となる局へ切換え

状態監視は，プロジェクトタブでプロジェクトに作成します。



③ モニタ画面を作成します。
各オブジェクトのデバイス設定（ネットワーク設定）は，すべて制御系のネットワーク番号1，局番1を設定します。

④ 局番切換え機能を有効にします。
【画面】-【プロパティ】の補助設定画面で「局番切り換えを行う」をチェックし，局番切換え機能を有効にします。
本設定は，モニタ画面ごとに行います。



ココをチェックします。

⑤ 局番切換えデバイスの内容を，スクリプトで書き換えます。
【共通設定】-【スクリプト】で，現在モニタ局のSM1515の状態をチェックし，OFF（待機系）ならば局番切換えデバイスの内容を書き換えるスクリプトをモニタ画面ごとに作成します。
スクリプトのトリガ種別は，「常時」または「周期（3秒程度）」で設定します。

・画面スクリプト：

```
// モニタ先が待機系なら局番を切換え
if([b:SM1515]==OFF){                //モニタ先は待機系？
        if([w:GD100]==1){           //局番1→2へ
                [w:GD100]=2;
        }else{                      //局番2→1へ
                [w:GD100]=1;
        }
}
```

作成したスクリプトは，画面タブで画面ごとに設定します。



備　　考

GT SoftGOT2がMELSECNET/H接続でモニタする場合，MELSECNET/Hネットワークに二重化システムのみ接続されているときは，局番切換えデバイスにSW56（現在管理局）を設定できます。
この場合，系切替えが発生しても，GT SoftGOT2は常に現在管理局になっている局番に対してモニタを行います。

(2) 画面切換え機能を使用する方法

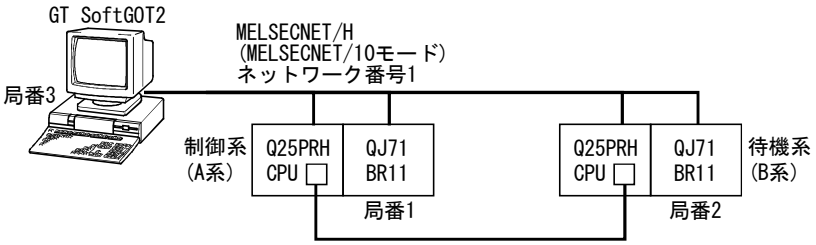
(a) この機能の特長は，局番ごとにモニタ画面を作成します。
GT SoftGOT2は，系切替えが発生すると，別モニタ画面で制御系シーケンサCPUのモニタに追従できます。

(b) 実現方法は，GT SoftGOT2のスクリプトでシーケンサCPUの特殊リレーSM1515（運転状態）を監視して，最新の制御系の局番に対応した画面番号を画面切換デバイスに格納します。

(c) 注意事項
画面切換えデバイスには，下記の4種類があります。使用するすべての画面の画面切換えデバイスを設定してください。
・ベース画面切換えデバイス
・オーバーラップウィンドウ1切換えデバイス
・オーバーラップウィンドウ2切換えデバイス
・スーパーインポーズウィンドウ切換えデバイス

(d) 設定するための方法を，例を基に説明します。

＜システム構成例＞



接続ユニット	ネットワーク番号	局番
制御系のMELSECNET/Hネットワークユニット	1	1
待機系の MELSECNET/Hネットワークユニット		2
MELSECNET/H接続のGT SoftGOT2		3

① ベース画面の画面切換えデバイスを設定します。
【共通設定】-【システム環境】-【画面切り換え】で，ベース画面の切り換えデバイスに内部デバイスGD100を設定します。

② 状態監視を設定します。
【共通設定】-【状態監視】のプロジェクトにてMELSECNET/Hの異常局情報(SW70)がONした場合，画面切換えを行うように設定します。

条件1：SW70.b0(ON中)	←局番1が異常
条件2：GD100<100	
動作　：GD100=GD100+100	←局番2用の画面へ切換え

条件1：SW70.b1(ON中)	←局番2が異常
条件2：GD100>100	
動作　：GD100=GD100-100	←局番1用の画面へ切換え

条件1：GD100==0	←画面切換えデバイスの値が0
条件2：SW56==1	←現在管理局が局番1のとき
動作　：GD100=2	←画面No.2（局番1用）の画面へ切換え

条件1：GD100==0	←画面切換えデバイスの値が0
条件2：SW56==2	←現在管理局が局番2のとき
動作　：GD100=102	←画面No.102（局番2用）の画面へ切換え

条件1：GD100==0	←画面切換えデバイスの値が0
条件2：SW56>2	←現在管理局が二重化CPU以外のとき
動作　：GD100=2	←画面No.2（局番1用）の画面へ切換え



③ モニタ画面を設定します。
・各オブジェクトのネットワーク設定は，すべて局番1に設定したモニタ画面を画面No.2(1-1)に作成します。
・各オブジェクトのネットワーク設定は，すべて局番2に設定したモニタ画面を画面No.102(1-2)に作成します。

④ 画面切換えデバイスの内容を，スクリプトで書き換えます。
【共通設定】-【スクリプト】で，現在モニタ局のSM1515の状態をチェックし，OFF（待機系）ならば画面切換えデバイスの内容を書き換えるスクリプトをモニタ画面ごとに作成します。
スクリプトのトリガ種別は，「常時」または「周期（3秒程度）」で設定します。

・画面スクリプト：

```
// 画面No.2（局番1用）のスクリプト
// モニタ先が待機系なら画面切換え
if([1-1:b:SM1515]==OFF){            //1局は待機系？
  if([w:GD100]<100){
    [w:GD100]=[w:GD100]+100;        //1局→2局の画面へ
  }
}
```

```
// 画面No.102（局番2用）のスクリプト
// モニタ先が待機系なら画面切換え
if([1-2:b:SM1515]==OFF){            //2局は待機系？
  if([w:GD100]>100){
    [w:GD100]=[w:GD100]-100;        //2局→1局の画面へ
  }
}
```

画面2（局番1用）のスクリプト画面



画面102（局番2用）のスクリプト画面



2 - 28

第３章 仕　様

3.1 GT SoftGOT2の仕様

GT SoftGOT2の仕様を下記に示します。

項　目	仕　様
解像度（ドット）	640×480，800×600，1024×768，1280×1024
表示色（色）	256
メモリ容量（バイト）	33M
接続形態	CPU直接接続，Ethernet接続，Qバス接続*1，計算機リンク接続，MELSECNET接続

*1 パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合のみ使用できます。

ポイント

- パソコンとGT SoftGOT2が同じ解像度の場合，全画面表示機能（6.7節参照）を使用して，フレーム枠やメニュー部を非表示にすることをお薦めします。
  全画面表示機能を使用しない場合，フレーム枠やメニュー部により若干上下左右が切れて表示されます。
- GT Designer2で作成したモニタデータの解像度とGT SoftGOT2の解像度は同じ解像度になるようにしてください。
  解像度が異なる場合，以下のようになります。
  ① モニタデータの解像度＞GT SoftGOT2の解像度
  はみ出した部分が表示されません。
  ② モニタデータの解像度＜GT SoftGOT2の解像度
  ウィンドウ画面の移動範囲，アラーム流れ機能で表示されるメッセージの位置，スーパーインポーズウィンドウの表示などはGT SoftGOT2の解像度が優先されます。
  モニタデータで設定されている解像度外の部分はリフレッシュされません。（解像度外の部分にごみが残る場合があります。）
  解像度外にごみが残る場合，下記方法により回避することができます。
  (a) 解像度が640×400ドット，320×240ドットで作成したモニタデータをGT SoftGOT2で使用する場合は，GT Designer2で作成したモニタデータのGOTタイプ（解像度）を，GT SoftGOT2で使用する解像度に変更して使用する。
  (b) マウスを使用して，GT SoftGOT2の画面サイズを，GT Designer2で作成したモニタデータの大きさと同じにする。

3.2 使用できない機能

機能区分	機能名		
オブジェクト機能*1	テスト機能,	バーコード機能,	操作パネル機能*5
	タッチスイッチ機能（拡張の一部）*6		
拡張機能*2	システムモニタ機能*3		
オプション機能*2	回路モニタ機能*3,	特殊ユニットモニタ機能,	リスト編集機能*3,
	ネットワークモニタ機能*3,	モーションモニタ機能,	サーボアンプモニタ機能,
	CNCモニタ機能		
その他の機能	トランスペアレント機能,	人感センサ機能,	輝度調整機能,
	音声機能*4,	ゲートウェイ機能,	文字フォント切換え機能,
	システムダイアログ言語切換え機能		

*1 機能の詳細については，GT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

*2 機能の詳細については，GOT-A900シリーズオペレーティングマニュアル（拡張機能・オプション機能編）を参照してください。

*3 GT SoftGOT2とGX Developerを同一パソコン上で使用することで，同等の機能が可能になります。

*4 パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合のみ，使用できません。

*5 キーボード入力機能を使用することで，同等の機能が可能になります。

*6 下記のタッチスイッチ（拡張）が使用できません。

- 回路モニタ
- システムモニタ
- 特殊ユニットモニタ
- 時計設定
- 画面掃除
- ネットワークモニタ
- 輝度調整
- リスト編集
- モーション／CNCモニタ
- サーボアンプモニタ

ポイント

・ 時計表示機能について

GOTでは，シーケンサCPUの時計データを読み出して表示を行いますが，GT SoftGOT2ではシーケンサCPUの時計データではなく，パソコンの時計データを表示します。

時計データによる制御などを行う場合，シーケンサCPUとパソコンの時計データが同じになるようにしてください。

(1) ユーティリティ機能について

(a) ユーティリティメニュー画面の表示について

GT SoftGOT2では表示部の2点押しが不可能になっています。
そのため，ユーティリティメニュー画面を表示したい場合は，あらかじめ画面作成時にユーティティメニュー画面を表示するタッチスイッチ（拡張機能スイッチ）を設定しておく必要があります。
タッチスイッチの設定方法については，GT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

(b) ユーティリティ機能の使用可否

GT SoftGOT2でユーティリティ機能を使用する場合，一部使用できない機能がありますので注意してください。
GT SoftGOT2でのユーティリティ機能の使用可否を下記に示します。

○：使用可能　×：使用不可

項　　目	使用可否
システムモニタ	×
ネットワークモニタ	×
リスト編集	×
回路モニタ	×
モーション/CNCモニタ	×
特殊ユニット	×
サーボアンプモニタ	×
メモリ情報	×
画面&OSコピー	×
セットアップ	○
時計設定	×
画面掃除	×
パスワード	○
自己診断	×

ポイント

・ユーティリティ機能のセットアップでは，設定してもGT SoftGOT2では動作しないものがあります。
GT SoftGOT2での動作可否を下記に示します。

○：動作可能　△：一部制約有り　×：動作不可

項　　目	動作可否	内　　容
ブザー音	△	Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system使用時はブザー音の「長」，「短」が反映されません。
外部スピーカ音	○*1	動作します。
スクリーンセーブ時間	×	設定は可能ですが，機能しません。
スクリーンセーブ バックライト	×	設定は可能ですが，機能しません。
メッセージ表示	○	動作します。

*1 パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合，使用できません。

3.3 GT SoftGOT2使用時の制約事項および注意事項

3.3.1 GT SoftGOT2の制約事項および注意事項

(1) 使用可能なモニタデータ

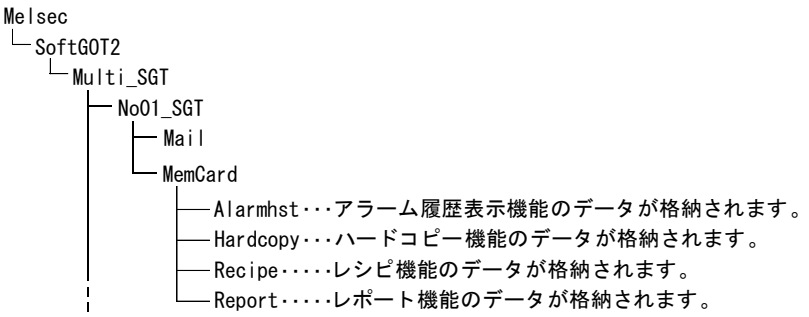
・ GT Converterを使用してデータを変換したモニタデータは，GT Designer2形式のファイルで保存してから使用することをお勧めします。

・ GT SoftGOT2は，モニタデータを作成したGT Designer2と同じ，もしくはそれより新しいバージョンを使用してください。
万一，古いGT SoftGOT2を使用した場合，ファイルを開くことができなかったり，機能や設定が無効，または正常に動作しなくなることがあります。
モニタデータの互換性については，付1を参照してください。

(2) オブジェクト機能について

・ GOTでは，シーケンサCPUの時計データを読み出して表示を行いますが，GT SoftGOT2ではシーケンサのCPUの時計データではなく，パソコンの時計データを表示します。
時計データによる制御などを行う場合，シーケンサCPUとパソコンの時計データが同じになるようにしてください。

・ アラーム履歴表示機能やレシピ機能でメモリカード保存を実行した場合，データはパソコンのハードディスクに保存されます。
また，レポート機能やハードコピー機能などでデータを直接プリンタに出力することはできません。
パソコンのハードディスクに印字イメージ（TXT/CSV/BMP形式ファイル）が保存されますので，各ファイルからプリンタへ出力してください。
各データはパソコンのハードディスクの下記フォルダに格納されます。



・ ハードコピー機能の印刷モードで，256色カラー以外の設定（白黒など）をしていても，上記フォルダには256色のファイルが保存されます。
色を減色したい場合は，市販のソフトウェアなどで，減色してください。

・ レシピ機能では，PCカード内にレシピファイルが存在する場合，実際のGOTと同様に新規にレシピファイルを作成しません。
そのため，読出したモニタデータのレシピ機能の設定と異なるレシピファイルがRecipeフォルダ内に存在すると，レシピファイルへのデータの書込み，読出しが正常に行われない場合があります。
このような場合は，モニタデータを読み出す前にRecipeフォルダ内のレシピファイルを削除してください。

・ 印字イメージで保存したファイルは，GT SoftGOT2を終了しても削除されません。そのため，印字イメージで保存したファイルがパソコンのハードディスクに累積され続け，ハードディスクの空き容量不足により，GT SoftGOT2が動作しなくなる場合があります。
印字トリガを頻繁にONさせるモニタデータを使用する場合，パソコンのハードディスクの空き容量を十分に確保して，必要に応じて印字ファイルを削除するようにしてください。

・ 印字イメージで保存したファイル（TXTファイル）を，ワードパットやメモ帳などを使用して開いた場合，文字間隔がずれて表示される場合があります。
文字間隔がずれる場合は，文字フォントや文字の大きさを調整してください。

・ 部品表示機能や部品移動機能で，BMPファイル部品を使用する場合，パソコンのハードディスクに保存したBMPファイルを使用します。
BMPファイル部品として使用するBMPファイルは，MemCardフォルダ内に一度起動した後に自動生成されるImageフォルダに格納します。



BMPファイル部品の詳細については，GT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

・ FXCPU接続時，レシピ機能で先頭デバイスとして16ビットデータの奇数点を設定する場合，デバイスはCN199以前を使用してください。

3.3.2 シーケンサCPU接続時の制約事項および注意事項

・ GT SoftGOT2を2PIF経由でFX0，FX0S，FX1，FX1S，FX2，FX2Cに接続する場合，2PIFはVer3.01A以降のものを使用してください。

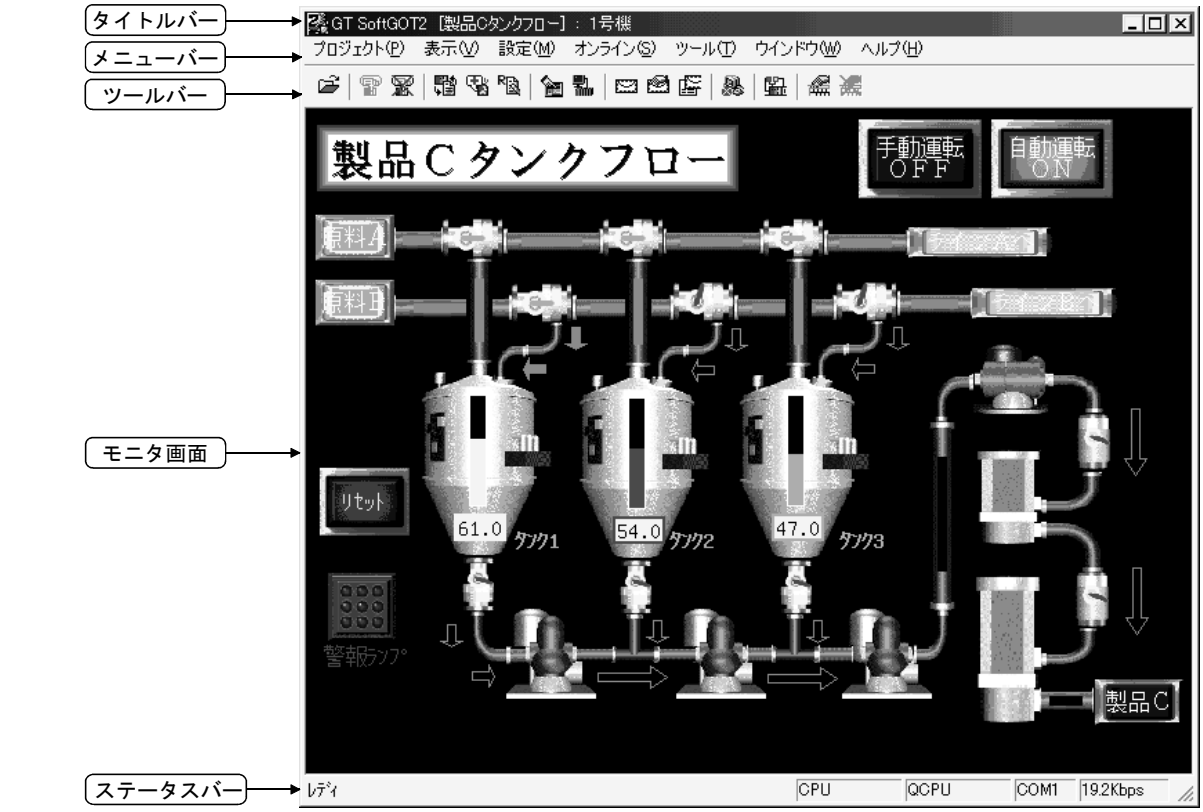
・ GT SoftGOT2をFXCPUの機能拡張ボードと接続する場合，FXCPU側で以下の設定をする必要があります。
① GX Developerにて「PCパラメータ」－「PCシステム設定(2)」―「通信設定をする」のチェックを外す。
② デバイスの「D8120」に「0」をセットする。

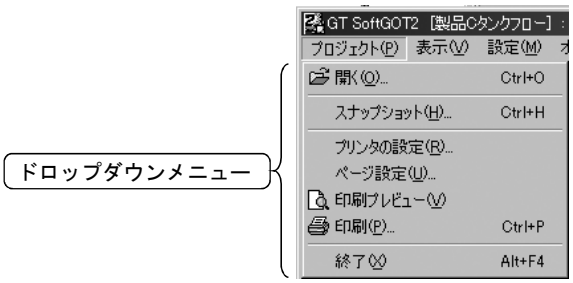
・ GT SoftGOT2とQnACPUを接続した場合，QnACPU以外の他局はモニタできませんので注意してください。
その他のモニタできるネットワークシステムのアクセス範囲はGOTと同一です。

第４章　GT SoftGOT2の画面構成

4.1　GT SoftGOT2の画面構成と各種ツール

GT SoftGOT2の画面構成と各種ツールについて説明します。

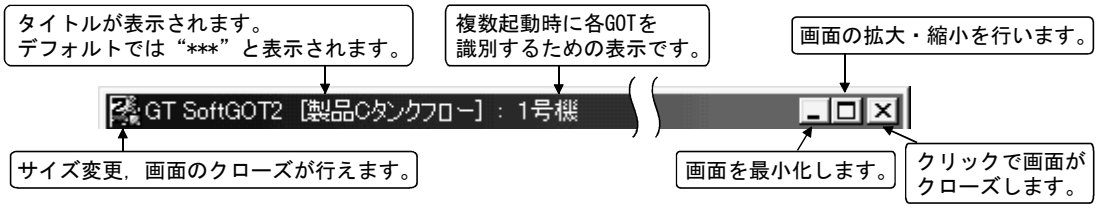




＊1 タイトルバー，メニューバー，ドロップダウンメニューについての説明はGT Designer2 Version □オペレーティングマニュアルを参照してください。

(1) タイトルバー

画面のタイトルなどが表示されます。



ポイント

・タイトルと号機の表示は，「環境設定」で非表示にすることもできます。
（5.6節 参照）
・複数起動の詳細については，6.9節を参照してください。

(2) ツールバーについて

メニューバーで割り付けられている項目がボタン表示されているところです。
カーソルをツールボタン上に移動させクリックすると動作します。



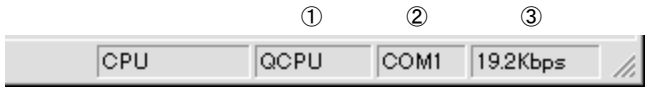
各ツールボタンの名称

番号	名　　称	内　　容
①	プロジェクトを開く	GT Designer2で作成したプロジェクトデータを開きます。
②	モニタ開始	モニタを開始します。
③	モニタの停止	モニタを停止します。
④	レシピデータ参照	レシピデータ／印字ファイルを参照します。
⑤	アラーム履歴参照	アラーム履歴データ／印字ファイルを参照します。
⑥	レポートデータ参照	レポートロギングデータ／印字ファイルを参照します。
⑦	環境設定	解像度（画面サイズ）などを設定します。
⑧	通信設定	接続するCPUの種類などを設定します。
⑨	メール送信先の設定	メールの送信先などを設定します。
⑩	メール送信条件の設定	GT Designer2で設定したメール送信設定の有効／無効を設定します。
⑪	メール送信履歴	メールの送信履歴を参照します。
⑫	回線切断の設定	遠隔デバイスモニタ時の回線の切断方法を設定します。
⑬	デバイスコメント設定	遠隔デバイスモニタ時にモニタするデバイスコメントの設定します。
⑭	キーボード入力許可	選択するとキーボード入力機能による入力を禁止します。
⑮	キーボード入力禁止	選択するとキーボード入力機能による入力を許可します。

4 - 2

(3) ステータスバーについて

通信設定で設定した，内容が表示されているところです。



各ステータスバーの内容

番号	内　　容
①	通信設定で設定したCPUの種類
②	通信設定で設定したパソコン側の通信ポート
③	通信設定で設定したGT SoftGOT2とCPUの伝送速度

ポイント

ツールバーとステータスバーは表示／非表示が選択できます。
「表示」―「ツールバー」または「ステータスバー」を選択することで，ツールバーやステータスバーを表示／非表示にします。
　チェックあり：ツールバー／ステータスバーを表示します。
　チェックなし：ツールバー／ステータスバーを非表示にします。



4.2　メニュー構成

(1) メニューバー

メニューバーに割り付けられているコマンドの一覧と説明をします。

- プロジェクト
  - 開く・・・・・・・・・・・・・GT Designer2で作成したプロジェクトデータを選択して，モニタデータを読み出します。
  - スナップショット・・・・・・モニタ画面を任意のファイルにBMP形式で保存します。
  - プリンタの設定・・・・・・・プリンタの設定をします。
  - ページ設定・・・・・・・・・ページの設定をします。
  - 印刷・・・・・・・・・・・・モニタ画面を印刷します。
  - 印刷プレビュー・・・・・・・印刷時のイメージを表示します。
  - 終了・・・・・・・・・・・・・GT SoftGOT2を終了します。
- 表示
  - ツールバー・・・・・・・・・ツールバーの表示／非表示を選択します。
  - ステータスバー・・・・・・・ステータスバーの表示／非表示を選択します。
  - 全画面表示・・・・・・・・・GT SoftGOT2を全画面表示します。
  - 全画面表示の解除・・・・・・全画面表示を解除します。
- 設定
  - 環境設定・・・・・・・・・・画面サイズ（解像度）などを設定します。
  - メール設定
    - メール設定・・・・・・・メールの送信先などを設定します。
    - メール送信条件・・・・・GT Designer2で設定したメール送信設定の有効／無効（送信する／しない）を設定します。
    - メール送信履歴・・・・・メールの送信履歴を参照します。
  - 遠隔デバイスモニタ
    - 回線切断の設定・・・・・遠隔デバイスモニタ時の回線の切断方法の設定をします。
    - デバイスコメント設定・・遠隔デバイスモニタ時にモニタするデバイスコメントの設定をします。
  - キーボード入力禁止・・・・・選択するとキーボード入力機能による入力を禁止します。
  - キーボード入力許可・・・・・選択するとキーボード入力機能による入力を許可します。
  - ポップアップメニュー無効・・選択すると右クリックメニューによる操作を無効にします。
  - ポップアップメニュー有効・・選択すると右クリックメニューによる操作を有効にします。
- オンライン
  - モニタ開始・・・・・・・・・モニタを開始します。
  - モニタ停止・・・・・・・・・モニタを停止します。
  - 起動時オンラインモード・・・チェックすると，次回からGT SoftGOT2をオンラインモードで起動します。
  - 通信エラーダイアログ・・・・通信エラー発生時のエラーダイアログボックスの表示／非表示を選択します。
  - 通信設定・・・・・・・・・・接続するCPUの種類などを設定します。
- ツール
  - レシピ・・・・・・・・・・・レシピデータ／印字ファイルを参照します。
  - アラーム履歴・・・・・・・・アラーム履歴データ／印字ファイルを参照します。
  - レポート・・・・・・・・・・レポートロギングデータ／印字ファイルを参照します。
  - ハードコピー・・・・・・・・ハードコピーデータ／印字ファイルを参照します。
  - システムアラーム・・・・・・現在発生しているシステムアラームを表示します。
  - スクリプトエラー情報・・・・現在発生しているスクリプトエラーを表示します。
- ウィンドウ
  - 重ねて表示・・・・・・・・・各号機を画面左上より10画面（10号機分）単位で重ねて表示します。
  - 全て最小化・・・・・・・・・起動中のすべてのGT SoftGOT2を最小化します。
  - ウィンドウの移動・・・・・・全画面表示時のウィンドウ移動時に使用します。
- ヘルプ
  - 目次・・・・・・・・・・・・オンラインマニュアルを表示します。
  - バージョン情報・・・・・・・インストールされているGT SoftGOT2のソフトウェアバージョンを表示します。
  - MELFANSwebへの接続・・・・MELFANSwebに接続します。

(2) マウスの右クリック

マウスの右クリックメニューに割り付けられているコマンドの一覧を説明します。
各コマンドの内容は，(1) メニューバーの内容と同じです。



開く

モニタ開始／停止

起動時オンラインモード

通信エラーダイアログ

通信設定

環境設定

表示
- ツールバー
- ステータスバー
- 全画面表示
- 全画面表示の解除

設定
- メール設定
- メール送信条件
- メール送信履歴
- 回線切断の設定
- デバイスコメント設定
- キーボード入力禁止
- キーボード入力許可
- ポップアップメニュー無効
- ポップアップメニュー有効

ツール
- レシピ
- アラーム履歴
- レポート
- ハードコピー
- システムアラーム
- スクリプトエラー情報

ウィンドウ
- 重ねて表示
- 全て最小化
- ウィンドウの移動

ヘルプ
- 目次
- バージョン情報
- MELFANSwebへの接続

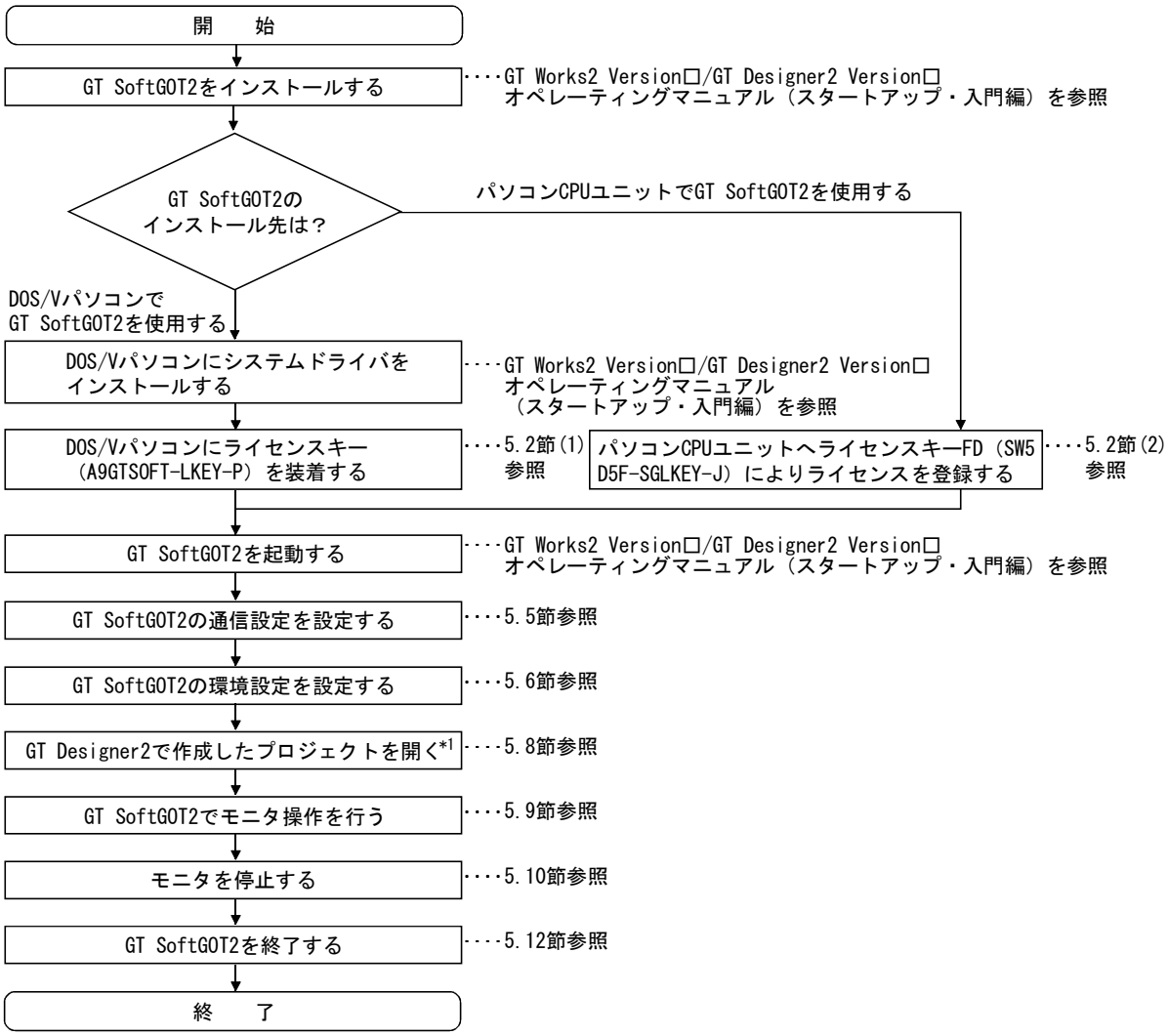
終了

4 - 5

第５章　GT SoftGOT2の操作方法

5.1　GT SoftGOT2でモニタを行うまでの概略手順

GT SoftGOT2のインストール後，GT SoftGOT2でモニタを行うまでの概略手順を下記に示します。



*1 2回目以降のモニタでは，プロジェクトを開く必要はありません。
オンライン」ー「モニタ開始」で前回モニタしたプロジェクトを自動的に開き，モニタ開始します。（5.8節参照）

ポイント

Windows® 起動時に自動的にGT SoftGOT2を起動させることもできます。
自動起動の方法については，5.13節を参照ください。

5.2 ライセンスキー／ライセンスキーFDの使用方法

GT SoftGOT2を使用する場合は，必ず以下のようなライセンスキー／ライセンスキーFDを使用してGT SoftGOT2のライセンス権利を認識させる必要があります。

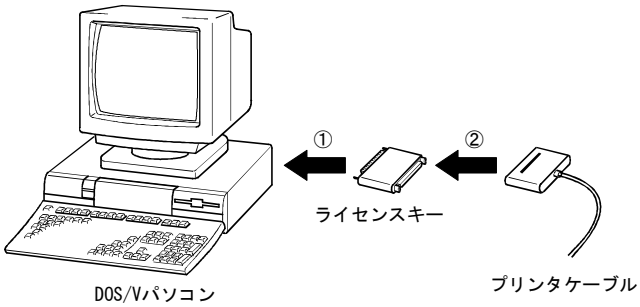
・DOS/Vパソコン　　：ライセンスキー（A9GTSOFT-LKEY-P）
・パソコンCPUユニット：ライセンスキーFD（SW5D5F-SGLKEY-J）

それぞれのライセンスキー／ライセンスキーFDの使用方法について説明します。

(1) DOS/VパソコンでGT SoftGOT2を使用する場合

DOS/VパソコンでGT SoftGOT2を使用する場合，必ずライセンスキー（A9GTSOFT-LKEY-P）をDOS/Vパソコンに装着します。
ライセンスキーをDOS/VパソコンにGT SoftGOT2でモニタを実行すると，約10分後に自動的にGT SoftGOT2が終了します。
また，DOS/Vパソコンにシステムドライバがインストールされていないと，GT SoftGOT2はライセンスキーの装着を認識しませんのでシステムドライバは必ずインストールしてください。
システムドライバのインストール方法についてはGT Works2 Version□/GT Designer2 Version□オペレーティングマニュアル（スタートアップ・入門編）を参照してください。

ライセンスキーの装着方法を下記に示します。



① ライセンスキーをDOS/Vパソコンのパラレルポート（セントロ／プリンタコネクタ）に装着してください。

② プリンタを使用する場合はプリンタケーブルをライセンスキーに接続してください。

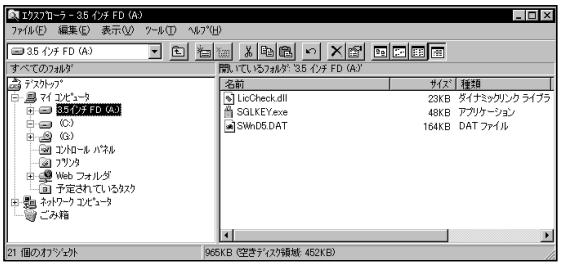
ポイント

- ライセンスキーは，はずれないようにしっかりと固定してください。
  GT SoftGOT2でモニタ中にライセンスキーがはずれると，ライセンスキーを装着せずにモニタを実行した場合と同様に，約10分後に自動的に終了します。
- プリンタ切換え機を使用する場合，ライセンスキーはプリンタ切換え機より前（DOS/Vパソコン側）に接続してください。
- ノートパソコンなどでパラレルポートが標準装備されていない場合，使用するノートパソコンに対応した外付けのオプションが必要になります。
- 以下の機器はライセンスキーと同一ポートで使用することはできません。
  ① プリンタポート用SCSIインタフェース
  ② プリンタポート接続型のFDD/HDD/CD-ROM/ZIPドライブ
  ③ プリンタポート通信型のInterlinkなどのネットワークや，セントロプリンタインタフェースの標準的な仕様からはずれたデータ転送方法を行っている機器
- 使用するDOS/Vパソコンが富士通社製コンピュータFM/Vシリーズの場合，システムドライバインストール後，必ず一度DOS/Vパソコンの電源を遮断し，再度DOS/Vパソコンを起動してからGT SoftGOT2を使用してください。

(2)パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合

パソコンCPUユニットでGT SoftGOT2を使用する場合，必ずライセンスキーFD（SW5D5F-SGLKEY-J／パソコンCPUユニット用ライセンス登録パッケージ）によりライセンス登録を行ってください。
ライセンスキーFDをパソコンに装着せずにGT SoftGOT2でモニタを実行すると，約10分後に自動的にGT SoftGOT2が終了します。

(a) ライセンスの登録



① エクスプローラを起動して,ライセンスキーFDが挿入されているドライブをクリックします。
“SGLKEY.exe”をダブルクリックします。
エクスプローラの表示は,
[スタート]-[プログラム]-[エクスプローラ]を選択します。

↓



② 鍵の絵をクリックしてください。
ライセンス登録を確認するダイアログボックスが表示されるので，［はい］ボタンをクリックします。

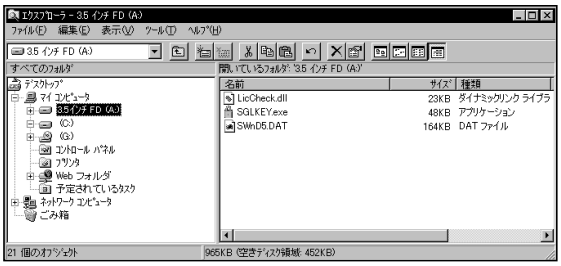
↓



③ ［閉じる］ボタンをクリックします。

(b) ライセンスの解除

GT SoftGOT2のアンインストール時にはライセンスキーFDによりライセンスを解除します。



① エクスプローラを起動して,ライセンスキーFDが挿入されているドライブをクリックします。
“SGLKEY.exe ”をダブルクリックします。
エクスプローラの表示は,
[スタート]-[プログラム]-[エクスプローラ]を選択します。

↓



② 鍵の絵をクリックしてください。
ライセンスの解除を確認するダイアログボックスが表示されるので, はい ボタンをクリックします。

↓



③ 閉じる ボタンをクリックします。
この状態で製品のライセンスが解除され, ライセンス権利がライセンスキーFDに保持されます。

ポイント

(1) DOS/Vパソコン用のライセンスキー（A9GTSOFT-LKEY-P）をパソコンCPUユニットに装着してもライセンスは有効になりません。

(2) ライセンスキーFDについて（SW5D5F-SGLKEY-J）

(a) ライセンスキーFDは，ご購入いただいたFDをそのまま使用してください。
（コピーで作成したライセンスキーFDは使用することができません。）

(b) ライセンスキーFDは，大切に保管してください。

(c) ライセンスキーFDに対して以下の操作を絶対に行わないでください。
以下の操作を行うと，ライセンスキーFDが壊れます。
① FDフォーマット
② FD内へのファイル書込み
③ FD内のファイルコピー(他ドライブへのコピー，他ドライブからのコピー)
④ FD内のファイル削除，ファイル名変更，ファイル属性変更
⑤ FDに対する解析ツール(SCANDISKなど)の実行

(d) ライセンスキーFDでのライセンス解除時には，ライセンス登録時のライセンスキーFDを使用してください。

5 - 5

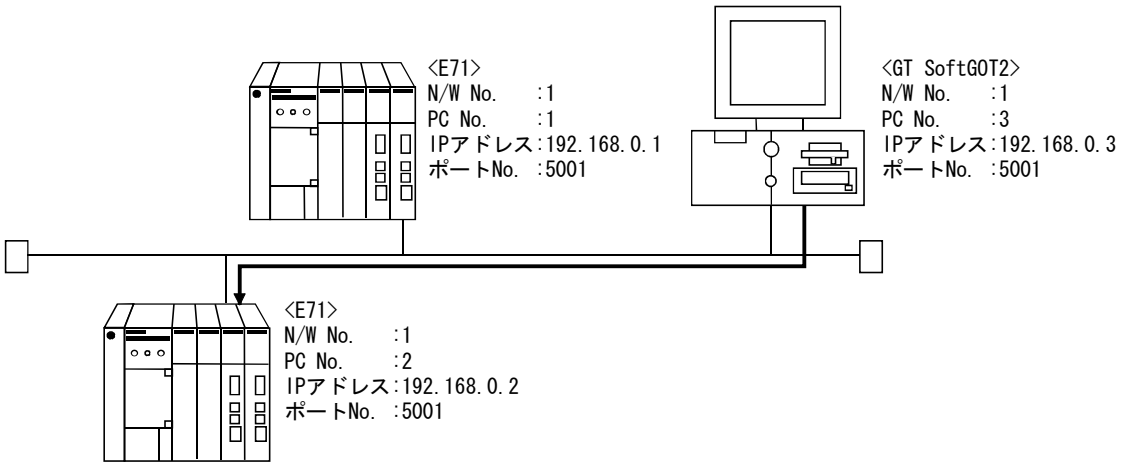
5.3 Ethernet接続時の設定方法

ポイント

- Ethernet接続を行う場合，使用するEthernetユニットのマニュアルを熟読し，内容を十分理解した上で行ってください。
- 接続機器（GT SoftGOT2以外も含む）が多いと，通信が混み合いタイムアウトエラーが発生する場合があります。
  タイムアウトエラーが発生する場合，接続機器を減らすか，GT SoftGOT2の通信設定でタイムアウトの値を大きくしてください。

5.3.1 E71を使用する場合

GT SoftGOT2からE71を経由して通信を行う場合の設定項目，注意事項を示します。
本項の説明は，下記のシステム構成に対しての説明を行います。



ポイント

E71へのEthernet接続時に指定される“N/W No.”“PC No.”は，GT Designer2上で任意に設定されたものを指定します。
Ethernetユニット，GT SoftGOT2のN/W No.，PC No.，IPアドレス，ポートNo.の設定については本項の(6)を参照してください。

E71経由で通信を行うための手順

制約事項

(a) MELSECNET/B，MELSECNET(Ⅱ)，MELSECNET/10，MELSECNET/H経由でのモニタは行えません。

(b) 同一セグメント内でのみ通信可能
ルータ，ゲートウェイを介しての通信は行えません。

(1) 対応機種

AJ71E71-S3，A1SJ71E71-B2-S3，A1SJ71E71-B5-S3，AJ71E71N-B2，AJ71E71N-B5T，A1SJ71E71N-B2，A1SJ71E71N-B5T

(2) E71のスイッチ設定

	AJ71E71-S3，AJ71E71N-B2，AJ71E71N-B5T，A1SJ71E71N-B2，A1SJ71E71N-B5T	A1SJ71E71-B2-S3，A1SJ71E71-B5-S3
運転モード設定スイッチ	0(オンラインモード)	0(オンラインモード)
交信条件設定スイッチ	SW2 OFF(BINコード)	SW2 OFF(BINコード)
CPU交信タイミング設定スイッチ	SW7 ON(RUN中書込み可)	SW3 ON(RUN中書込み可)

(3) シーケンスプログラム

イニシャル処理，通信回線のオープン処理のシーケンスプログラムが必要となります。

必要な通信パラメータとシーケンスプログラム例を示します。

(a) 通信パラメータ

通信パラメータの設定例を下記に示します。

設定項目	設定値
使用用途設定*1	100H
E71のIPアドレス	192.168.0.2
E71ポート番号	5001
他ノードのIPアドレス	FFFFFFFF
他ノードポート番号	FFFF*2

*1 使用用途設定の設定値指定について

①，②，③についてはユーザにて設定を変更することができます。

④，⑤，⑥については固定設定です。

使用用途設定の詳細内容を下記に示します。

b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥						⑤	④	③						②	①

①：固定バッファ用途
- 0：送信用/交信しない
- 1：受信用

②：生存確認
- 0：しない
- 1：する

③：ペアリングオープン
- 0：しない
- 1：する

④：通信方式（1:UDP/IPに設定してください。）
- 0：TCP/IP
- 1：UDP/IP

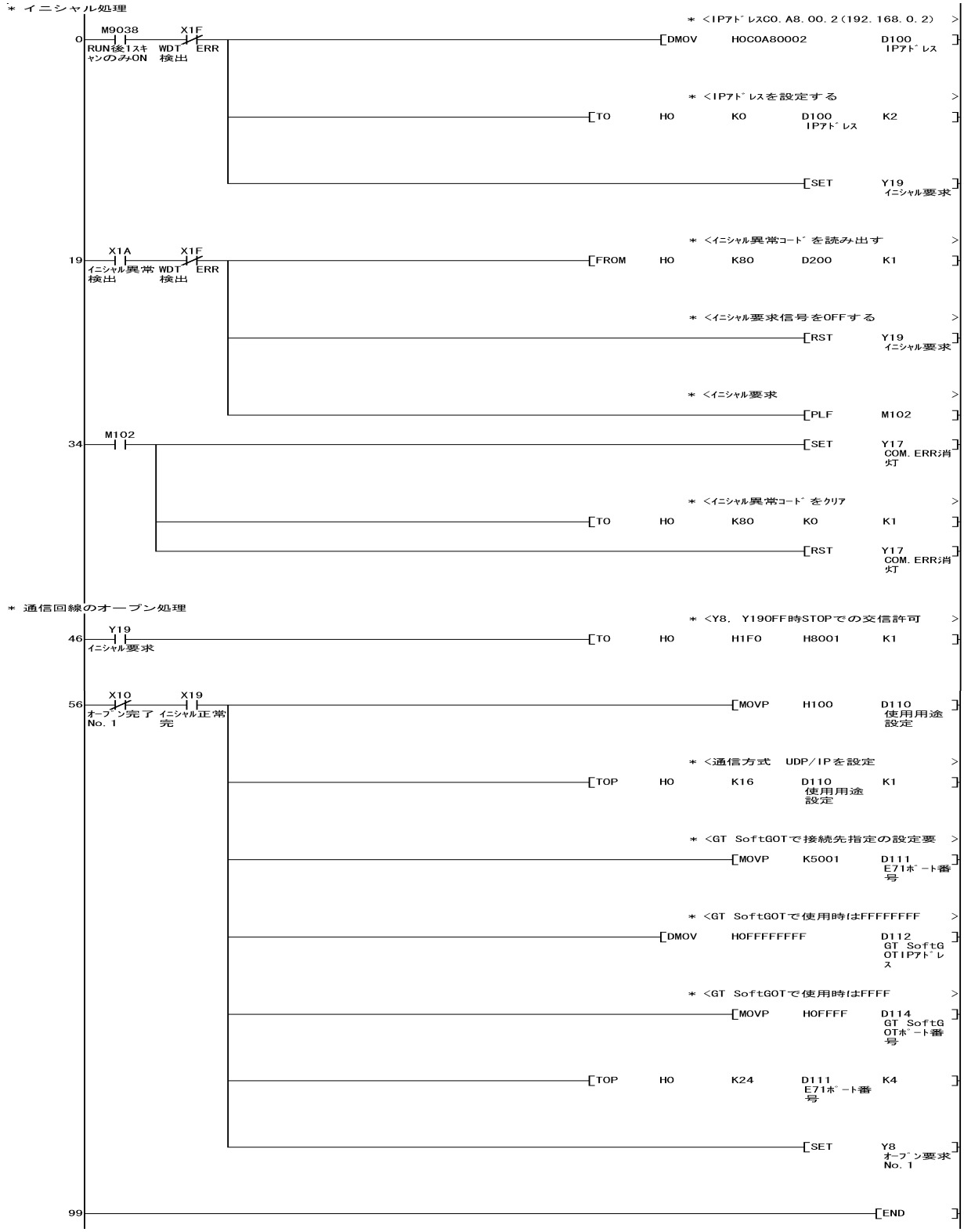
⑤：固定バッファ交信（0:手順ありに設定してください。）
- 0：手順あり
- 1：手順なし

⑥：オープン方式（00:Active, UDP/IPに設定してください。）
- 00：Active, UDP/IP
- 10：Unpassive
- 11：Fullpassive

*2 他ノードポート番号は固定設定です。

その他の設定はユーザにて設定を変更することができます。

(a) シーケンスプログラム



通信できる状態になると，E71のLEDがRUNLED点灯，RDYLEDが点滅します。

(4) パソコンでの設定

IPアドレスを設定してください。

(5) 通信確認(PINGテスト)

E71経由で通信するための準備が完了したら，Windows® のMSプロンプトでPingコマンドを実行してください。

OK時の場合

C:¥>Ping　192.168.0.2

Reply from 192.168.0.2:bytes=32 time<10ms TTL=32

NGの時

C:¥>Ping 192.168.0.2

Request timed out.

Pingが通らない場合はケーブル，ユニットの接続や，Windows® 側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

ポイント

GX Developer(SW6D5C-GPPW 6.01B以降で対応)を使用してPINGテストを行うこともできます。
PINGテストの詳細についてはGX Developerのオペレーティングマニュアルを参照してください。

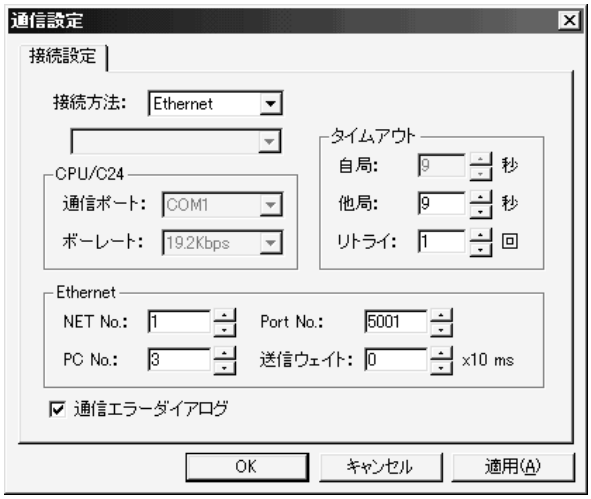
(6) GT Designer2, GT SoftGOT2での設定

(a) GT Designer2の「Ethernet設定」で，モニタするE71について以下の設定を行います。
Ethernet設定の詳細については5.3.4項を参照してください。

設定項目	内　　容
N/W No.	任意に設定します。
PC No.	任意に設定します。
IPアドレス	接続するE71に割り当てられたIPアドレスを設定します。
ポートNo.	シーケンスプログラムで設定した接続先E71のポートNo.を設定します。

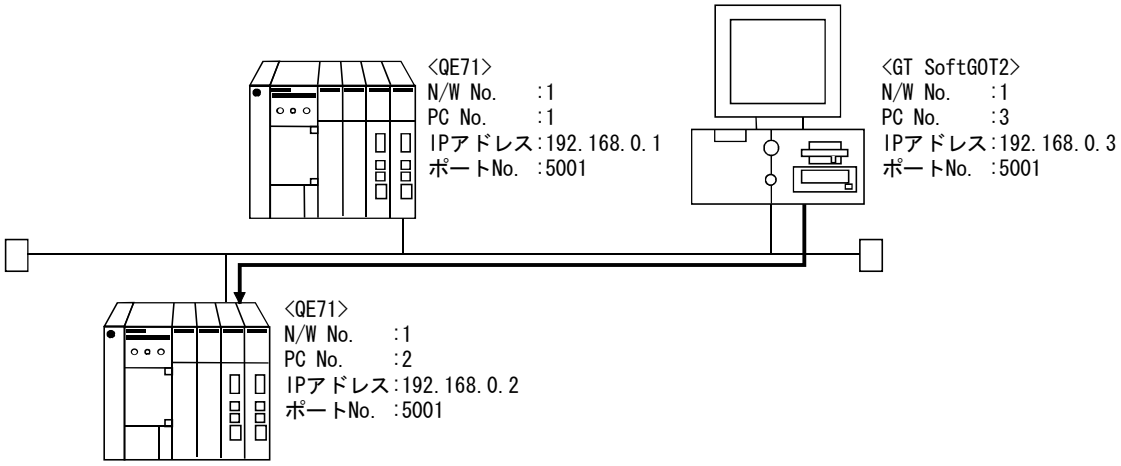


(b) GT SoftGOT2の「通信設定」でGT SoftGOT2の設定を行います。
通信設定の詳細については5.6節を参照してください。



5.3.2 QE71を使用する場合

GT SoftGOT2からQE71を経由して通信を行う場合の設定項目，注意事項を示します。
本項の説明は，下記のシステム構成に対しての説明を行います。



ポイント

QE71へのEthernet接続時に指定される“ポートNo.”は，“5001”固定となります。
Ethernetユニット，GT SoftGOT2のN/W No.，PC No.，IPアドレス，ポートNo.の設定については本項の(5)を参照してください。

QE71経由で通信を行うための手順

制約事項

(a) MELSECNET/B，MELSECNET(Ⅱ)，MELSECNET/10，MELSECNET/H経由での通信は行えません。

(b) ルータ，ゲートウェイを介しての通信は行えません。

(1) 対応機種

QE71とシーケンサCPUは機能バージョンB以降を使用してください。

(2) QE71のスイッチ設定

運転モード設定スイッチ・・・・・・0（オンライン）

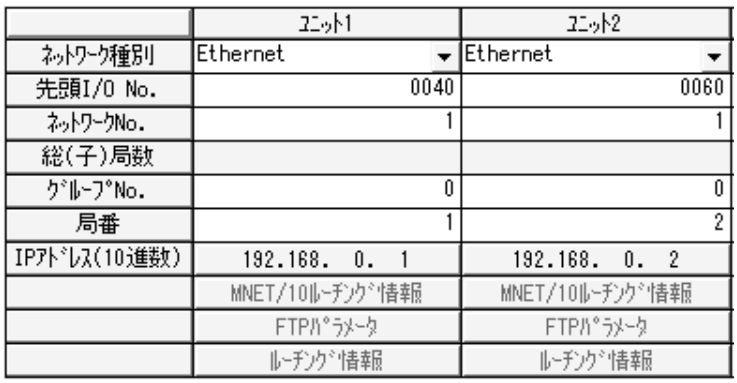
自動起動モード・・・・・・・・・・・・・SW3 ON

SW3がONの場合は，Y19(イニシャル処理要求)に関係なくイニシャル処理を行います。また，CPUユニットをSTOPしても通信が可能になります。

Y19(イニシャル処理要求)を使用してイニシャル処理を行う方法は，AJ71QE71ユーザーズマニュアルを参照してイニシャル処理のプログラムを作成してください。

(3) パラメータ設定（GX Developerでの設定）

ネットワークパラメータのMELSECNET/ETHERNET設定画面でネットワーク種別，先頭I/ONo.，ネットワークNo.，グループNo.，局番，IPアドレスを設定します。

項　　目	設定画面例
Ethernet パラメータ	
IPアドレス設定	

(4) パソコンでの設定

IPアドレスを設定してください。

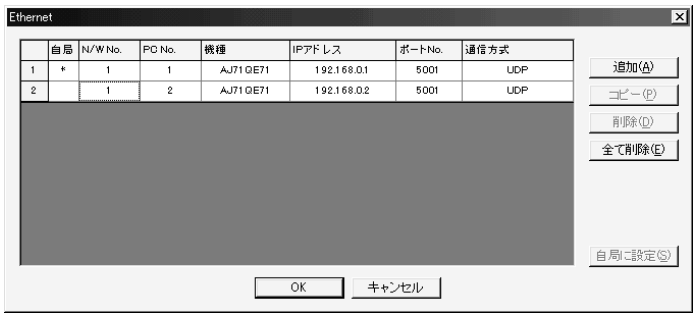
(5) 通信確認(PINGテスト)

通信確認は，5.3.1項(5)を参照してください。

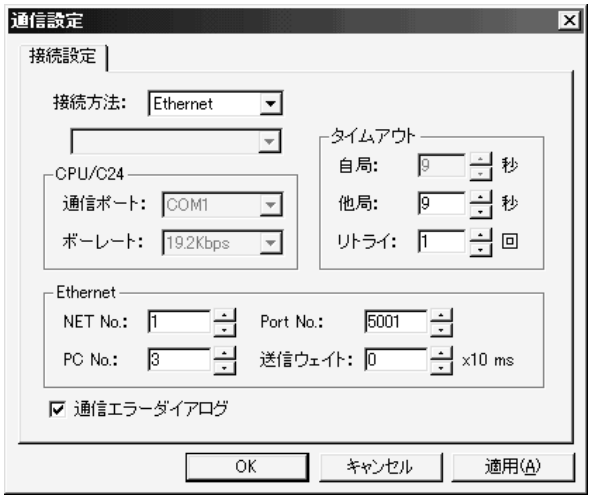
(6) GT Designer2, GT SoftGOT2での設定

(a)GT Designer2の「Ethernet設定」でモニタするQE71について以下の設定を行います。
Ethernet設定の詳細については5.3.4項を参照してください。

設定項目	内　　容
N/W No.	接続するQE71に割り当てられたネットワーク No.を設定します。
PC No.	接続するQE71に割り当てられた局番を設定します。
IPアドレス	接続するQE71に割り当てられたIPアドレスを設定します。
ポートNo.	「5001」固定となります。



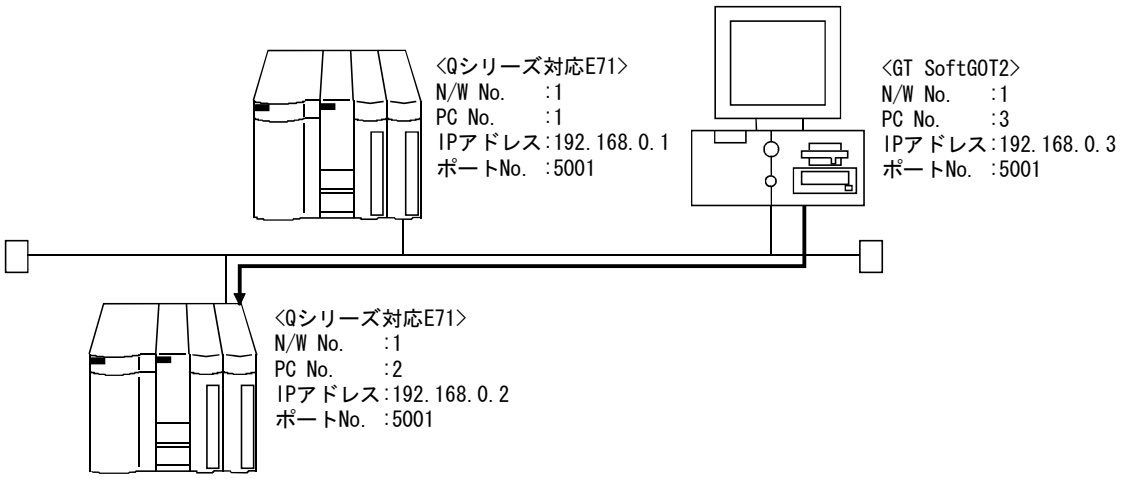
(b) GT SoftGOT2の「通信設定」でGT SoftGOT2の設定を行います。
通信設定の詳細については5.6節を参照してください。



5.3.3 Qシリーズ対応E71を使用する場合

GT SoftGOT2からQシリーズ対応E71を経由して通信を行う場合の設定項目，注意事項を示します。

本項目は，下記のシステムを構成に対して説明を行います。



ポイント

Qシリーズ対応E71へのEthernet接続時に指定される“ポートNo.”は，“5001”固定となります。

Ethernetユニット，GT SoftGOT2のN/W No.，PC No.，IPアドレス，ポートNo.の設定については本項の(4)を参照してください。

Q対応E71経由で通信を行うための手順，制約事項

制約事項

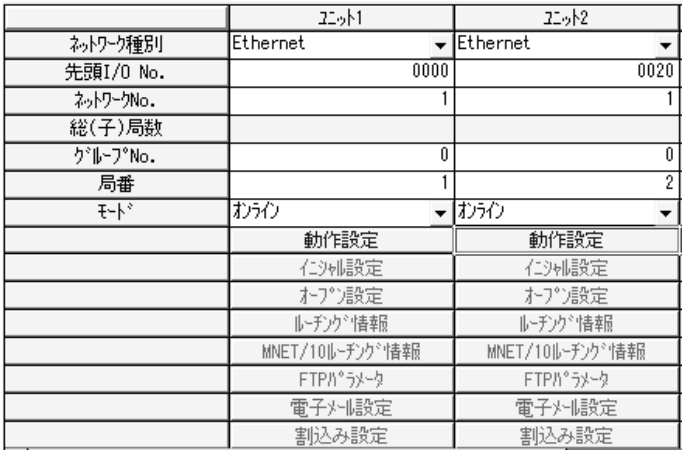
(a) MELSECNET/B，MELSECNET(Ⅱ)，MELSECNET/10，MELSECNET/H経由での通信は行えません。

(1) 対応機種

QJ71E71，QJ71E71-B2，QJ71E71-100

(2) ネットワークパラメータ設定（GX Developerでの設定）

ネットワークパラメータのMELSECNET/Ethernet設定画面でネットワーク種別，先頭I/ONo.，ネットワークNo.，グループNo.，局番，モード，動作設定を設定します。

項　　目	設定画面例
Ethernet	
動作設定*	

*:動作設定について

GX Developerとの通信を行うためには，IPアドレス設定をネットワーク管理者に確認して設定してください。

その他の設定項目は，“任意”に設定できますのでQシリーズ対応E71と接続する他のノードやアプリケーションの仕様に合わせて設定してください。

下記に，GX Developerで“任意”に設定できる動作設定項目を示します。

(1) 交信データコード

“バイナリ交信”，“ASCII交信”のどちらでも通信できます。

(2) イニシャルタイミング設定

この設定に関係なく，シーケンサCPUがSTOP中でもGX Developerから通信ができます。

(3) RUN中書き込みを許可する

この設定に関係なく，GX DeveloperからRUN中書き込みやデバイステストができます。

(3) パソコンでの設定

IPアドレスを設定してください。

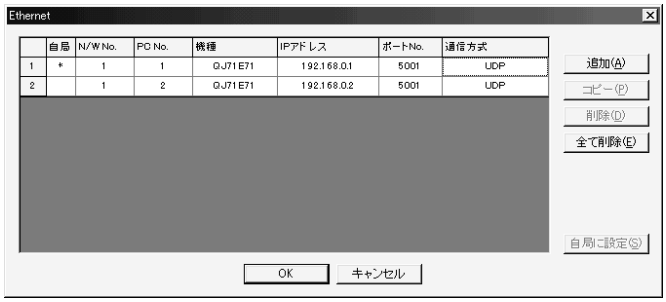
(4) 通信確認(PINGテスト)

通信確認は，5.3.1項(5)を参照してください。

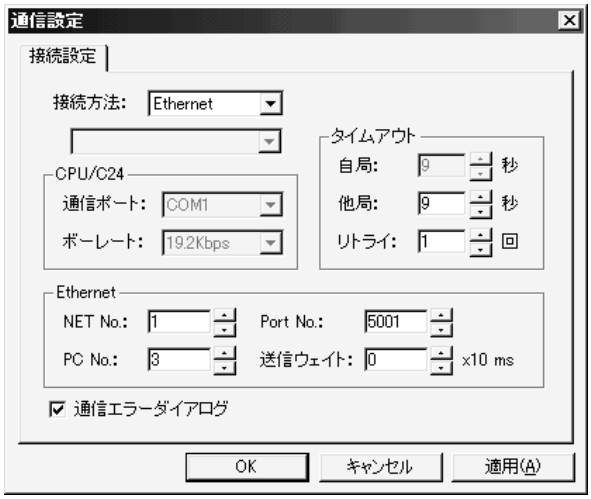
(5) GT Designer2，GT SoftGOT2での設定

(a) GT Designer2の「Ethernet設定」でモニタするQシリーズ対応E71について以下の設定を行います。
Ethernet設定の詳細については5.3.4項を参照してください。

設定項目	内　容
N/W No.	接続する Qシリーズ対応E71に割り当てられたネットワークNo.を設定します。
PC No.	接続する Qシリーズ対応E71に割り当てられた局番を設定します。
IPアドレス	接続する Qシリーズ対応E71に割り当てられたIPアドレスを設定します。
ポートNo.	「5001」固定となります。



(b) GT SoftGOT2の「通信設定」でGT SoftGOT2の設定を行います。
通信設定の詳細については5.6節を参照してください。



5.3.4 GT Designer2での設定

GT Designer2でのEthernet設定の方法を下記に示します。

(1) Ethernet設定方法

(a) 操作手順

下記のいずれかの操作をすると，Ethernet設定ダイアログボックスが表示されます。

・[共通設定]→[Ethernet設定]メニューを選択。
・ワークスペースの  (Ethernet)をダブルクリック

(b) Ethernet設定ダイアログボックス

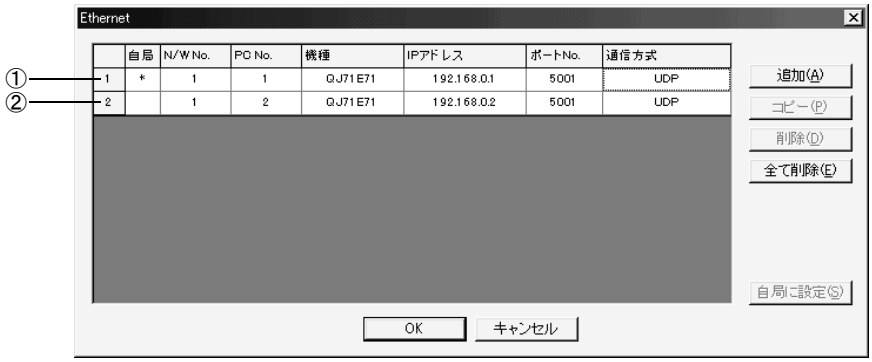


項　目		内　容
Ethernet設定一覧		GT SoftGOT2でモニタする，EthernetユニットのN/W No,, PC No.などを設定します。 最大128個までできます。
	N/W No.	EthernetユニットのネットワークNo.を設定します。
	PC No.	EthernetユニットのPC No.(局番号)を設定します。
	機種	Ethernetユニットの機種（QJ71E71/AJ71QE71/AJ71E71）を選択します。 MELDAS C6/C64の場合，Ethernetユニットの機種を「AJ71QE71」に設定してください。
	IPアドレス	EthernetユニットのIPアドレスを入力します。 IPアドレスは接続するEthernetユニットに割り当てられたIPアドレスを設定してください。
	ポートNo.	EthernetユニットのポートNo.を設定します。 E71の場合,ポートNo.はシーケンスプログラムで設定した接続先E71のポートNo.を設定してください。 「機種」が「QJ71E71」，「AJ71QE71」の場合，“5001”に固定となります。
	通信方式	UDPで固定です。
追加		一覧にEthernet設定を追加します。
コピー		選択したEthernet設定を，一覧の最後にコピーします。
削除		選択したEthernet設定を削除します。
自局に設定		選択したEthernet設定を自局に設定します。 （自局に設定すると，“＊”マークが表示されます。）

5 - 17

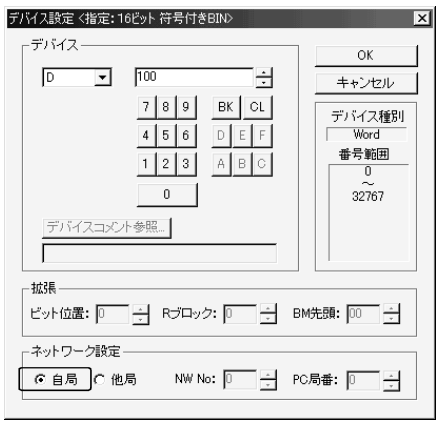
(2) デバイス設定方法

Ethernet接続時にGT Designer2で設定するデバイスの設定方法を下記に示します。



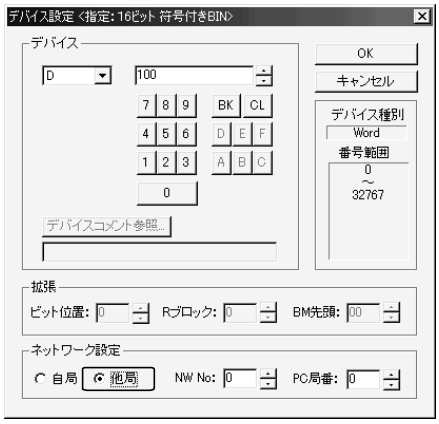
(a) GT SoftGOT2で①のEthernetユニット（自局に設定したEthernetユニット）をモニタする場合，GT Designer2でのデバイス設定時にネットワーク設定を自局に設定してください。

＜GT Designer2での設定例＞



(b) GT SoftGOT2で②のEthernetユニット（自局に設定していないEthernetユニット）をモニタする場合，GT Designer2でのデバイス設定時にネットワーク設定を他局（NW No.「1」，PC局番「2」）に設定してください。

＜GT Designer2での設定例＞



5.4 計算機リンク接続時の設定方法

GT SoftGOT2と計算機リンクユニット，シリアルコミュニケーションユニットおよびモデムインタフェースユニットを接続してモニタする場合は，ユニットのスイッチを下記のように設定してください。

計算機リンクユニット，シリアルコミュニケーションユニット，モデムインタフェースユニット側の設定内容の詳細については，使用するユニットのマニュアルを参照してください。

5.4.1 Aシリーズ使用時の設定方法

(1) AJ71C24-S8と接続する場合

AJ71C24-S8と接続する場合の設定方法を下記に示します。

スイッチ	RS-232C通信時	
	ボーレート（伝送速度）	
	9600bps	19200bps
局番設定スイッチ	0	
モード設定スイッチ	1	
SW11	OFF	
SW12	ON	
SW13	ON	OFF
SW14	OFF	ON
SW15	ON	ON
SW16	ON	
SW17	OFF	
SW18	OFF	
SW21	ON	
SW22	ON	
SW23	OFF	
SW24	OFF	

(2) AJ71UC24と接続する場合

AJ71UC24と接続する場合の設定方法を下記に示します。

スイッチ	RS-232C通信時	
	ボーレート（伝送速度）	
	9600bps	19200bps
局番設定スイッチ	0	
モード設定スイッチ	1	
SW11	OFF	
SW12	ON	
SW13	ON	OFF
SW14	OFF	ON
SW15	ON	ON
SW16	ON	
SW17	OFF	
SW18	OFF	
SW21	ON	
SW22	ON	
SW23	ON	
SW24	OFF	

(3) A1SJ71UC24-R2, A1SJ71C24-R2と接続する場合

A1SJ71UC24-R2, A1SJ71C24-R2と接続する場合の設定方法を下記に示します。

スイッチ	RS-232C通信時	
	ボーレート（伝送速度）	
	9600bps	19200bps
局番設定スイッチ	該当スイッチなし	
モード設定スイッチ	1	
SW01	該当スイッチなし	
SW02	該当スイッチなし	
SW03	OFF	
SW04	ON	
SW05	ON	OFF
SW06	OFF	ON
SW07	ON	ON
SW08	ON	
SW09	ON	
SW10	OFF	
SW11	OFF	
SW12	ON	

5.4.2 QnAシリーズ使用時の設定方法

QnAシリーズ（AJ71QC24(-R2), AJ71QC24N(-R2), A1SJ71QC24(-R2), A1SJ71QC24N(-R2)）と接続する場合の設定方法を下記に示します。

スイッチ	ボーレート（伝送速度）				
	9600bps	19200bps	38400bps	57600bps	115200bps
局番設定スイッチ	0				
モード設定スイッチ	5				
SW01	OFF				
SW02	ON				
SW03	ON				
SW04	OFF				
SW05	OFF				
SW06	ON				
SW07	ON				
SW08	OFF				
SW09	ON	OFF	ON	OFF	ON
SW10	OFF	ON	ON	ON	ON
SW11	ON	ON	ON	OFF	OFF
SW12	OFF	OFF	OFF	ON	ON

＊ 38400bps, 57600bps, 115200bpsは下記ユニットのみ設定可能です。

・AJ71QC24N(-R2)　　・A1SJ71QC24N(-R2)

5.4.3　Qシリーズ使用時の設定方法

Qシリーズ(QJ71C24(-R2)，QJ71C24N(-R2)，QJ71CMO)と接続する場合，スイッチの設定は不要です。(GX DeveloperのI/O割付設定によるスイッチ設定をしなくても，モニタできます。)

また，GOTを接続するユニットのCH（インタフェース）に合わせて，下記のように設定してもモニタできます。

ただし，QJ71CMOと接続時は，CH2のみが使用できます。

GX Developerの操作方法については，GX Developerのオペレーティングマニュアルを参照してください。

GOTを接続するCH	設定内容
CH1	
CH2	

ポイント

機能バージョンBのシリアルコミュニケーションユニットにGOTを接続して使用する場合，シリアルコミュニケーションユニットのCH1，CH2が併用できます。
その為，1台のシリアルコミュニケーションユニットにGOTとGX Developerなどの周辺機器を接続して使用したり，GOTを2台接続して使用することができます。
機能バージョンAのシリアルコミュニケーションユニットでは，GOTは1台しか接続できません。

5.4.4　伝送仕様

GT SoftGOT2と計算機リンクユニットやシリアルコミュニケーションユニットで通信を行う場合の伝送仕様を下記に示します。

項　　目	設定内容			
	Qシリーズ	QnAシリーズ		Aシリーズ
	QJ71C24(-R2)，QJ71C24N(-R2)，QJ71CMO	AJ71QC24N(-R2)，A1SJ71QC24N(-R2)	AJ71QC24(-R2)，A1SJ71QC24(-R2)	AJ71C24-S8，AJ71UC24 A1SJ71UC24-R2，A1SJ71C24-R2
伝送速度	9600bps/19200bps/38400bps/57600bps/115200bps		9600bps/19200bps	
データ長	8ビット			
ストップビット	1ビット			
パリティビット	あり（奇数）			
サムチェック	あり			

5.5　通信設定

通信設定では，接続するシーケンサCPUの種類，通信タイムアウト時間などの設定を行います。

ポイント

通信設定は，モニタ開始前に行ってください。
GT SoftGOT2でモニタ開始後にオプション設定は変更できません。
（「通信エラーダイアログ」の設定は，モニタ中でも変更可能です。）



いずれかを選択

① オプションを設定する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「オンライン」－「通信設定」
- ツールバーの「通信設定」
- マウスの右クリックの「通信設定」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）



② 通信設定ダイアログボックスが表示されますので，各設定を行ってください。
（5.5.1項参照）
設定後，［適用(A)］を押して情報を更新してください。
［OK］ボタンをクリックするとダイアログボックスが閉じます。

5.5.1 通信設定ダイアログボックスの内容



番号	項目名	内　容
①	接続方法	GT SoftGOT2の接続形態を選択します。 「CPU」　：CPU直接接続をする場合に選択します。 「C24」　：計算機リンク接続をする場合に選択します。 「NET/H」　：MELSECNET/Hのボードを使用する場合に選択します。 (MELSECNET/HボードをMELSECNET/10モードで使用する場合も「NET/H」を選択してください。) 「NET/10」　：MELSECNET/10のボードを使用する場合に選択します。 「Ethernet」：Ethernet接続をする場合に選択します。 「Q-BUS」　:Qバス接続をする場合に選択します。(パソコンCPUユニット使用時のみ設定可能です。) (デフォルトは「CPU」です。)
	―	接続方法で「CPU」／「C24」／「NET/H」／「NET/10」を選択した場合，接続先を指定します。 「CPU」選択時：接続するCPUの種類を選択します。 「C24」選択時：接続する計算機リンクユニットまたはシリアルコミュニケーションユニットの種類を選択します。 「NET/H」，「NET/10」選択時：使用するボード（パソコンに装着したボード）を選択します。
②	CPU/C24	接続方法で「CPU」／「C24」を選択した場合，下記内容を設定します。
	通信ポート	パソコン側の通信ポートを選択します。 「COM1」～「COM6」　(デフォルトは「COM1」です。)
	ボーレート	CPUとの伝送速度を設定します。 使用したいボーレートを設定してください。 QnA/Aシリーズの計算機リンク接続時は，使用する計算機リンク／シリアルコミュニケーションユニットで設定しているボーレートと同じ設定をしてください。 FXCPUと接続時は，接続するFXCPUが対応しているボーレートを選択してください。 対応していないボーレートを設定した場合，9.6kbpsにて通信を行います。 MELDAS C6/C64と接続時は，ボーレートを「19.2kbps」に設定してください。
③	タイムアウト	タイムアウト時間，リトライ回数を設定します。
	自局 *1	自局モニタ時のタイムアウト時間を設定します。 「3」～「90」(秒)
	他局 *1	他局モニタ時のタイムアウト時間を設定します。 「3」～「90」(秒)
	リトライ *1	リトライ回数を設定します。 「0」～「10」(回)

番号	項目名	内 容
④	Ethernet	接続方法で「Ethernet」を選択した場合，下記内容を設定します。
	NET No. *1	GT SoftGOT2のネットワークNo.を設定します。 「1」～「239」 (デフォルトは「1」です。)
	PC No.	GT SoftGOT2の局番を設定します。 モニタするEthernetユニットのPC No.と重ならないようにしてください。 「1」～「64」 (デフォルトは「1」です。)
	Port No. *1	GT SoftGOT2のポートNoを設定します。 「1024」～「65535」 (デフォルトは「5001」です。)
	送信ウェイト *1	ネットワーク，対象シーケンサの負荷軽減の為に，送信ウェイト時間を設定します。 「0」～「10000」（×10 ms) (デフォルトは「0」です。)
⑤	通信エラーダイアログ	通信エラー発生時にGT SoftGOT2にエラーのダイアログボックスを表示する場合，チェックボックスをチェックします。 (デフォルトはチェックありです。)
⑥	登録モード	FXCPUと接続時，高速にモニタしたい場合にチェックします。 登録モードを使用すると，モニタするデバイス範囲に制約が発生し，正常にモニタできない場合があります。 本設定は，接続方法で「FX」を選択した場合のみ有効です。 (デフォルトはチェックなしです。)

*1 デフォルトの状態でもGT SoftGOT2は動作します。

ポイント

登録モード使用時の注意事項を以下に示します。
なお，登録モードを使用する場合は，十分にデバッグした上で，使用してください。

(1) 下記のデバイス（ビットデバイス）を設定しているとエラー（通信タイムアウト）が発生する場合があります。
登録モードを使用する場合は，オブジェクトなどのデバイスは，下記以外のデバイスを設定してください。

接続先CPUの種類	デバイス名 （ビットデバイス）	デバイス範囲
$FX_{0(S)}$シリーズ FX_{0N}シリーズ	カウンタ接点(C)	C224～C239
		C240～C255
	特殊補助リレー(M)	M8240～M8255
FX_{1}シリーズ	タイマ接点(T)	T240～T255
	カウンタ接点(C)	C128～C143
		C224～C239
		C240～C255
FX_{1S}シリーズ	カウンタ接点(C)	C224～C239
FX_{1N}シリーズ	カウンタ接点(C)	C192～C207
$FX_{2(C)}$シリーズ		C192～C207
$FX_{2N(C)}$シリーズ		C192～C207

(2) オフセット機能を使用していると，意図しない間に上記デバイス範囲をモニタして，エラー（通信タイムアウト）が発生する場合があります。
モニタデータ作成時，上記デバイスに対してオフセットしないように作成してください。

(3) 上記(1)，(2)で発生するエラーは，システムアラームに表示されます。
登録モード使用時は，モニタデータにシステムアラームを設定しておくことをお薦めします。

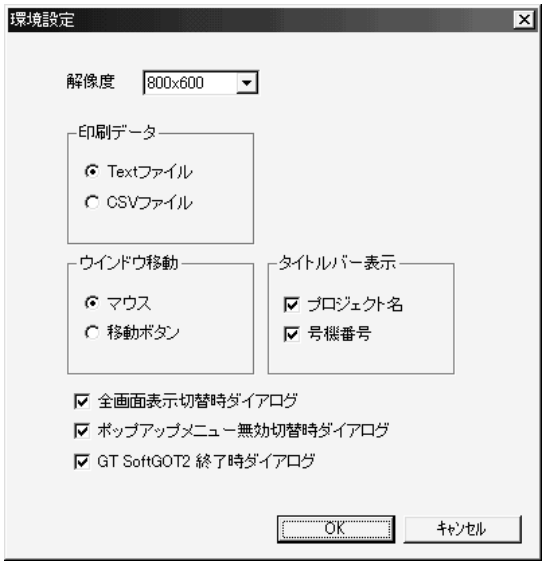
5.6　環境設定

環境設定では，GT SoftGOT2の解像度などの設定を行います。



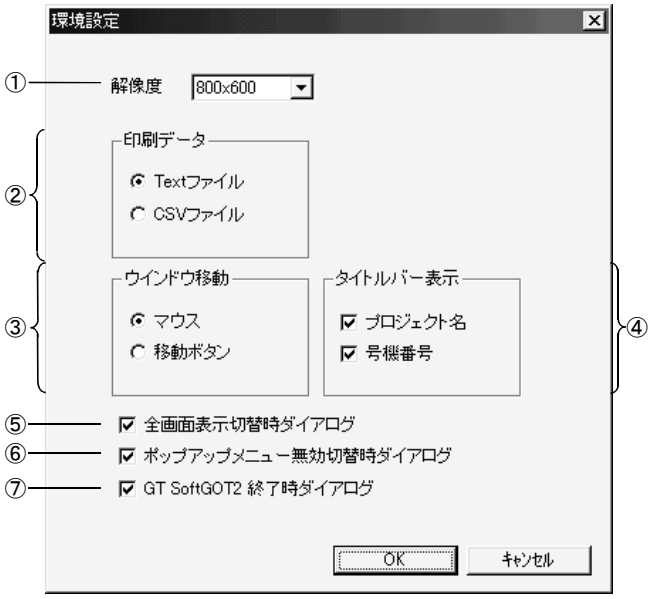
いずれかを選択

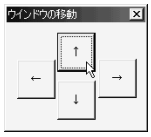
① オプションを設定する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「設定」－「環境設定」
- ツールバーの「環境設定」
- マウスの右クリックの「環境設定」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）



② 環境設定ダイアログボックスが表示されますので，各設定を行ってください。
（5.6.1項参照）
OK ボタンをクリックするとダイアログボックスが閉じます。

5.6.1 環境設定ダイアログボックスの内容



番号	項目名	内　容
①	解像度*1	モニタする画面サイズ（解像度：ドット）を選択します。 「640×480」，「800×600」，「1024×768」，「1280×1024」 （デフォルトは「640×480」です。）
②	印刷データ	アラーム履歴表示／レポート／レシピ機能などの印刷や保存時に，「Memcard」フォルダ内に保存するデータの形式を選択します。 「Textファイル」：データをTextファイル形式で保存します。 「CSVファイル」：データをCSVファイル形式で保存します。 （デフォルトは「Textファイル」です。）
③	ウィンドウ移動	全画面表示機能で，タイトルバーが表示されないときなどに使用する，ウィンドウ移動の方法を選択します。 ウィンドウ移動の詳細は，6.9節を参照してください。 「マウス」　：ウィンドウ移動時，マウスの移動で，GT SoftGOT2を移動します。 マウスのクリックで位置を決定します。 「移動ボタン」：ウィンドウ移動時，「ウィンドウの移動」ダイアログボックスが表示され，上下左右ボタンをクリックすると，5ドット単位でGT SoftGOT2を移動します。 マウスが使用できないパネルコンピュータでも，ウィンドウの移動ができます。  ウィンドウの移動ダイアログボックス （デフォルトは「マウス」です。）
④	タイトルバー表示	タイトルバーに表示する内容を選択します。 （デフォルトはプロジェクト名，号機番号ともにチェックありです。）
	プロジェクト名	タイトルバーにプロジェクト名を表示する場合，チェックします。
	号機番号	タイトルバーに号機番号を表示する場合，チェックします。
⑤	全画面表示切替時ダイアログ	全画面表示切替時に，確認のダイアログボックスを表示する場合，チェックします。 （デフォルトはチェックありです。）
⑥	ポップアップメニュー無効切替時ダイアログ	ポップアップメニュー無効切替時の確認ダイアログボックスを表示する場合，チェックします。 （デフォルトはチェックありです。）
⑦	GT SoftGOT2終了時ダイアログ*2	GT SoftGOT2終了時の確認ダイアログボックスを表示する場合，チェックします。 （デフォルトはチェックありです。）

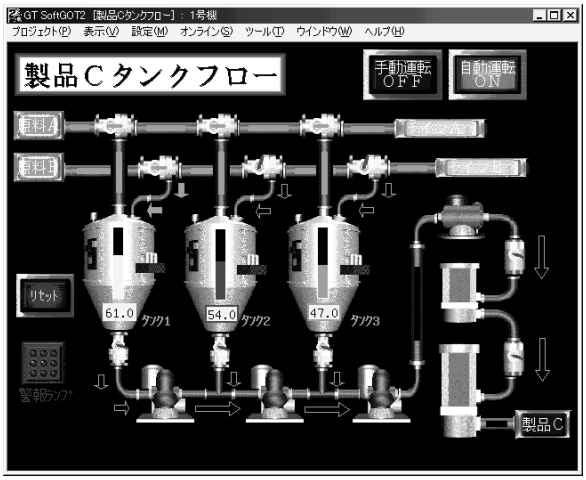
*1　モニタ実行後に設定を変更する場合，GT SoftGOT2を一度終了させる必要があります。（設定の参照は可能です。）

*2　GOTの内部デバイス（GS500.b0のON），ショートカットキー（パソコンのキーボードの『F12』キー）でGT SoftGOT2を終了させる場合は，本設定に関係なく，GT SoftGOT2終了時の確認ダイアログボックスを表示します。

5.7　モニタの実行



① モニタを開始する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「オンライン」－「モニタ開始」
- ツールバーの「モニタ開始」
- マウスの右クリックの「モニタ開始」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）



② 前回モニタしたプロジェクトで，モニタが開始されます。

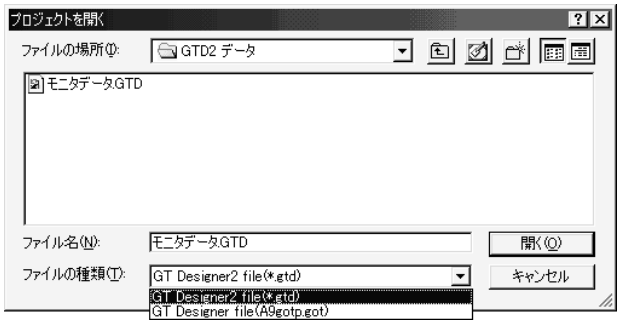
ポイント

- GT SoftGOT2で初めてモニタする場合，「モニタ開始」を実行すると，GT SoftGOT2はユーティリティ画面を表示します。
  この場合，「プロジェクトを開く」（5.8節参照）を実行してモニタデータを読み出すとモニタが開始されます。
  ユーティリティ機能の詳細についてはGOT-A900シリーズオペレーティングマニュアル（拡張機能・オプション機能編）を参照してください。

5.8　プロジェクトを開く



① プロジェクトを開く場合，下記のいずれかを選択します。
- 「プロジェクト」－「開く」
- ツールバーの「プロジェクトを開く」
- マウスの右クリックの「開く」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）



② GT Designer2やGT Designerで作成されたモニタデータが格納されているプロジェクトを選択します。
「ファイルの種類」で，開くファイルの種類を選択できます。
- GT Designer2 file(*.gtd)
- GT Designer file(A9gotp.got)



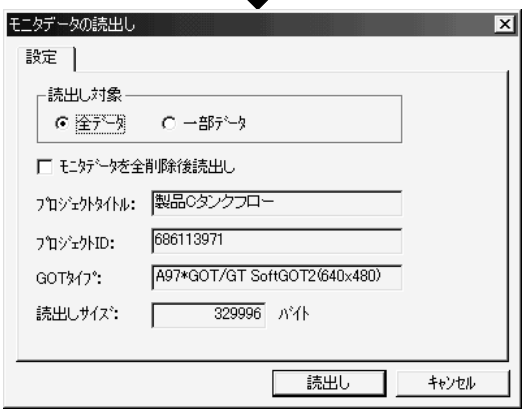
③ 左記ダイアログボックスが表示されます。
（既にオンラインモードの場合は表示されません。）
[はい(Y)]を選択すると，前回モニタしたプロジェクトでモニタを開始します。
（初めてプロジェクトを開く場合はユーティリティ画面を表示します。）

前回モニタしたモニタデータでオンラインモードを実行したくない場合や，オフラインのままプロジェクトを開きたい場合は，あらかじめシーケンサの電源をOFFにするかパソコンとシーケンサを接続している通信ケーブルをはずしておいてください。

（次ページへ）

5 － 28

（前ページから）

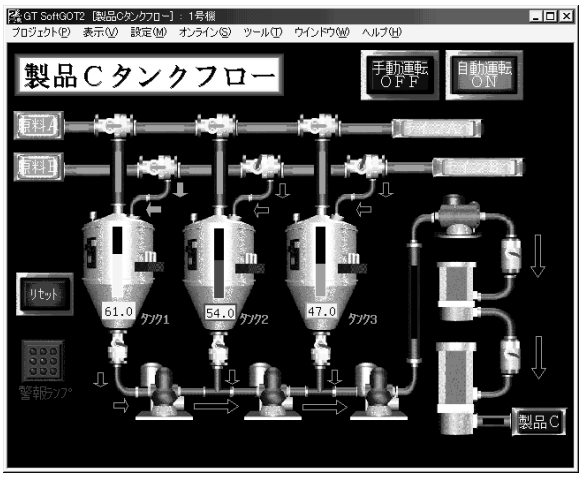


④ 「モニタデータの読み出し」ダイアログボックスが表示されますので各設定を行ってください。（5.8.1項参照）
読出し を選択すると選択したプロジェクトのモニタデータを読み出します。

③でシーケンサの電源をOFFにした場合や，通信ケーブルをはずしている場合は⑤へ進んでください。
それ以外の場合は⑥へ進んでください。



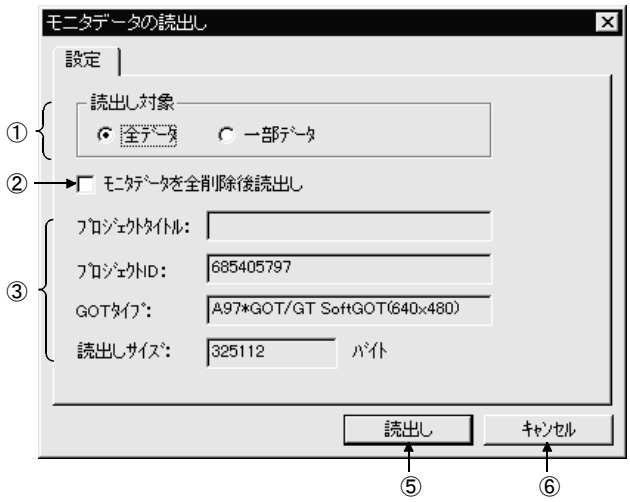
⑤ 左記メッセージが表示されますので，シーケンサの電源をONまたは，通信ケーブルを接続してから OK を選択してください。



⑥ 選択したプロジェクトでモニタが開始されます。

5 - 29

5.8.1　モニタデータの読出しダイアログボックスの内容





番号	項　　目	内　　容
①	読出し対象	「全データ」 　選択したプロジェクトのすべてのモニタデータを読み出すときにチェックします。 「一部データ」 　選択したプロジェクトの一部のモニタデータを読み出すときにチェックします。
②	モニタデータを全削除後読出し	すでに読み出しているモニタデータを削除した後に，選択したプロジェクトのモニタデータを読み出すときにチェックボックスをチェックします。
③	プロジェクトタイトル プロジェクトID GOTタイプ 読出しサイズ	読み出すモニタデータの設定内容やデータサイズが表示されます。
④	「ベース」 「ウィンドウ」 「レポート」 「その他」 タブ	読出し対象で「一部データ」を選択した場合に，読み出す対象のチェックボックスをチェックします。 「ベース」／「ウィンドウ」／「レポート」タブ 　読み出す画面の画面番号と画面タイトルのチェックボックスをチェックします。 「その他」タブ 　読み出す対象（部品データ，コメント，共通設定の内容，高品位文字，音声WAVE）のチェックボックスをチェックします。 　共通設定は必ず読み出されます。
⑤	読出し	選択したプロジェクトのモニタデータを読出します。
⑥	キャンセル	選択したプロジェクトのモニタデータの読出しをキャンセルします。

5.9　モニタ時の操作

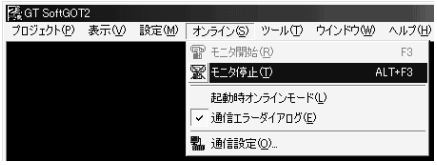
GT SoftGOT2ではタッチスイッチの入力は，マウスの入力で行います。
入力が実行されたときは「ピッ」と音が鳴ります。



ポイント

Windows® 98，Windows® Meでは，サウンドカードを装着している場合，「コントロールパネル」-「サウンド」の「一般の警告音」で設定した音が鳴ります。

5.10　モニタの停止



[ツールバー]



いずれかを選択

① モニタを停止する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「オンライン」－「モニタ停止」
- ツールバーの「モニタの停止」
- マウスの右クリックの「モニタ停止」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

5.11　GT SoftGOT2の終了



いずれかを選択

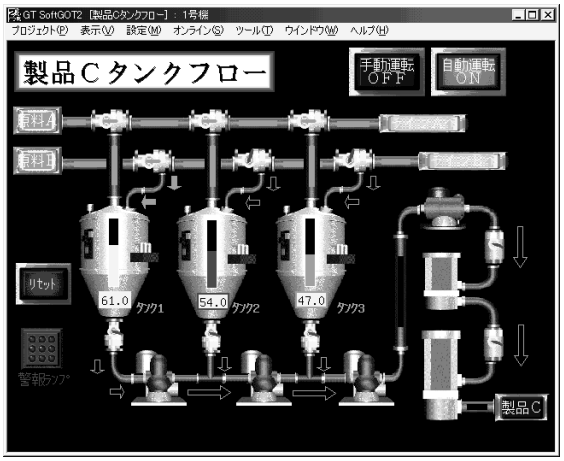
① GT SoftGOT2を終了する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「プロジェクト」－「終了」
- システムメニューの「閉じる」
- マウスの右クリックの「終了」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

ポイント

GOT内部デバイス（GT SoftGOT2のシステム情報エリア：GS500.b0）をONするとGT SoftGOT2を終了することができます。
上記デバイスをタッチスイッチで設定しておけば，メニューを選択しなくてもGT SoftGOT2を終了できます。
GOT内部デバイスの詳細についてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

5.12　自動起動について

起動時オンラインモードを使用してWindows® 起動時にGT SoftGOT2を自動的に起動させる方法を下記に示します。



① GT SoftGOT2起動後，自動起動させたいモニタデータを読み出して，GT SoftGOT2でモニタします。



② 下記のいずれかを選択します。
・「オンライン」－「起動時オンラインモード」
・マウスの右クリックの「起動時オンラインモード」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

③ GT SoftGOT2を終了します。

[Windows® 98の場合]



④ エクスプローラを起動してWindows® の“スタートアップ”に“MELSOFTアプリケーション”内にあるGT SoftGOT2のアイコンをコピーします。

⑤ 次回からWindows® 起動時にGT SoftGOT2が自動的に起動されモニタを行います。

ポイント

自動起動を行う場合，必ず接続先のシーケンサCPUに電源が入っている状態でWindows® を起動してください。

第６章　GT SoftGOT2の機能

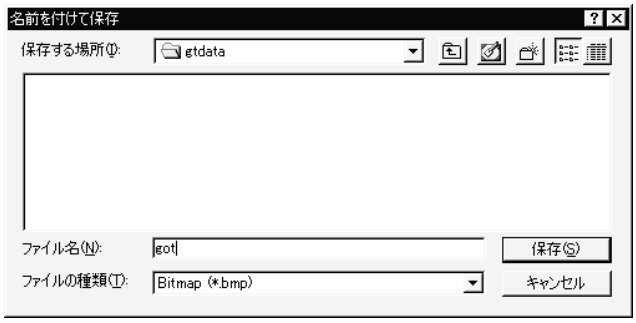
6.1　スナップショット機能

スナップショット機能は，GT SoftGOT2でモニタ中の画面を，BMP形式のファイルで任意のフォルダに保存することができる機能です。

6.1.1　操作手順



① GT SoftGOT2モニタ中に「プロジェクト」－「スナップショット」を選択します。



② データを保存するフォルダを選択します。
ファイル名を設定した後に 保存(S) を押すと，モニタ中の画面がBMP形式で保存されます。

6.2　印刷機能

印刷機能は，GT SoftGOT2でモニタ中の画面をプリンタへ出力することができる機能です。

6.2.1　操作方法



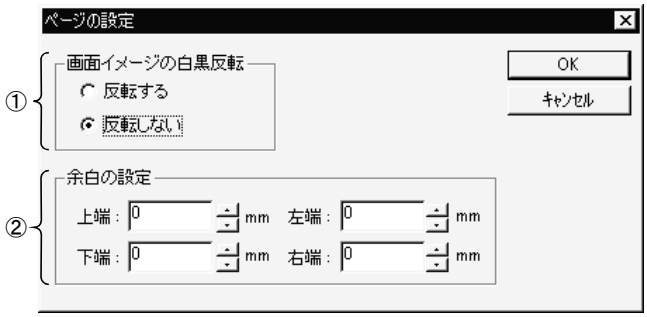
① GT SoftGOT2モニタ中に「プロジェクト」－「印刷」を選択すると，印刷を開始します。
プリンタが指定されていない場合，印刷ができませんので注意してください。

6.2.2　印刷プレビューについて

印刷プレビューを選択すると，印刷イメージが表示されます。

6.2.3　ページ設定について

ページ設定を選択すると，下記ダイアログボックスが表示されます。

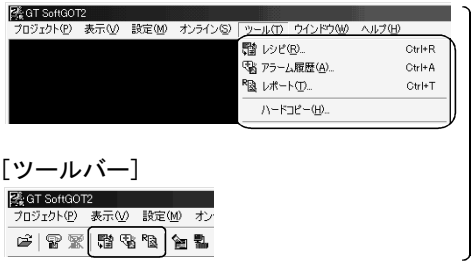


番号	項　　目	内　　容
①	画面イメージの白黒反転	印刷時に画面を白黒反転して印刷する場合，「反転する」を選択します。 （デフォルトは「反転しない」です。）
②	余白の設定	印刷時のページの余白を設定します。 余白を設定した場合，指定した数値によって印刷する画面が縮小されます。 画面の縮小イメージは，印刷プレビューでも確認できます。

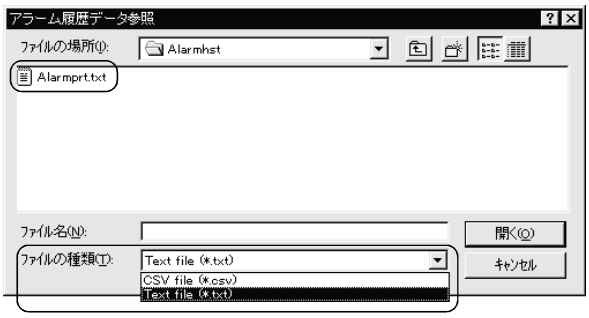
6.3　データ参照機能

パソコンのハードディスクに保存されている，下記オブジェクト機能のデータを参照することができます。

項　　目	内　　容
レシピ機能	CSV形式のファイルで保存されているレシピデータを参照します。
アラーム履歴機能	テキスト形式やCSV形式のファイルで保存されているアラーム履歴の印字イメージデータを参照します。
レポート機能	テキスト形式やCSV形式のファイルで保存されているレポートの印字イメージデータを参照します。
ハードコピー機能	BMP形式のファイルで保存されている画面イメージデータを参照します。



① 下記のいずれかを選択します。
- 「ツール」－「レシピ／アラーム履歴／レポート／ハードコピー」
- ツールバーの各ボタンをクリック
  （レシピ，アラーム履歴，レポートのみ）
- マウスの右クリックの「ツール」－「レシピ／アラーム履歴／レポート／ハードコピー」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）



② 参照するファイルを選択します。

アラーム履歴データ，レポートデータを参照する場合，参照するファイルの種類を選択してください。

ポイント

- データ参照中はデータの更新は行われません。（データは保留されます）
  （データ参照終了後，次回印字データ更新時に保留データが反映されます）
- アラーム履歴表示機能やレポート機能で表を作成する場合，例1のような表で作成してください。
  例2のような表を作成した場合，CSVファイルで正しく表示されません。

（例1）　GT Designer2で作成した表

	A	B
X	1	2
Y	3	4

→

CSVファイルの表

	A	B
X	1	2
Y	3	4

（例2）　GT Designer2で作成した表

	A	B
X	1	2
Y	3	4

→

CSVファイルの表

A	B	
X	1	2
Y	3	4

- データ参照時，「アプリケーションの起動に失敗しました。」のメッセージが表示された場合，アプリケーション関連付けの設定や，ハードディスク／メモリ容量を確認してください。

6.4　メール送信機能

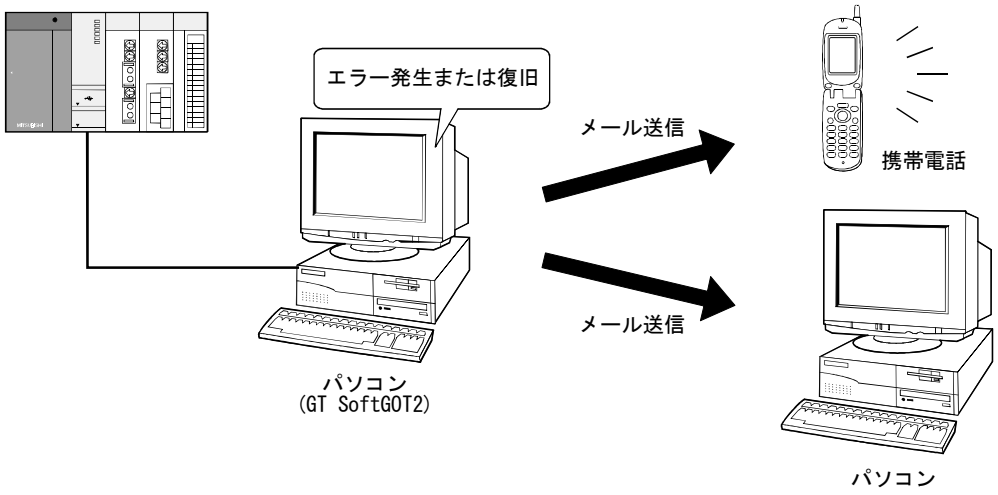
ポイント
・ メール送信機能を使用する場合，GT SoftGOT2からメールを送信しますので，送信元にはメールソフトは必要ありません。 ・ メール送信機能を使用する場合，プロバイダと契約してメール送信が行える環境にする必要があります。

6.4.1　メール送信機能の概要

GT SoftGOT2からパソコンや携帯電話にメッセージを送信することができます。
メール送信機能は下記のオブジェクト機能でのみ使用することができます。
・アラーム履歴表示機能
・タイムアクション機能
・システムアラーム

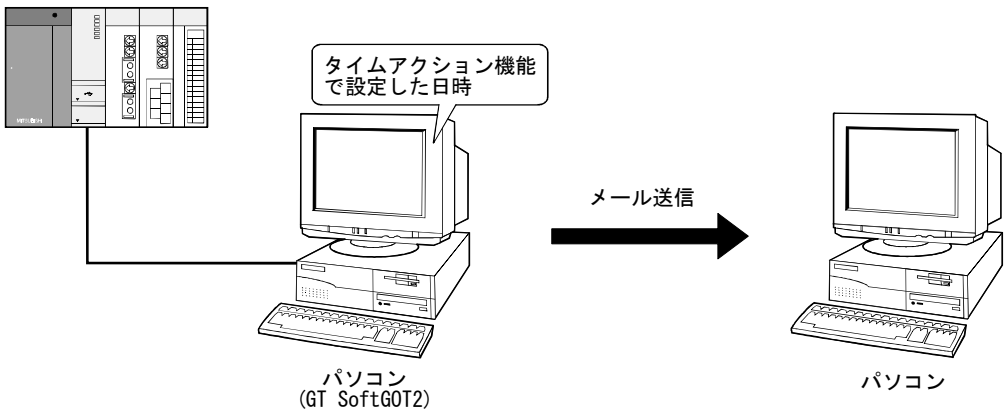
(1) アラーム履歴表示機能を使用する場合

アラーム履歴表示機能を使用して，エラー発生／復旧時に発生情報や復旧情報を送信します。



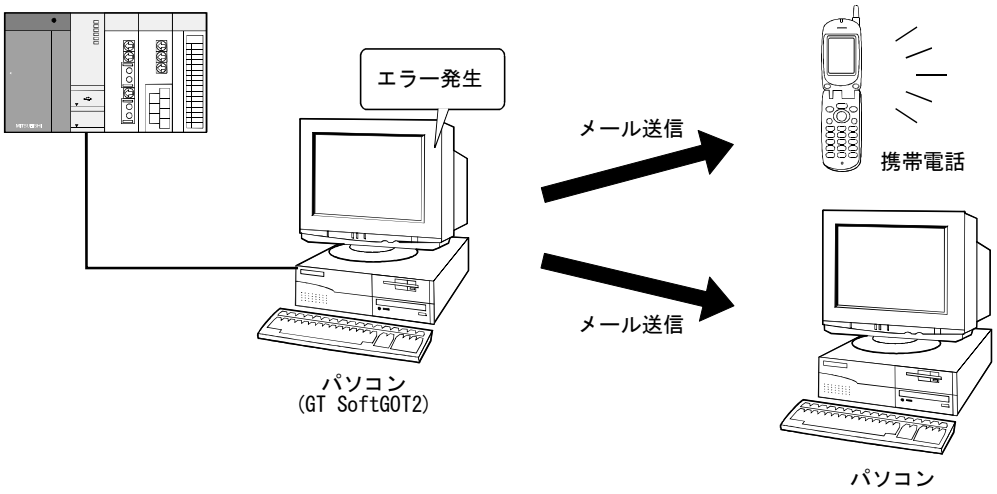
(2) タイムアクション機能を使用する場合

タイムアクション機能を使用して，指定した日時に「Memcard」内に格納されているアラーム履歴データ，レシピデータ，画面イメージを送信します。



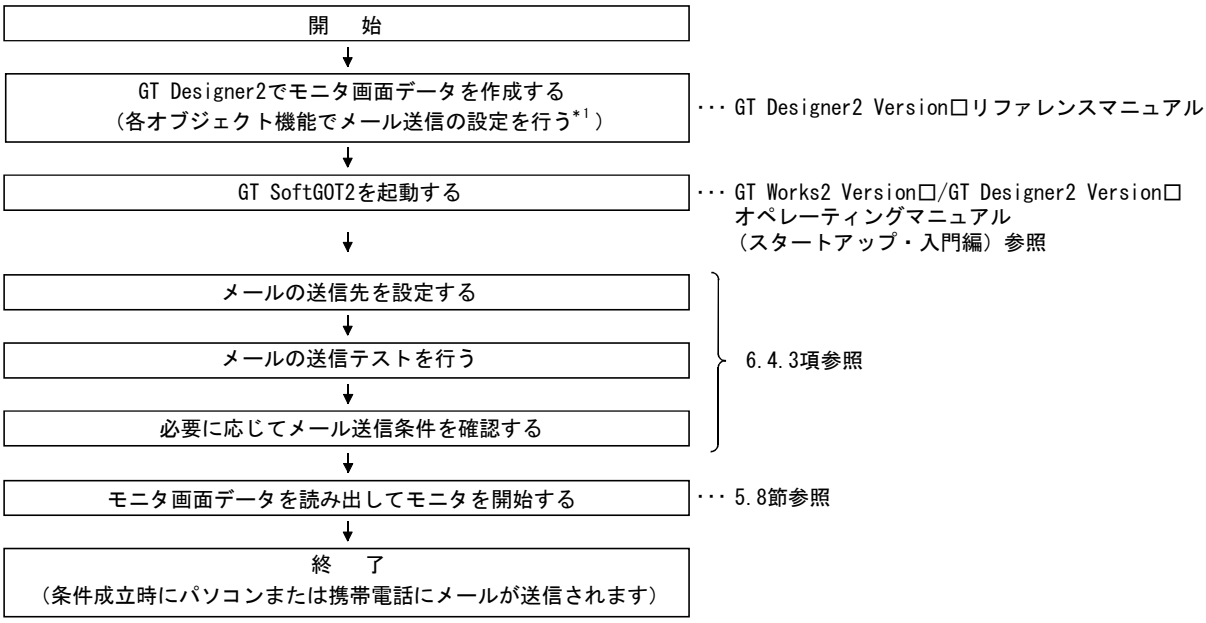
(3) システムアラームを使用する場合

システムアラーム発生時にエラー内容を送信します。
GT SoftGOT2のシステムアラーム送信は，GOTのアラームリスト表示機能（システムアラーム）と異なります。
モニタ画面データにアラームリスト表示機能（システムアラーム）を設定する必要はありません。
メール送信条件設定ダイアログボックスのチェックで使用する／しないを選択します。



6.4.2　メール送信機能使用時の操作の流れ

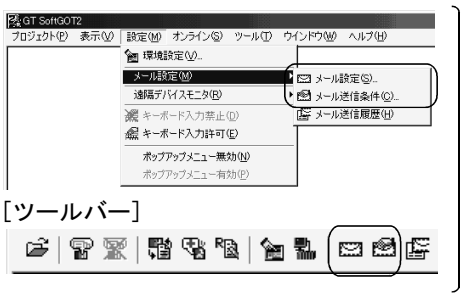
GT SoftGOT2でメール送信機能を使用する場合の操作の流れを下記に示します。



*1 システムアラームの送信を使用する場合，設定不要です。

6.4.3　メール送信機能の設定方法

GT SoftGOT2でメールを送信する場合の設定方法を下記に示します。
メール設定･･･････メール送信先の設定やメールの送信テストを行います。
メール送信条件･･･メール送信条件の設定を行います。



（メール送信設定ダイアログボックスの場合）

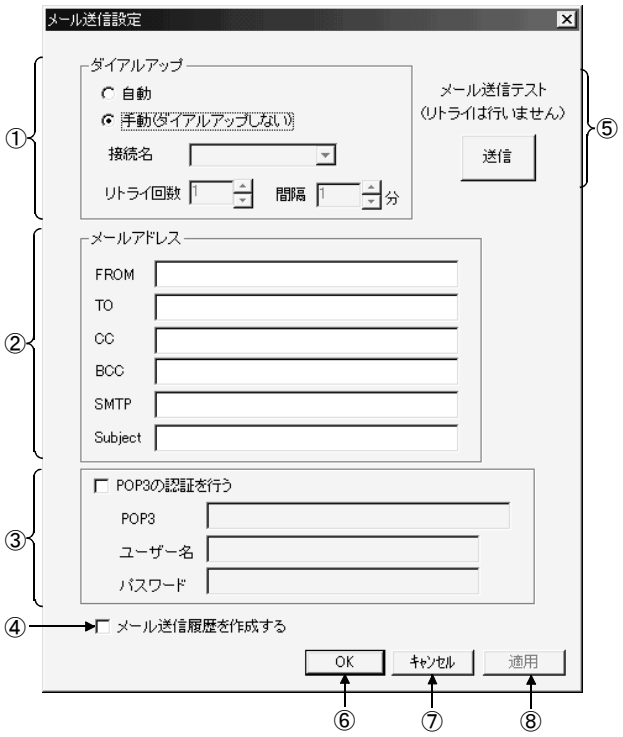


① メール送信機能を設定する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「設定」―「メール設定」―「メール設定／メール送信条件」
- ツールバーの「メール送信先の設定／メール送信条件の設定」
- マウスの右クリックの「設定」―「メール設定／メール設定条件」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② メール送信設定ダイアログボックスまたはメール送信条件設定ダイアログボックスが表示されますので，各設定を行ってください。
（6.4.3項（1），(2)参照）
設定後，[OK]ボタンをクリックするとダイアログボックスが閉じます。

(1) メール送信設定ダイアログボックスの内容

GT SoftGOT2から相手機器にメールを送信するための設定を行います。
また，メールの送信テストを行うことができます。



番号	項　目		内　容
①	ダイアルアップ		ダイアルアップを使用してメールを送信する／しないを設定します。 (デフォルトは「手動」です。)
		自動	ダイアルアップを使用してメールを送信する場合にチェックします。 「自動」をチェックした場合，メール送信の条件成立時，サーバに接続してメールを送信します。 メール送信後はサーバへの接続を解除します。 「接続名」，「リトライ回数」，「間隔」を設定する必要があります。
		手動	ダイアルアップを使用しないでメールを送信する場合にチェックします。 「手動」をチェックした場合，常にサーバに接続されている状態でメールを送信します。 メール送信後もサーバへの接続は解除されません。
		接続名	Windows® のダイアルアップ接続エントリ名を選択します。 ダイアルアップのエントリ方法については使用するWindows® のヘルプを参照してください。
		リトライ回数	ダイアルアップに失敗した場合，リトライを行う回数を設定します。 「0」～「10」　(デフォルトは「1」です。)
		間隔	リトライを実行する間隔を設定します。 「1」～「10」(分)　(デフォルトは「1」です。)
②	メールアドレス		メールの送信元，送信先，サーバ名，タイトルを入力します。
		FROM	メール送信元のアドレスを入力します。
		TO*	メール送信先のアドレスを入力します。
		CC*	メール送信先（写し）のアドレスを入力します。（入力しなくても送信可能）
		BCC*	メール送信先（隠し写し）のアドレスを入力します。（入力しなくても送信可能）
		SMTP	メールサーバ名を入力します。
		Subject	メールのタイトルを入力します。
③	POP3の認証を行う		メール送信時にPOP3サーバの認証が必要な場合，チェックボックスをチェックして必要な情報を入力します。　(デフォルトはチェックなしです。)
		POP3	POP3のサーバ名を入力します。
		ユーザ名	ユーザ名を入力する。
		パスワード	ユーザ名に対するパスワードを入力する。

番号	項　目	内　容
④	メール送信履歴を作成する	メールの送信履歴を作成する場合，チェックボックスをチェックします。 (デフォルトはチェックなしです。)
⑤	メール送信テスト	送信 ボタンをクリックすると，送信先にテストメールを送信します。
⑥	OK	設定した内容を更新してダイアログボックスを閉じます。
⑦	キャンセル	設定した内容を中止してダイアログボックスを閉じます。
⑧	適用	設定した内容を更新します。

＊ 複数のアドレスを入力する場合，アドレス間はスペースまたはカンマで区切るようにしてください。
アドレスは各設定32個まで入力できます。
1アドレス64文字まで入力することができます。

(a) ダイアルアップ（自動）を行う場合

GT SoftGOT2でダイアルアップ（自動）を行う場合の設定方法の概略手順について説明します。

ポイント

ダイアルアップの設定方法の詳細については契約プロバイダのマニュアル，Windows® のヘルプを参照してください。

① 使用するモデムのセットアップを行います。

② Windows® の「マイコンピュータ」-「ダイアルアップネットワーク」をダブルクリックします。
ダイアルアップネットワーク接続作成のウィザードが表示されますので，画面に従って設定を行ってください。

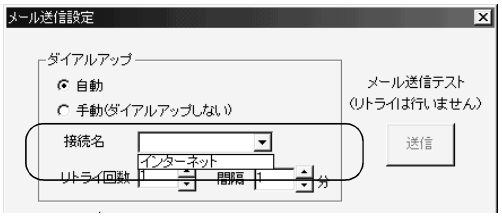
③ ダイアルアップネットワーク接続作成後，作成したアイコンをダブルクリックします。

④ 下記画面でインターネットプロバイダから指定されたユーザ名，パスワードを入力し，「パスワードの保存」をチェックしてください。
設定後「接続」をクリックして接続してください。
接続に成功したら，接続を解除してダイアログボックスを閉じます。

＜Windows® 98の場合＞



⑤ 上記設定後，GT SoftGOT2のメール送信設定の「接続名」で設定したエントリが選択できるようになります。



備　考

ダイアルアップ（自動）を行う場合，Windows® 起動時に必ずログオンするようにしてください。
ログオンしていないと上記④で「パスワードの保存」をチェックすることができません。

(b) メール送信テストについて

GT SoftGOT2でモニタを開始する前に，メールが正しく送信されるかを確認することができます。

メール送信テストはメール設定ダイアログボックスで設定されている内容を基に，送信先に下記のようなGT SoftGOT2のサンプルメッセージを送信します。

① 送信先に表示されるGT SoftGOT2のサンプルメッセージ

```
SoftGOT2 TEST MAIL
This is testmail.
```

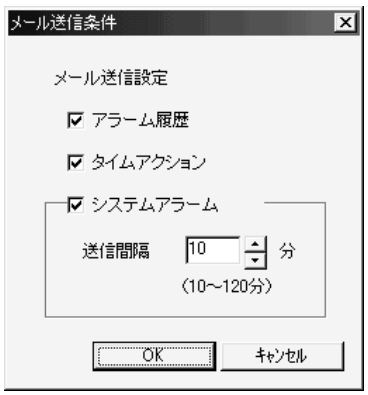
ポイント

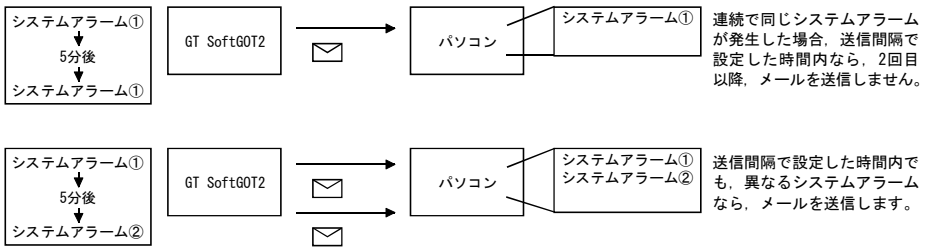
メール設定ダイアログボックスの「メール送信履歴を作成する」にチェックがある場合は，送信テストの状況が履歴データとして保存されます。

メール送信履歴の内容については6.4.6項を参照してください。

(2) メール送信条件設定ダイアログボックスの内容

GT Designer2でメールの送信を設定している場合，モニタ画面データを修正することなく，メールを送信しないに設定することができます。
メール送信を行いたくない機能のチェックをはずしてください。
（デフォルトはチェックありです。）



項　目		内　容
メール送信設定		各機能でメール送信機能を使用する／しないを設定します。
	アラーム履歴	メール送信機能で，アラーム履歴表示機能を使用する場合にチェックします。
	タイムアクション	メール送信機能で，タイムアクション機能を使用する場合にチェックします。
	システムアラーム	メール送信機能で，システムアラームを使用する場合にチェックします。 チェック後，同一エラーが連続して発生した場合の送信間隔（10～120分）を設定します。 （例）エラー送信間隔を15分に設定した場合 

ポイント

アラーム履歴表示機能，タイムアクション機能でメール送信機能が設定されていない場合は，本設定は無視されます。（チェックがあってもメールは送信しません。）
オブジェクトの設定についてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

6.4.4　メールの送信について

GT SoftGOT2から相手機器にメールを送信した場合，下記のように送信先の受信ヘッダ部にGT SoftGOT2からの送信を示す表示がされます。

(a) 送信先の受信ヘッダ部の表示例

```
From:**********************
To:**********************
Cc:**********************
Subject:GT SoftGOT2のアラーム
            :
X-Mailer:GT SoftGOT2 Version1
```

ポイント

1. 送信したメールの表示形態，表示内容は送信先のメーラの仕様によります。
2. 携帯電話へメールを送信した場合，携帯電話の仕様（画面サイズ）により，表示内容が異なる場合があります。
3. GT SoftGOT2が同時に送信できるメールは最大64件です。
   アラームなどが65件以上発生した場合，65件目以降のメールは送信されません。
4. GT SoftGOT2複数起動時，メール送信してきたGT SoftGOT2の号機は，以下の方法で判別できます。
   - URLで確認する。
     メール下部にあるURLで，送信してきたGT SoftGOT2の号機が確認できます。
     http://10.97.85.50/SOFTGOT2/index.cgi?1 ——URLの末尾に号機番号が記載されます。
     (?1：1号機，?2：2号機，?3：3号機・・・)
   - Subjectで確認する。
     メール設定（6.4.3項 参照）で，「Subject」にGT SoftGOT2の号機を記載しておけば，受信ヘッダ部のSubjectで，号機が確認できます。

(1) アラーム履歴表示機能を使用してメールを送信する場合

GT SoftGOT2でアラームが発生した場合，アラームの発生時刻，発生情報を送信先にメールで送信します。
また，発生したアラームが復旧した場合，アラームの復旧時刻，復旧情報を送信先にメールで送信します。
アラーム履歴表示機能の設定方法についてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

(a) 送信先の表示例（アラーム発生時）

```
【アラーム履歴　発生通知】
【発生日時】
2000/12/23 09:48:15
①→【発生情報】
Aライン供給コンベア停止。
②→【詳細】
X2 ON
Aライン供給コンベアが停止しています。
電源を確認して下さい。

http://10.97.85.50/SOFTGOT2/index.cgi?1
```

① アラーム履歴表示機能で設定したコメントが表示されます。
② アラーム履歴表示機能で設定した詳細表示の内容が表示されます。
アラーム履歴表示機能の詳細表示設定を設定していない場合や，ベース画面，ウィンドウ画面に設定している場合，【詳細】は表示されません。
（【詳細】には「detail comment nothing」と表示されます。）
【詳細】を表示する場合，詳細表示設定をコメントウィンドウで設定してください。

(b) 送信先の表示例（アラーム復旧時）

```
【アラーム履歴　復旧通知】
【復旧日時】
2000/12/23 10:38:23
【復旧情報】
アラーム「Aラインコンベア停止」は復旧しました。
【詳細】
Alarm history : detail comment nothing


http://10.97.85.50/SOFTGOT2/index.cgi?1
```

(2) タイムアクション機能を使用してデータを送信する場合

GT Designer2で設定された曜日・時刻になると下記データを添付して送信先にメールを送信します。
・アラーム履歴データ･･･CSV形式のファイル
・レシピデータ･･･････････CSV形式のファイル
・画面イメージ･･･････････BMP形式のファイル
タイムアクション機能の設定方法についてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

(a) 送信先の表示例（アラーム履歴データ送付時）

```
【タイムアクション】
【設定内容】
曜日指定 月，金
開始時間 11:30:00
アラーム履歴データの送付

http://10.97.85.50/SOFTGOT2/index.cgi?1
□ Alarmhst.csv
```

ポイント

使用する携帯電話の仕様により，データを添付してメールを送信できない場合があります。
詳細は使用する携帯電話の取扱説明書を参照してください。

(3) システムアラームを使用してメールを送信する場合

通信エラー発生時に，エラーの発生時刻，エラー情報を送信先にメールで送信します。

(a) 送信先の表示例（エラー発生時）

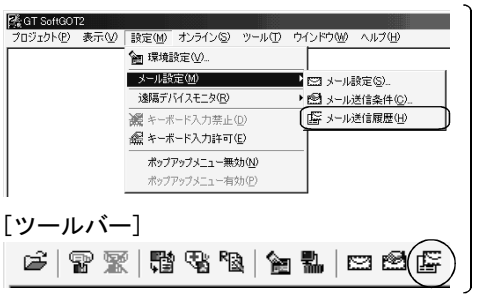
```
【システムアラーム】
 402 通信タイムアウト      2002/12/20      15:34:45
 http://10.97.85.50/SOFTGOT2/index.cgi?1
```

6.4.5 メール送信履歴について

GT SoftGOT2から送信したメールの動作履歴データを参照することができます。
また，メール送信時に発生したエラー内容も参照することができます。
メール送信履歴データはWindows® のメモ帳などで表示されます。

(1) メール送信履歴の参照方法

メール送信履歴データの参照方法を下記に示します。



① メール送信履歴を参照する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「設定」―「メール設定」―「メール送信履歴」
- ツールバーの「メール送信履歴」
- マウスの右クリックの「設定」―「メール送信履歴」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

(a) メール送信履歴データの表示例

```
2000/12/23  09:48:16      SMTP:***** を検索中...
2000/12/23  09:48:16      SMTP:***** に接続中...
2000/12/23  09:48:16      SMTP:***** との接続が確立しました
2000/12/23  09:48:16      メール送信完了
2000/12/25  12:53:45      SMTP:***** を検索中...
2000/12/25  12:53:51      SMTP:***** は見つかりませんでした
2000/12/25  12:53:51      メール送信ができませんでした
2000/12/27  15:43:22      <ErrCode:***> **********
2000/12/28  10:38:49      サーバのエラー通知：**********
```

ポイント

- メール送信履歴データがない場合，メール送信履歴を参照できません。
  メール送信履歴データを作成する場合は，メール送信設定ダイアログボックスの「メール送信履歴を作成する」のチェックボックスをチェックしてください。
  メール送信設定ダイアログボックスについては6.4.3項を参照してください。
- メール送信履歴データはGT SoftGOT2を終了しても削除されません。
  不要になった履歴はユーザにて削除してください。

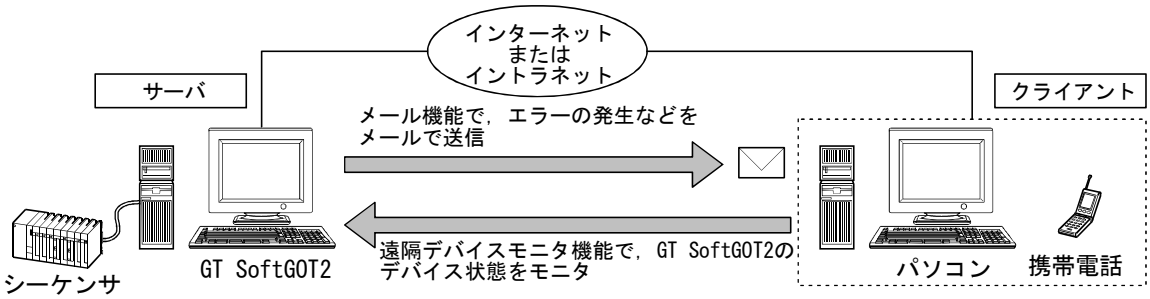
6.5 遠隔デバイスモニタ機能

6.5.1 遠隔デバイスモニタ機能の概要

GT SoftGOT2のメール機能を利用して，GT SoftGOT2がモニタしているデバイスを，パソコンや携帯電話でモニタできる機能です。
離れた場所からGT SoftGOT2がモニタしているデバイスを確認できます。
メール機能については6.4節を参照してください。

6.5.2 遠隔デバイスモニタ機能のシステム構成

遠隔デバイスモニタ機能使用時のシステム構成を下記に示します。



(1) サーバ（GT SoftGOT2）側

サーバ側にはWebサーバソフトウェアをインストールする必要があります。
使用するOSによってインストールするWebサーバソフトウェアが異なりますので注意してください。
弊社で動作確認したWebサーバソフトウェアを下記に示します。

使用するOS	インストールするソフトウェア
Microsoft® Windows® 98 operating system	Personal Web Server 4.0 (PWS4.0)
Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 operating system	
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Internet Information Server 5.0 (IIS5.0)

＊1 上記以外のサーバソフトウェアは使用できません。
＊2 Windows® MeはPersonal Web Serverに対応していませんので，遠隔デバイスモニタ機能は使用できません。
＊3 使用するOSがWindows® XP Professional，Windows® XP Home Editionの場合，遠隔デバイスモニタ機能は使用できません。
＊4 Windows® 98，Windows® 2000は，OSインストール時にセットアップします。
＊5 Windows NT® Workstation4.0は，Service Pack3以上とOption Packのインストール時にセットアップします。（Windows NT® Workstation4.0 Service Pack3以上とOption Packは，Microsoft® Corporationのホームページからダウンロードまたは CD-ROM送付サービスにて入手することができます。）
＊6 サーバソフトウェアのインストール方法などについてはWindows® のヘルプ機能を参照してください。

(2) クライアント側

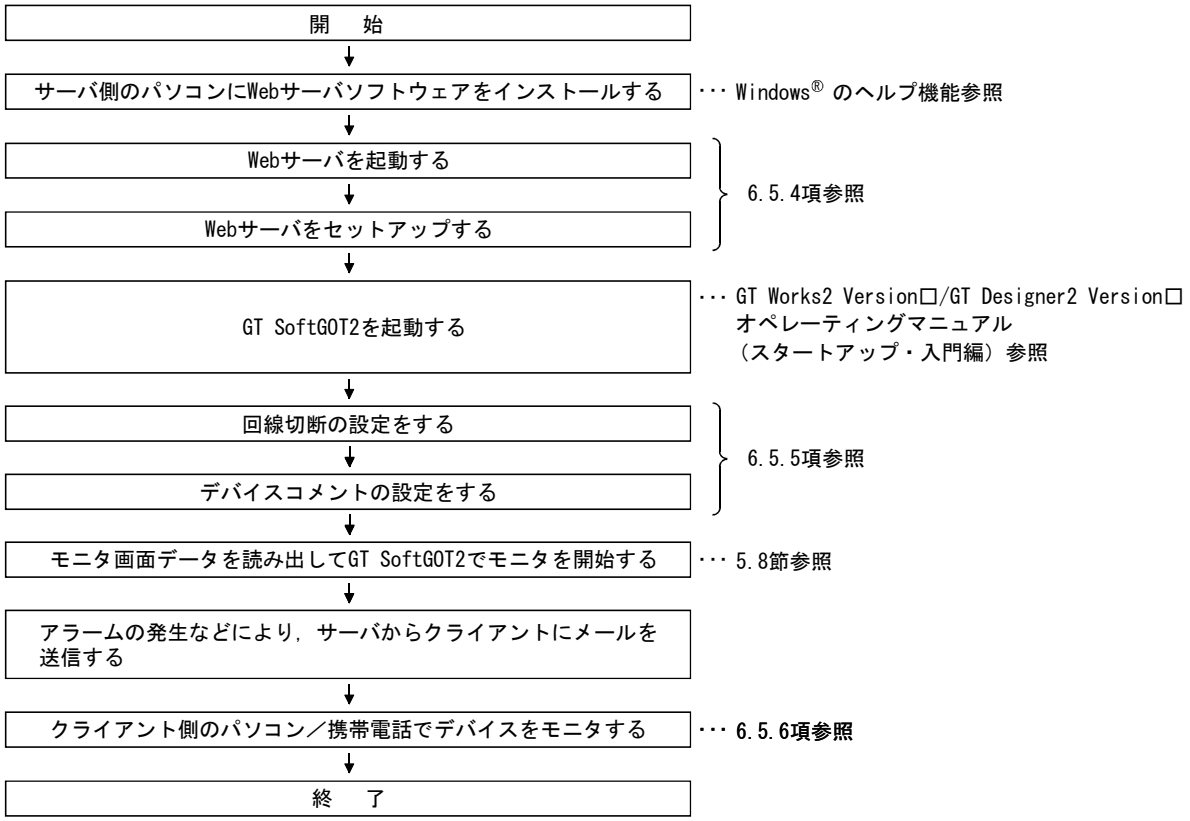
クライアント側は使用する機器によって必要な環境が異なります。
弊社で動作確認した環境を下記に示します。

使用する機器	内　容
パソコンを使用する場合	Webブラウザがインストールされているパソコン （Microsoft Corporation製Internet Explorer4.0以降品または，Netscape Communication Corporation製Netscape Communicatior4.0以降品）
携帯電話を使用する場合	iモード対応の携帯電話（(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ製） なお，EZweb*1に対応した携帯電話でもご使用できます。

*1　au携帯電話（KDDI(株)製）のみ対応しています。

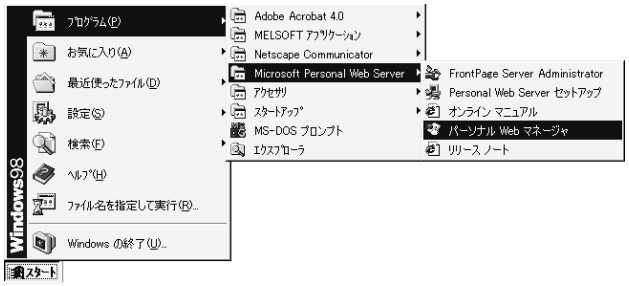
6.5.3 遠隔デバイスモニタ機能使用時の操作の流れ

GT Designer2で画面作成後，遠隔デバイスモニタ機能を使用するまでの操作の流れを下記に示します。



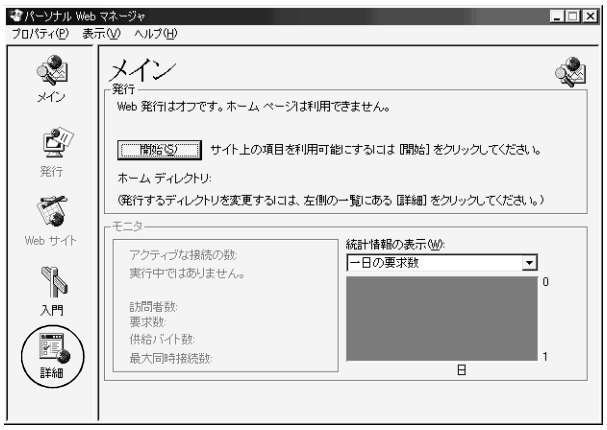
6.5.4　Webサーバのセットアップ

Webサーバのセットアップ方法を下記に示します。
本項ではWindows® 98を使用した場合を例にして説明します。



↓

① Webサーバ(Personal Web Server 4.0)を起動します。
（Webサーバの起動方法は使用するOSによって異なります。詳細はWindows® のヘルプを参照してください。）



↓

② 左記画面が表示されますので，［詳細］をクリックします。



↓

③ 「仮想ディレクトリ」の「ホーム」を選択して，
追加 ボタンをクリックします。



↓

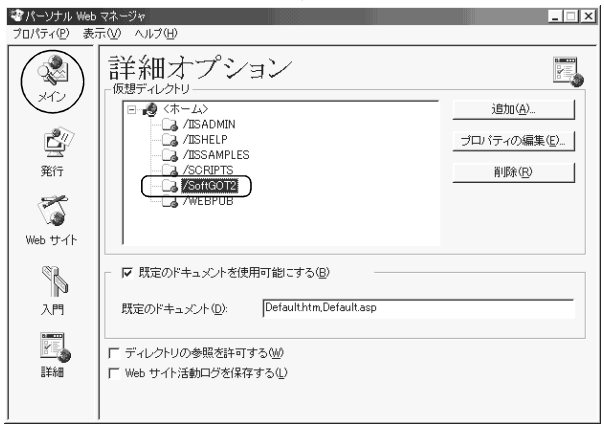
④ ディレクトリの編集ダイアログボックスが表示されますので，下記の設定を行ってください。
(1) ディレクトリ:
「C:¥MELSEC¥SoftGOT2¥home¥index」を指定。
（GT SoftGOT2インストール時にインストール先のフォルダを変更した場合は，変更先のフォルダを指定してください。）
(2) エイリアス：「SoftGOT2」と入力する。
(3) アクセス　：「読み取り」，「実行」，「スクリプト」をチェックする。

（次ページへ）

6 - 17

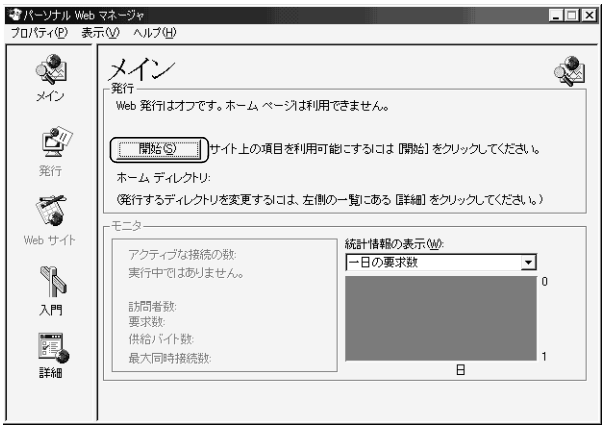
（前ページから）

↓



⑤ 仮想ディレクトリにエイリアス（SoftGOT）が追加されます。
エイリアスが追加されたのを確認して,「メイン」をクリックします。

↓



⑥ 「発行」の **開始** ボタンをクリックします。

⑦ これでサーバのセットアップは完了です。

ポイント

Web発行がONの状態でエイリアスを追加した場合は，一旦Web発行を停止し，再度 **開始** ボタンをクリックして，Web発行をONしてください。

6 - 18

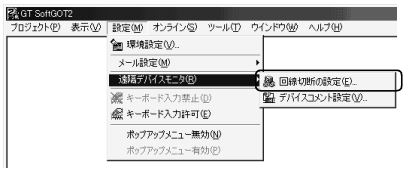
6.5.5　遠隔デバイスモニタ機能の設定

(1) 回線切断の方式を設定する。

メール送信機能で，「ダイヤルアップ」を「自動」に設定している場合，クライアントがメール受信した後の回線の切断の方式と，クライアント側での回線切断の許可／不許可を設定します。
メール送信機能の「ダイヤルアップ」の設定については，6.4.3項を参照してください。

メール送信機能で，「ダイヤルアップ」を「手動」に設定している場合，本設定は関係ありません。

(a) 操作手順



[メニューバー]

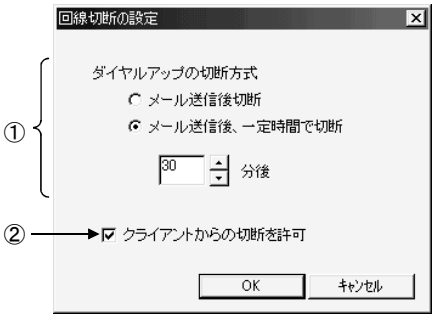


いずれかを選択

① 回線切断の方式を設定する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「設定」－「遠隔デバイスモニタ」－「回線切断の設定」
- メニューバーの「回線切断の設定」
- マウスの右クリックの「設定」－「回線切断の設定」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② 回線切断の設定ダイアログボックスが表示されますので，各設定を行ってください。

(b) 設定方法



番号	項　目	内　容
①	ダイアルアップの切断方式	ダイアルアップの切断方式を選択します。
	メール送信後切断	メール受信後，回線を切断する場合に選択します。
	メール送信後，一定時間で切断	メール受信後，一定時間後に回線を切断する場合に選択します。 「10」～「60」（分）で設定可能です。
②	クライアントからの切断を許可	ダイアルアップの切断方式で「メール送信後，一定時間で切断」選択時，クライアント側で切断を実行する場合，チェックボックスをチェックします。

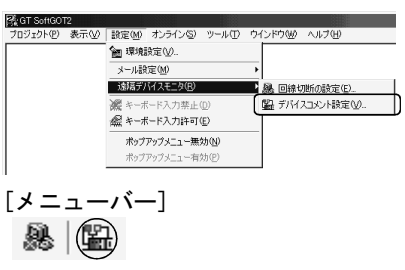
ポイント

契約しているプロバイダによっては，ダイアルアップの切断方式で設定した時間より，早く切断される場合がありますので注意してください。

(2) デバイスコメントを設定する。

GX Developerなどで設定したデバイスコメントを，遠隔デバイスモニタ機能使用時にクライアント側でモニタする場合，デバイスコメントの設定を行います。
本設定は，GX Developerで設定している内容と同じ内容を設定してください。
GX Developerでのデバイスコメントの設定方法などについては，GX Developerのオペレーティングマニュアルを参照してください。

(a) 操作手順



[メニューバー]

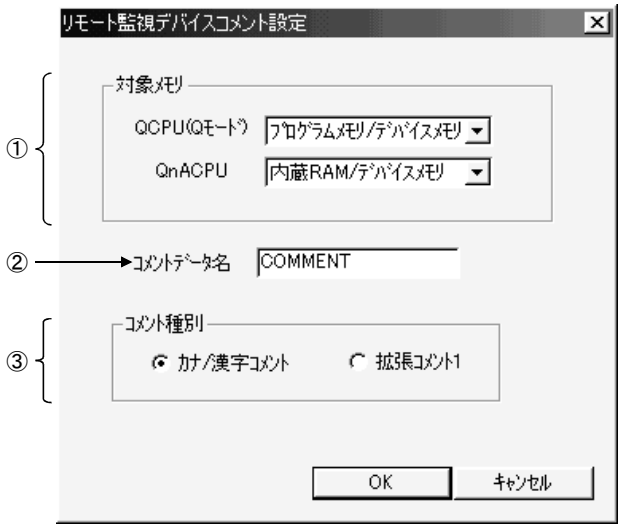
いずれかを選択

① デバイスコメントを設定する場合，下記のいずれかを選択します。
- 「設定」－「遠隔デバイスモニタ」－「デバイスコメント設定」
- メニューバーの「デバイスコメント設定」
- マウスの右クリックの「設定」－「デバイスコメント設定」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② デバイスコメントの設定ダイアログボックスが表示されますので，各設定を行ってください。

(b) 設定方法

モニタするCPUにより設定する項目が異なります。
複数種類（ACPUやQnACPUなど）のCPUが存在するシステムをモニタする場合は，必要項目をすべて設定してください。



番号	項目	内容	接続先CPUによる設定要否			
			QCPU	QnACPU	ACPU	FXCPU
①	対象メモリ	モニタするCPUの対象メモリ（GX DeveloperなどでPC書込みしたメモリ）を選択します。	○	○	—	—
	QCPU（Qモード）	QCPU（Qモード）モニタ時の対象メモリを選択します。	○	—	—	—
	QnACPU	QnACPUモニタ時の対象メモリを選択します。	—	○	—	—
②	コメントデータ名	モニタするコメントデータ名を設定します。	○	○	—	—
③	コメント種別	モニタするコメントの種別を選択します。	—	—	○	○

○：設定必要　—：設定不要

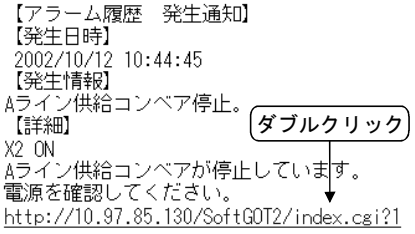
6 - 20

6.5.6　クライアントからのモニタ方法

クライアントからサーバへのモニタ方法を下記に示します。

本項ではWindows® 98でInternet Explorer Version6.0を使用した場合を例にして説明します。

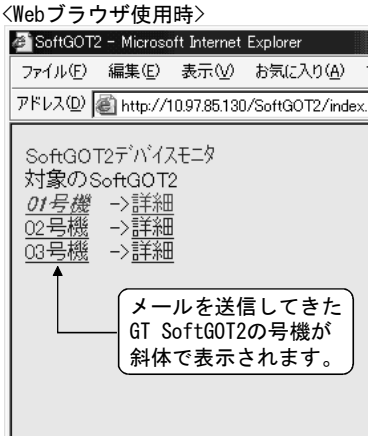
(1) モニタまでの手順



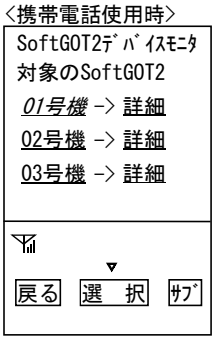
↓

① GT SoftGOT2から送信されてきたメールから，Webブラウザを起動します。

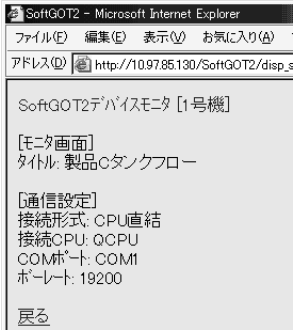
〈Webブラウザ使用時〉



〈携帯電話使用時〉

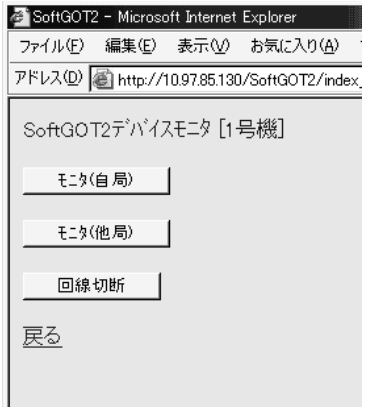


② 左記画面が表示されるので，モニタするGT SoftGOT2の号機を選択します。
「詳細」を選択した場合，GT SoftGOT2の通信設定を確認できます。



＊ 携帯電話の画面は，使用する携帯電話により異なります。

↓



↓

③ 左記画面が表示されるので，モニタ先を選択します。(回線の切断については(2)を参照してください。)

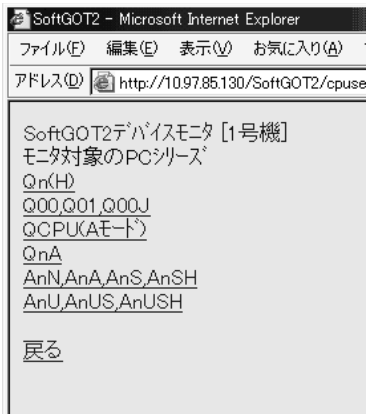
自局を選択した場合，⑤に進んでください。
他局を選択した場合，④に進んでください。

(次ページへ)

6 - 21

（前ページより）

↓



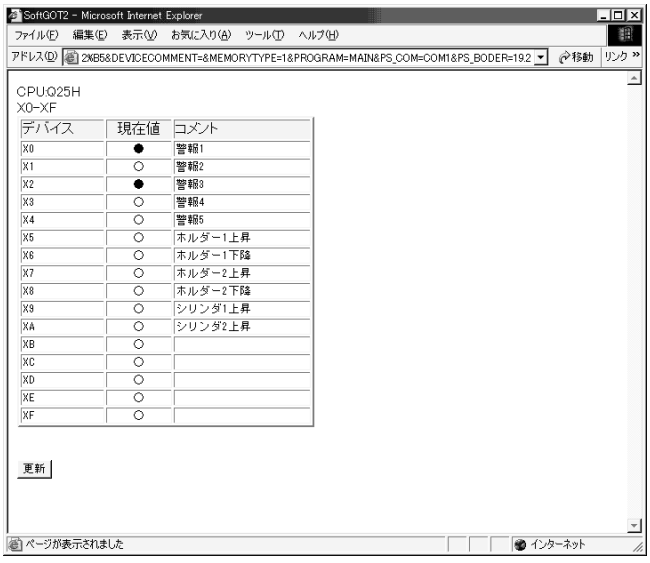
④ ③で他局を選択した場合，モニタする他局のCPUタイプを選択します。

↓



⑤ 左記画面が表示されるので，各設定を行ってください。
（設定内容の詳細については(3)を参照してください。）

↓



⑥ 設定後，**モニタ開始** をクリックするとデバイスのモニタを開始します。

⑦ 遠隔デバイスモニタ機能では表示は自動更新されません。
表示を更新する場合は，**更新** ボタンをクリックしてください。

ポイント

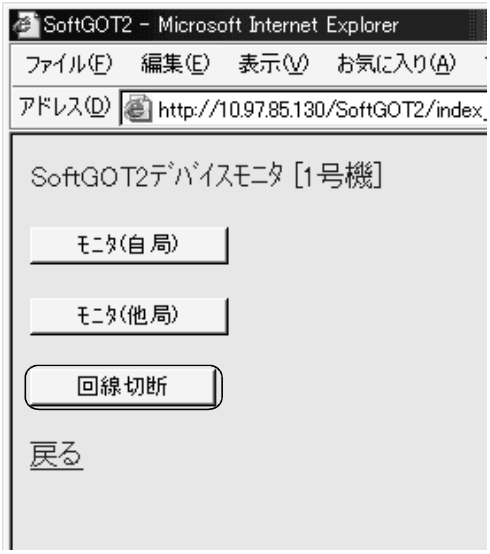
LAN接続時，Webブラウザがプロキシを使用する設定になっていると，サーバと接続できない場合があります。
使用するWebブラウザがプロキシを使用しない設定にしてください。
下記にNetscape Communicatior4.7，Internet Explorer Version6.0の設定方法を示します。

(1) Netscape Communicatior4.7の場合
① ツールバーの「編集」―「設定」を選択します。
② 「設定ダイアログボックス」で「詳細」―「プロキシ」を選択し，「インターネットに直接接続する」を選択してください。

(2) Internet Explorer Version6.0の場合
① ツールバーの「ツール」―「インターネットオプション」を選択します。
② 「インターネットオプションダイアログボックス」の「接続」タブを選択し，「ローカルエリアネットワークの設定」で「LANにプロキシサーバを使用する」のチェックボックスのチェックをはずしてください。

(2) 回線の切断について

回線切断を選択するとクライアント側からサーバへの回線を切断することができます。
クライアント側から回線を切断する場合，GT SoftGOT2の「回線切断の設定」で「クライアントからの切断を許可」をチェックしている必要があります。(6.5.5項参照)



(3) モニタするデバイスの設定について

モニタするデバイスの設定内容について下記に示します。
設定内容のデフォルトは，モニタするクライアント側の機器により異なります。



名　　称		内　　容
PC側局番		モニタするCPUの局番を設定します。　(Ethernet接続時のみ設定)
PC側IPアドレス		モニタするCPUのIPアドレスを設定します。　(Ethernet接続時のみ設定)
ポート番号		Ethernet接続で設定しているポート番号を設定します。　(Ethernet接続時のみ設定)
ネットNo／他局ネットNo.		モニタするCPUのネットワークNoを設定します。　(他局時のみ設定)
局番／他局局番		モニタするCPUの局番を設定します。　(他局時のみ設定)
デバイス		モニタするデバイスを設定します。
点数		「デバイス」で設定したデバイスを先頭に，何点モニタするかを選択します。
詳細設定	ルーチングパラメータ変換方式	ルーチングパラメータの変換方式を選択します。
	号機指定	モニタ先がマルチCPUシステムの場合，モニタするCPUの号機(1号機～4号機)を選択します。 モニタ先がマルチCPUシステムでない場合は，「なし」を選択します。
	表示形式	モニタするデバイスの表示形式を選択します。
	対象メモリ	モニタするCPUの対象メモリ（GX DeveloperなどでPC書込みしたメモリ）を選択します。
	コメントデータ名	モニタするコメントデータ名を設定します。
	コメント種別	モニタするコメントの種別を選択します。
	プログラム名	T/Cをモニタする場合のプログラム例を設定します。
接続情報		GT SoftGOT2の接続情報を表示します。

＊ 上記画面はCPU直接接続時のものです。

(4) 表示例

遠隔デバイスモニタ機能使用時のWebブラウザと携帯電話の表示例を下記に示します。

(a) ワードデバイス16点，表示形式がワード10進時

＜Webブラウザ＞

CPU:Q25H
D0-D15

デバイス	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7
D0	19	124	101	87	0	0	1589	0
D8	12	0	25	0	0	65	0	0

＜携帯電話＞

CPU Q25H
D0-D15
D0 TOP
19 124
101 87
0 0
1589 0
0 12
D10 TOP
25 0
0 65

デバイスの値を表示
+0 +1
+2 +3
+4 +5
: :
: :

(b) ワードデバイス16点，表示形式がコメント付き10進時

＜Webブラウザ＞

CPU:Q25H
D0-D15

デバイス	現在値	コメント
D0	19	Aライン生産状況
D1	124	Bライン生産状況
D2	101	Cライン生産状況
D3	87	Dライン生産状況
D4	0	
D5	0	
D6	1589	
D7	0	
D8	12	数量1
D9	0	数量2
D10	25	数量3
D11	0	数量4
D12	0	
D13	65	
D14	0	
D15	0	

＜携帯電話＞

CPU Q25H
D0-D15
D0 19 TOP
Aライン生産状況
D1 124 TOP
Bライン生産状況
D2 101 TOP
Cライン生産状況
D3 97 TOP
Dライン生産状況
D4 0 TOP

(c) ビットデバイス16点，表示形式がビット時

●：デバイスON時　○：デバイスOFF時

＜Webブラウザ＞

CPU:Q25H
X0-XF

デバイス	FEDC	BA98	7654	3210
X0	○○○○	○○○○	○○○○	○●○●

＜携帯電話＞

CPU Q25H
X0-X15
X0 TOP
○○○○○●○●
○○○○○○○○

(d) ビットデバイス16点，表示形式がコメント付き10進時

●：デバイスON時　○：デバイスOFF時

＜Webブラウザ＞

CPU:Q25H
X0-XF

デバイス	現在値	コメント
X0	●	警報1
X1	○	警報2
X2	●	警報3
X3	○	警報4
X4	○	警報5
X5	○	ホルダー1上昇
X6	○	ホルダー1下降
X7	○	ホルダー2上昇
X8	○	ホルダー2下降
X9	○	シリンダ1上昇
XA	○	
XB	○	
XC	○	
XD	○	
XE	○	
XF	○	

＜携帯電話＞

CPU Q25H
X0-X0F
X0 ●　TOP
警報1
X1 ○　TOP
警報2
X2 ○　TOP
警報3
X3 ○　TOP
警報4
X4 ○　TOP

(e) T/Cモニタ16点，表示形式がワード10進時

●：デバイスON時　○：デバイスOFF時

＜Webブラウザ＞

CPU:Q25H
T0-T15

デバイス	接点	コイル	設定値	現在値
T0	○	●	---	15
T1	○	○	---	32767
T2	○	○	---	0
T3	○	○	---	0
T4	○	○	---	0
T5	○	○	---	0
T6	○	○	---	0
T7	○	○	---	0
T8	○	○	---	0
T9	○	○	---	0
T10	○	○	---	0
T11	○	○	---	0
T12	○	○	---	0
T13	○	○	---	0
T14	○	○	---	0
T15	○	○	---	0

＜携帯電話＞

CPU Q25H
T0-X15
T0　TOP
　接点　○
　コイル　●
　設定値　―
　現在値　15
T0　TOP
　接点　○
　コイル　○
　設定値　―
　現在値　32767

6.5.7 使用時の注意事項

(1) インターネットサービスプロバイダや経由するInternetサーバ間の回線状況などにより，サーバからの応答が遅れる場合があります。
また，回線が混雑している場合，“接続できません。しばらくしてからリトライしてください”といったメッセージが表示される場合があります。
（メッセージは使用する通信会社により異なります。）

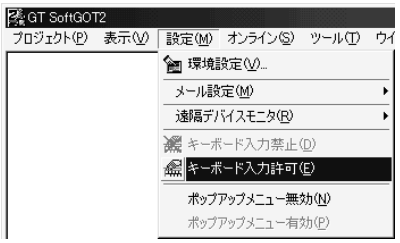
(2) 携帯電話では「戻る」ボタンを使用して，前画面に戻った場合，設定したネットワークNo.や局番などがデフォルト値に戻ります。

(3) MELDAS C6/C64をモニタする場合，webブラウザおよび携帯電話のCPU表記が“QnA”と表示されます。
また，MELDAS C6/C64使用時は，QnACPUとして操作して下さい。

6.6 キーボード入力機能

キーボード入力機能では下記の操作ができます。
・数値入力機能，アスキー入力機能の入力操作をキーボードで操作できます。
・ファンクションキー（F1～F8，[Shift]+F1～[Shift]+F8）にキーコードを割り付けて，数値入力機能，アスキー入力機能，データリスト表示機能，アラームリスト表示機能，アラーム履歴表示機能をキーボードで操作できます。

6.6.1　キーボード入力の許可／禁止方法



いずれかを選択

[メニューバー]



② キーボード入力禁止
① キーボード入力許可

① デフォルトではキーボードからの入力は禁止状態になっていますので，キーボードの入力を行う場合，下記のいずれかを選択します。
・「設定」－「キーボード入力許可」
・ツールバーの「キーボード入力許可」
・マウスの右クリックの「設定」－「キーボード入力許可」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② 再びキーボードの入力を禁止したい場合は，下記のいずれかを選択します。
・「設定」－「キーボード入力禁止」
・ツールバーの「キーボード入力禁止」
・マウスの右クリックの「設定」－「キーボード入力禁止」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

6.6.2　数値入力機能，アスキー入力機能の動作をパソコンのキーボードで操作する場合

数値入力機能，アスキー入力機能使用時，パソコンのキーボードから数値／アスキー入力できます。
各キーを押した場合の動作を下記に示します。

キーの種類	数値入力時の動作	アスキー入力時の動作
[Back Space]キー	最下位桁を消去して，全体を1桁右へシフト	
[Enter]キー	操作確定，デバイス書込み，ダイアログを閉じる	
[Esc]キー	カーソルの表示／消去	
[-]キー	マイナス入力	
[.]キー	小数点入力	
数値キー	数値入力(0～9)	ASCIIコード，シフトJISコード，文字の入力
英字キー	英字入力(A～F)	
矢印キー	カーソル移動	
[Delete]キー	入力中の文字を消去	

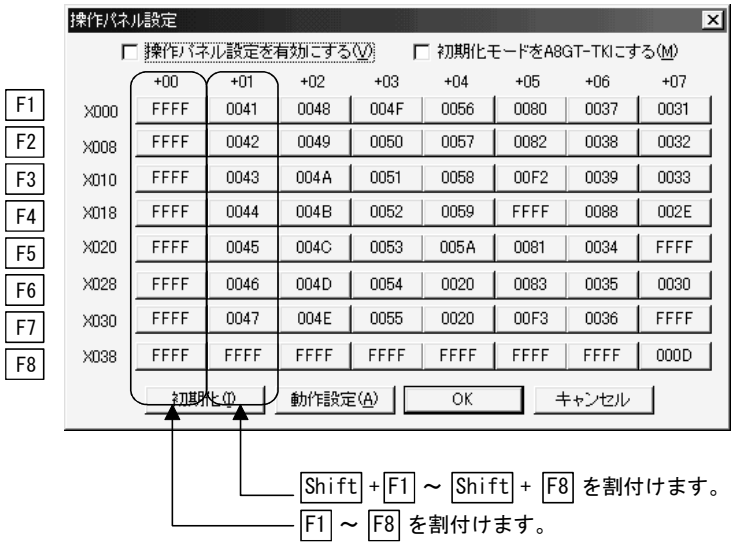
6.6.3　ファンクションキーの使用方法

ファンクションキー（F1～F8，[Shift]+F1～[Shift]+F8）にキーコードを割り付けることで，数値入力機能，アスキー入力機能，データリスト表示機能，アラームリスト表示機能，アラーム履歴表示機能をキーボードで操作することができます。

各機能のキーコードについてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

(1) キーコードの割付け方法

GT Designer2の操作パネル設定ダイアログボックスにキーコードを割り付けます。



6.6.4　使用時の注意事項

(1) ベース画面上にウィンドウ画面を表示している場合，両方の画面にアラームリスト／アラーム履歴表示機能が設定されていると，ベース画面のアラームリスト／アラーム履歴表示機能に対して，キー入力が有効になります。

(2) 1つのベース画面上に複数のアラームリスト表示機能を設定したり，アラームリスト表示機能とアラーム履歴表示機能を両方設定しないでください。
ファンクションキーに割付けた内容が正しく動作しない場合があります。

(3) 同時押し禁止のタッチスイッチがON中の場合は，キーを押しても動作しません。

(4) スクリーンセーブ中にキー入力をした場合，スクリーンセーブを解除します。
（キー入力機能としては動作しません。）

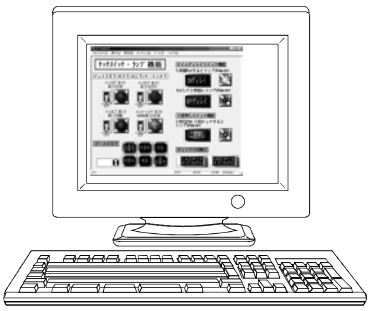
(5) 数値入力機能，アスキー入力機能でファンクションキーに“000D”(Enterキー)のキーコードと動作設定を両方設定した場合，動作設定で設定した内容は動作しません。

(6) キーボード入力機能は，ユーティリティ画面には対応していません。
ユーティリティ画面は，マウスで操作してください。

6.7 全画面表示機能

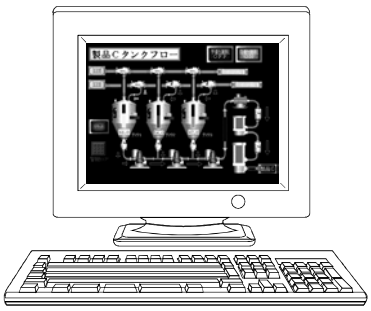
GT SoftGOT2のモニタ画面をパソコンの画面にフルスクリーンで表示できます。

全画面表示機能未使用時



全画面表示機能未使用時は，フレーム部分が表示されます。

全画面表示機能使用時



全画面表示機能を使用すると，フレーム部分の表示を無くして，パソコンにフルスクリーンで表示できます。

ポイント

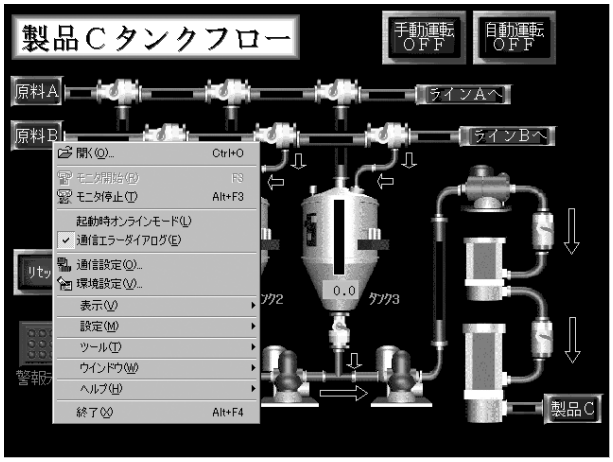
- 全画面表示機能を使用する場合，GT SoftGOT2のメニューバー，ツールバー，ステータスバーの表示が無くなるので，GT SoftGOT2の終了などの各操作が行えません。
  メニューバー，ツールバーの各操作は，マウスの右クリックメニューで行ってください。
- ツールバー，ステータスバーは，全画面表示機能を解除した場合も非表示のままになっています。
  表示したい場合は，メニューやマウスの右クリックで表示させてください。

6.7.1 全画面表示機能の種類

全画面表示機能には以下の種類があります。

(1) フルスクリーン1

画面上にモニタ画面のみをフルスクリーンで表示します。
マウスやキーボードが装着されているパソコンやパネルコンピュータで使用してください。

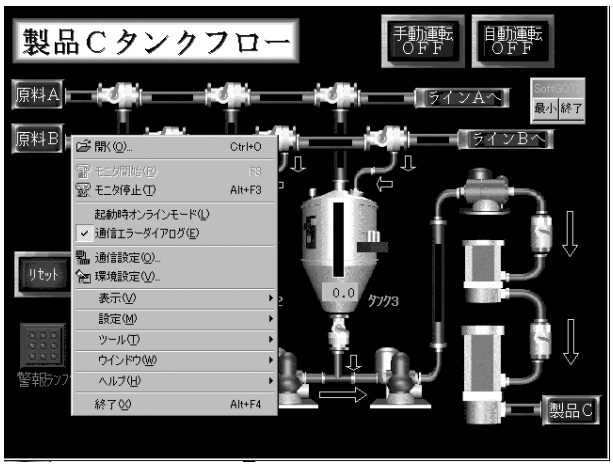


＜操作方法＞

① メニューバー，ツールバーで行う操作は，マウスの右クリックで行えます。
② モニタ画面内で[Shift]キーを押しながらダブルクリックすると，画面を最小化します。
③ F12キー（ファンクションキー）を押すとGT SoftGOT2を終了します。

(2) フルスクリーン2

画面上にモニタ画面をフルスクリーンで表示して，小ダイアログを表示します。
小ダイアログではGT SoftGOT2の最小化／終了が可能です。
モニタ画面上でGT SoftGOT2を終了できるので，マウスやキーボードが装着されていないパネルコンピュータでも使用できます。

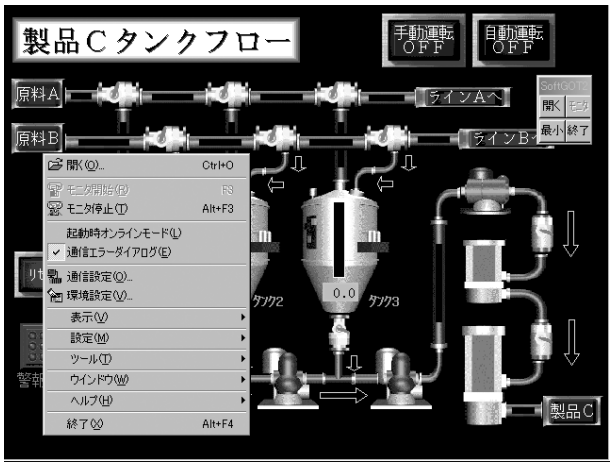


＜操作方法＞

① 小ダイアログで下記の操作ができます。
・最小：GT SoftGOT2を最小化します。
・終了：GT SoftGOT2を終了します。
② メニューバー，ツールバーで行う操作は，マウスの右クリックで行えます。
③ モニタ画面内で[Shift]キーを押しながらダブルクリックすると，画面を最小化します。
④ F12キー（ファンクションキー）を押すとGT SoftGOT2を終了します。

(3) フルスクリーン3

画面上にモニタ画面をフルスクリーンで表示して，小ダイアログを表示します。
小ダイアログでは開く／モニタ／最小化／終了が可能です。
モニタ画面上でGT SoftGOT2を終了できるので，マウスやキーボードが装着されていないパネルコンピュータでも使用できます。



＜操作方法＞

① 小ダイアログで下記の操作ができます。
・開く　：プロジェクトを開きます。
・モニタ：モニタを開始します。
（モニタ中は選択できません。）
・最小　：GT SoftGOT2を最小化します。
・終了　：GT SoftGOT2を終了します。
② メニューバー，ツールバーで行う操作は，マウスの右クリックで行えます。
③ モニタ画面内で[Shift]キーを押しながらダブルクリックすると，画面を最小化します。
④ F12キー（ファンクションキー）を押すとGT SoftGOT2を終了します。

ポイント

GOT内部デバイス（GT SoftGOT2のシステム情報エリア：GS500.b0）をONするとGT SoftGOT2を終了することができます。
上記デバイスをタッチスイッチで設定しておけば，マウスやキーボードを使用しなくてもGT SoftGOT2を終了できます。
GOT内部デバイスの詳細についてはGT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

6.7.2　設定方法

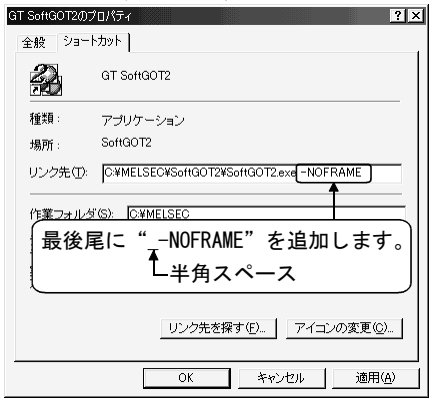
全画面表示を行う場合，GT SoftGOT2を起動する前に設定する方法と，GT SoftGOT2起動後に設定する方法があります。

(1) GT SoftGOT2を起動する前に設定する方法



① C:¥Windows¥スタートメニュー¥プログラム¥MELSOFTアプリケーション内にある，GT SoftGOT2アイコンを選択し，右クリックをして【プロパティ】メニューを選択します。
（インストール時にGT SoftGOT2起動用のアイコンをスタートメニューに登録しなかった場合は，GT SoftGOT2の実行ファイル(.EXE)のショートカットを作成してください。）

＜フルスクリーン1で表示する場合＞



② GT SoftGOT2のプロパティが表示されるので，ショートカットタブを選択し，「リンク先」に，使用するモードのキーワードをを追加します。
・フルスクリーン1：“ -NOFRAME”
・フルスクリーン2：“ -NOFRAMEDLG”
・フルスクリーン3：“ -NOFRAMEDLGMENU”

③ 追加後 OK ボタンをクリックします。

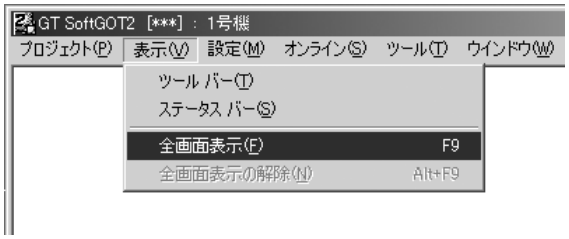
④ 次回GT SoftGOT2起動時，全画面表示でGT SoftGOT2が起動されます。

⑤ 全画面表示を解除したい場合は，「リンク先」に追加したキーワードを削除してください。

(2) GT SoftGOT2起動後に設定する方法

ポイント

- 本設定は，GT SoftGOT2を終了して，再度起動した場合も有効になります。
- GT SoftGOT2起動後に全画面表示を設定する場合，フルスクリーン1で全画面表示されます。
  フルスクリーン2，3で全画面表示を行いたい場合は，(1)の方法で全画面表示を設定してください。
- (1)の方法で全画面表示を設定している場合，本方法では全画面表示は解除できません。
  全画面表示を解除する場合，(1)でリンク先に追加したキーワードを削除してください。



① 下記のいずれかを選択します。
- 「表示」－「全画面表示」
- マウスの右クリックの「表示」－「全画面表示」
  （マウスの右クリックメニューについては，4.2節を参照してください。）

② GT SoftGOT2がフルスクリーン1で表示されます。



③ 全画面表示を解除したい場合は，マウスの右クリックの「表示」－「全画面表示の解除」を選択してください。

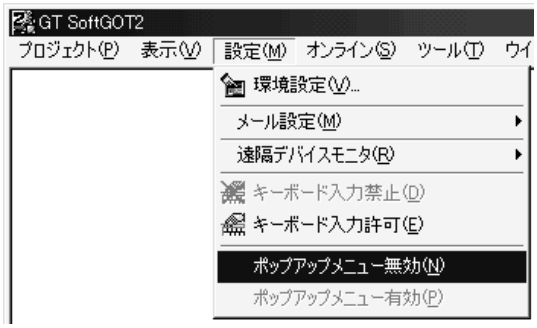
6.7.3　使用時の注意事項

(1) 小ダイアログは，移動可能ですが閉じることはできません。
また，常に最前面に表示されます。

6.8　ポップアップメニューの無効／有効

マウスの右クリックを無効（非表示）にできます。
ポップアップメニュー無効を設定すると，マウスを右クリックしても，メニューは表示されません。
本設定は，GT SoftGOT2を終了して，再度起動した場合も有効になります。

6.8.1　設定方法



① 下記のいずれかを選択します。
・「設定」－「ポップアップメニュー無効」
・マウスの右クリックの「設定」－「ポップアップメニュー無効」
（マウスの右クリックメニューについては，4.2節を参照してください。）

② マウスの右クリック操作が無効になります。

③ 再びマウスの右クリック操作を有効にしたい場合は，「設定」－「ポップアップメニュー有効」を選択してください。

6.8.2　使用時の注意事項

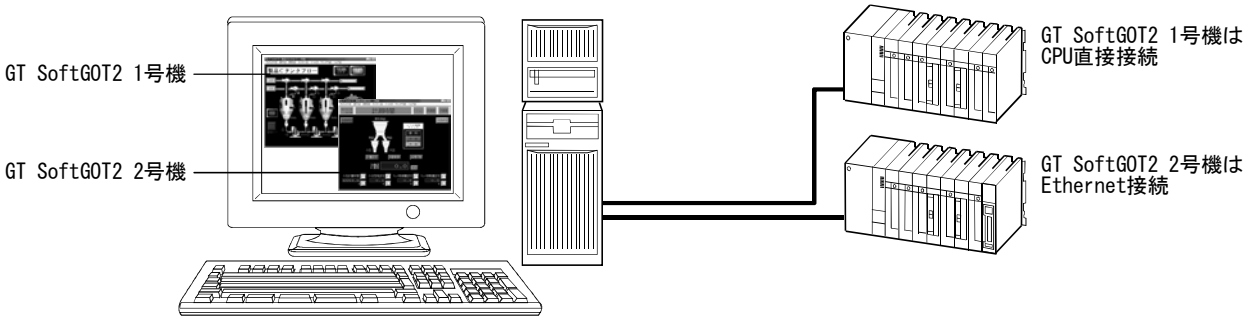
(1) 全画面表示機能とポップアップメニュー無効を設定した場合，メニューバーやマウスの右クリックメニューの操作ができなくなるため，全画面表示を解除するまでポップアップメニューを有効にできません。
ポップアップメニューを有効にしたい場合は，以下に示す方法で全画面表示を解除してください。

(a) GT SoftGOT2のアイコンのプロパティに，全画面表示のキーワードを追加した場合
GT SoftGOT2を終了（［F12］キー／GOT内部デバイスGS500.b0をON）後，追加したキーワードを削除してください。

(b) メニューから全画面表示を実行した場合
［Alt］＋［F9］キーを押すと全画面表示が解除されるので，メニューからポップアップメニューを有効にしてください。

6.9　複数起動

1台のパソコンでGT SoftGOT2を複数起動できます。
各GT SoftGOT2は“n号機”として起動し，異なる接続形態でモニタできます。
（号機番号はタイトルバーに表示されます。（号機番号の表示／非表示は環境設定で選択可能です。）



(1) 起動方法

複数起動は以下の方法で実行できます。

(a) 号機番号順で起動する場合
通常の起動方法で，GT SoftGOT2を起動すると，1号機，2号機,3号機・・・と号機番号順で起動します。

(b) 指定した号機を起動する場合
指定した号機を起動する場合（3号機のみ起動するなど），以下の方法で起動できます。



① C:¥Windows¥スタートメニュー¥プログラム¥MELSOFTアプリケーション内にある，GT SoftGOT2アイコンを選択し，右クリックをして【プロパティ】メニューを選択します。
（インストール時にGT SoftGOT2起動用のアイコンをスタートメニューに登録しなかった場合は，GT SoftGOT2の実行ファイル(.EXE)のショートカットを作成してください。）

（次ページへ）

（前ページから）

<3号機を起動する場合>



② GT SoftGOT2のプロパティが表示されるので，ショートカットタブを選択し，「リンク先」に，「 -SGTn」を追加します。
＊ nは指定の号機番号
例）3号機を起動する場合：“ -SGT3”

③ 追加後 OK ボタンをクリックします。

④ 次回GT SoftGOT2起動時，指定した号機番号で起動されます。

⑤ 号機番号を指定しない場合は，「リンク先」に追加したキーワードを削除してください。

ポイント

複数のGT SoftGOT2を，それぞれ指定して起動したい場合は，上記アイコンを複数コピーして，各号機ごとのショートカットキーを作成してください。

6.9.1　使用時の注意事項

(1) 複数起動は最大99号機まで起動できます。
ただし，パソコンの性能により，複数起動するとモニタ速度が遅くなります。
（目安として4号機前後）

(2) GT SoftGOT2を全画面表示で複数起動した場合，最前面以外のGT SoftGOT2の操作ができなくなります。
最前面以外のGT SoftGOT2を操作する場合は，マウスを右クリックして「ウィンドウ」－「重ねて表示／全て最小化／ウィンドウ移動」により行ってください。

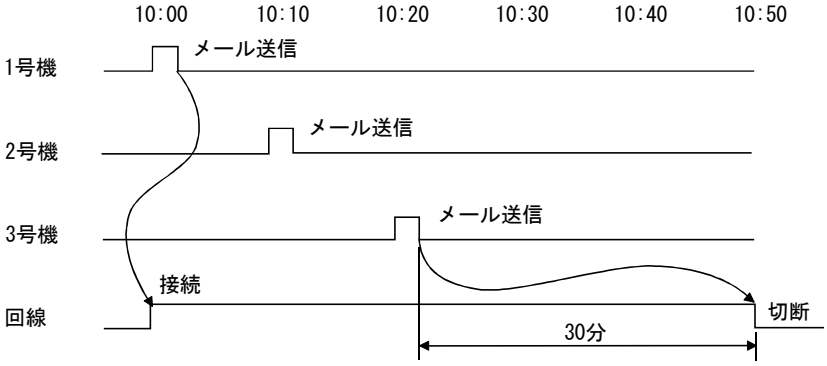
(3) GOT内部デバイスは号機単位で管理します。
GOT内部デバイスを号機間で共用することはできません。

(4) GT SoftGOT2が複数起動している場合でも，ダイアルアップはパソコン一台につき1回線です。
（1号機がダイアルアップを行った場合，他号機は1号機の回線を使用します。）

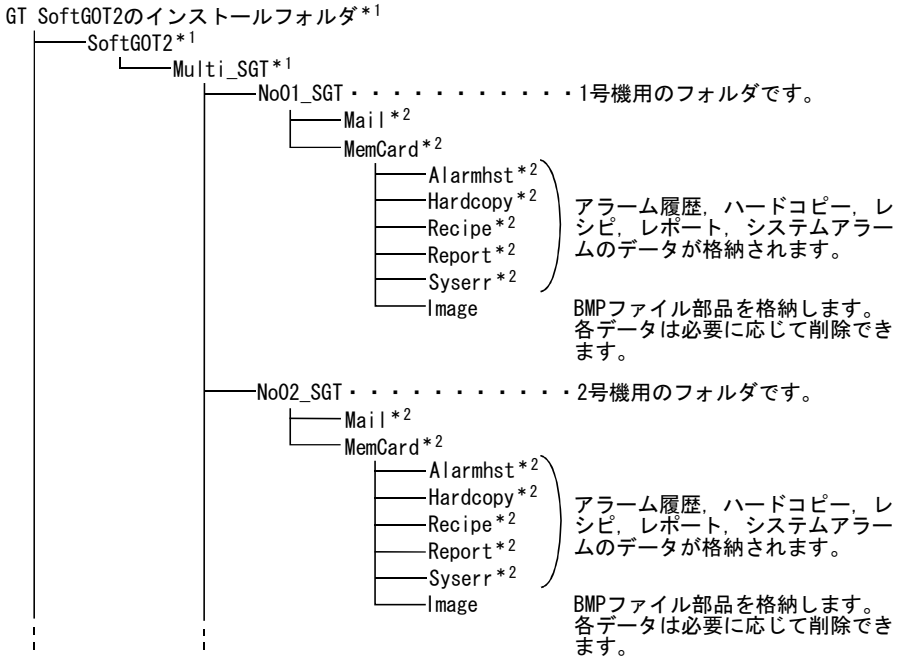
6 - 35

(5) 複数起動時は各号機からメールの送付が可能です。
各号機に対して「メール送信後一定時間で切断」の設定を行っている場合，一番最後にメール送信を行う号機の設定値で動作します。

例）1～3号機の「メール送信後一定時間で切断」の設定値が30分後の場合
1号機および2号機の設定は無視され，一番最後にメール送信を行う3号機の設定で回線が切断されます。



(6) Memcardフォルダ（アラーム履歴，レシピ，レポート印字）は，各号機のフォルダ内に作成されます。



＊1 削除するとGT SoftGOT2が起動しなくなります。
削除した場合は，GT SoftGOT2を再インストールする必要があります。

＊2 削除すると，GT SoftGOT2が正常に動作しなくなる場合があります。
削除してしまった場合は，号機フォルダ（No**_SGT）ごと削除してください。
号機フォルダが，次回起動時に再生成されます。

＊3 削除可能なフォルダ，ファイルも，GT SoftGOT2でモニタ中は削除しないでください。

6.10　ウィンドウ移動

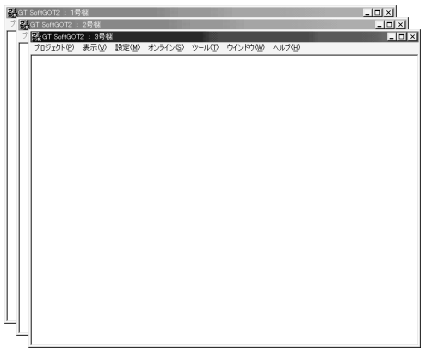
GT SoftGOT2をマウス操作で移動できます。
タイトルバーが表示されない全画面表示機能使用時も，GT SoftGOT2を移動できます。

6.10.1　ウィンドウ移動の種類

ウィンドウ移動には以下の種類があります。

(1) 重ねて表示

起動中のGT SoftGOT2を重ねて表示します。（Windows® の仕様により号機順に並ばない場合があります。）



(2) 全て最小化

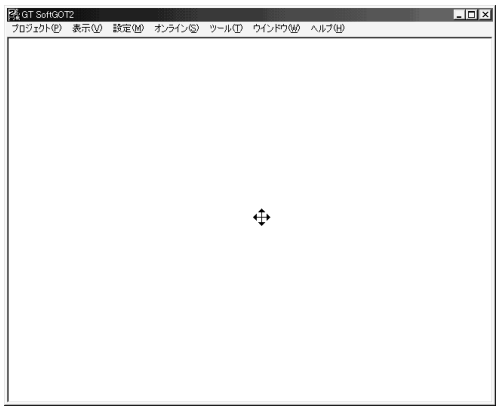
起動中のGT SoftGOT2を全て最小化します。

(3) ウィンドウ移動

ウィンドウを下記のどちらかの方法で移動します。
移動方法は環境設定で設定します。
環境設定の詳細は，5.6節を参照してください。

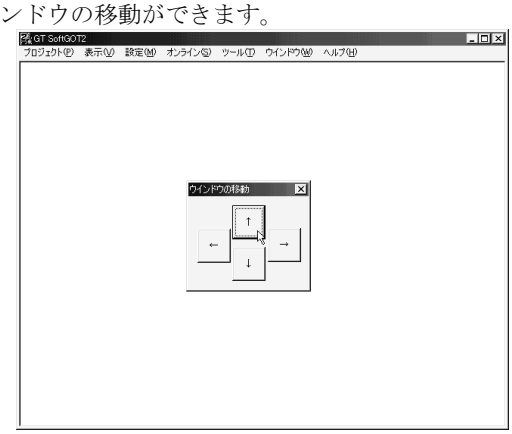
・ マウスでの移動

マウスのカーソルを移動モードにして，マウスを動かすとGT SoftGOT2もマウスの動きにあわせて動きます。
マウスをクリックすると，移動モードを解除します。

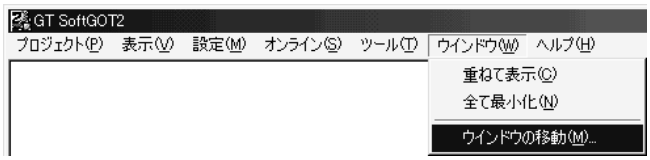


・ 移動ボタンでの移動

ウィンドウの移動ダイアログボックスの，上下左右ボタンをクリックすると，5ドット単位でGT SoftGOT2を動かします。
マウスが使用できないパネルコンピュータでも，ウィンドウの移動ができます。



6.10.2　設定方法



① 下記のいずれかを選択します。
- 「ウィンドウ」－「重ねて表示」／「全て最小化」／「ウィンドウの移動」
- マウスの右クリックの「ウィンドウ」－「重ねて表示」／「全て最小化」／「ウィンドウの移動」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

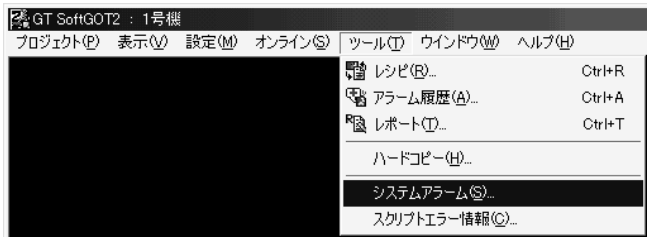
② 選択した移動方法でGT SoftGOT2を移動します。

6 - 38

6.11 システムアラーム表示

モニタデータにアラームリスト表示機能（システムアラーム）が設定されていなくても，GT SoftGOT2上でシステムアラームが確認できます。

6.11.1 操作方法



① 下記のいずれかを選択します。
- 「ツール」－「システムアラーム」
- マウスの右クリックの「ツール」－「システムアラーム」
（マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② システムアラームダイアログボックスが表示されます。

6.11.2 システムアラームダイアログボックスの内容



番号	名　称	内　容
①	プロジェクト名	環境設定の「タイトルバー表示」の設定内容により「プロジェクト名」「号機番号」を表示します。
②	号機番号	
③	システムアラーム	エラー内容を表示します。
④	？	発生しているエラーの処置方法を表示します。
⑤	クリア	表示しているエラーメッセージをクリアします。 ただし，継続してエラーが発生している場合は再表示します。
⑥	閉じる	システムエラーダイアログボックスを閉じます。

ポイント

GT SoftGOT2で発生したシステムアラームをメールで送信することもできます。
メール送信の詳細は6.4節を参照してください。

6.11.3 使用時の注意事項

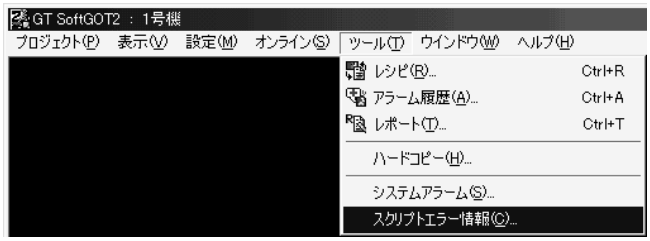
(1) モニタできるのは，GOTのエラーのみです。
CPU，ネットワークのエラーを確認したい場合は，モニタデータにアラームリスト表示機能（システムアラーム）を設定してください。

6 - 39

6.12 スクリプトエラー情報

モニタデータにスクリプトエラー情報のGSが設定されていなくても，GT SoftGOT2上でスクリプト機能のエラーが確認できます。

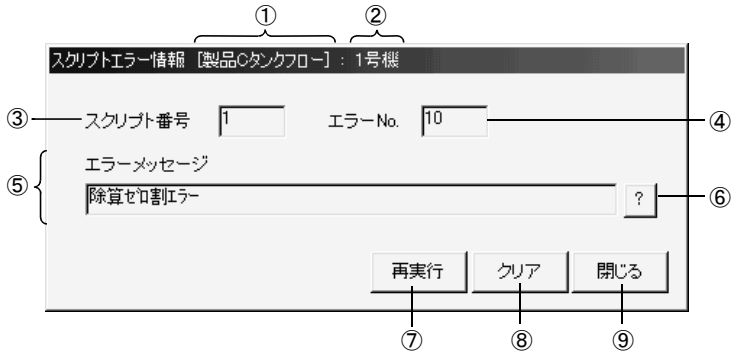
6.12.1 操作方法



① 下記のいずれかを選択します。
- 「ツール」－「スクリプトエラー情報」
- マウスの右クリックの「ツール」－「スクリプトエラー情報」
  （マウスの右クリックメニューについては4.2節を参照してください。）

② スクリプトエラー情報ダイアログボックスが表示されます。

6.12.2 スクリプトエラー情報ダイアログボックスの内容



番号	名　称	内　容
①	プロジェクト名	環境設定の「タイトルバー表示」の設定内容により「プロジェクト名」「号機番号」を表示します。
②	号機番号	
③	スクリプト番号	エラーの発生しているスクリプト番号を表示します。
④	エラーNo.＊	発生しているエラーのエラーコードを表示します。
⑤	エラーメッセージ	エラー内容を表示します。
⑥	？	発生しているエラーの処置方法を表示します。
⑦	再実行	スクリプトを再度実行します。
⑧	クリア	表示しているエラーメッセージをクリアします。 ただし，継続してエラーが発生している場合は再表示します。
⑨	閉じる	スクリプトエラー情報ダイアログボックスを閉じます。

＊ 発生するエラーによっては、スクリプト番号が“0”になる場合があります。
スクリプト機能のエラーの詳細については，GT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

第7章　トラブルシューティング

7.1　エラーメッセージ

GT SoftGOT2使用時に表示されるエラーメッセージ，異常内容と原因，処置方法を下記に示します。

種別	エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
ダウンロード	GT SoftGOT2の動作環境が不正です。	GT SoftGOT2の動作に必要なファイルにアクセスできなかった。	・Windows® XP Professional／Windows® XP Home Editionでadministrator（コンピュータ管理用）の属性を持つユーザとしてログオンしているか確認する。 ・Windows® XP Professional／Windows® XP Home Editionの「ユーザの簡易切り替え機能」使用中になっていないか確認する。
		・前回，GT SoftGOT2が不正な状態で終了された。 ・不正なプロセスが動作している。	パソコンを再起動後，GT SoftGOT2を再起動する。
	プロジェクトのGOTタイプが正しくありません。	・読み出したプロジェクトのGOTタイプがGOT-A900シリーズ以外（GOT-F900シリーズ）になっている。 ・プロジェクトのGOTタイプで解像度が640×480ドット以下のGOTを選択している。	・GT Designer2で作成したプロジェクトのGOTタイプをGOT-A900シリーズに変更する。 ・GT Designer2で作成したプロジェクトのGOTタイプを解像度640×480ドット以上のGOTに変更する。
	プロジェクトのPCタイプがGT SoftGOT2の設定と異なります。	読み出したプロジェクトのPCタイプがGT SoftGOT2の設定と異なっている。	GT Designer2で作成したプロジェクトのPCタイプとGT SoftGOT2のCPUタイプを同じにする。
	プロジェクトファイルにアクセス出来ません。	指定されたプロジェクトファイルにアクセス出来なかった。	プロジェクトファイル（a9gotp.gotなど）のアクセス権をチェックする。
	読出しに失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 ・画面データサイズ，およびデータ数 ・空きディスク容量 ・ダイアログ表示 ・オフラインモード待ち状態 ・プロジェクトファイルのアクセス権 ・プロジェクトファイルが不正，または破損	画面データサイズが大きすぎる。	画面データサイズが33Mバイト以下であるか確認する。
		ハードディスクの空き容量不足。	ハードディスクの空き容量を100Mバイト以上にする。
		画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが画面上に表示されているため，読出しができない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消した後，再度読出しを実行する。
		スクリプト機能の終了処理待ち。 （オフラインモード待ち状態）	画面に「オフライン処理実行」のメッセージ表示後，再度読出しを実行する。
		プロジェクトファイルにアクセスできない。	プロジェクトファイル（a9gotp.gotなど）のアクセス権をチェックする。
		プロジェクトの設定が不正（スクリプトファイルが無い，スクリプト文法エラー）	・スクリプトの設定で，スクリプトファイルが存在するか，確認する。 ・スクリプトに文法エラーがないか確認する。
		GOT用のプロジェクトファイルではない。 プロジェクトファイルが破損している。	正しいプロジェクトファイルまたは，正常なプロジェクトファイルを使用する。
	読出し準備に失敗しました。 以下チェック後再度実行してください。 ・空きディスク容量 ・プロジェクトファイルのアクセス権 ・プロジェクトファイルが不正，または破損	ハードディスクの空き容量不足。	ハードディスクの空き容量を100Mバイト以上にする。
		プロジェクトファイルにアクセスできない。	プロジェクトファイル（a9gotp.gotなど）のアクセス権をチェックする。
		プロジェクトの設定が不正（スクリプトファイルが無い，スクリプト文法エラー）	・スクリプトの設定で，スクリプトファイルが存在するか，確認する。 ・スクリプトに文法エラーがないか確認する。
		GOT用のプロジェクトファイルではない。 プロジェクトファイルが破損している。	正しいプロジェクトファイルまたは，正常なプロジェクトファイルを使用する。

種別	エラーメッセージ	異常内容と原因	処置方法
オンライン	GT SoftGOT2が終了出来ない状態です。	画面上に「現在この機能は使えません」などのメッセージが表示されているため，GT SoftGOT2が正常に終了できない。	ダイアログの「OK」を選択し，画面上のメッセージ表示を消したあと，再度GT SoftGOT2を終了する。
		上記以外に内部的に終了できない状態である。	ダイアログの「OK」を選択し，しばらくしてから再度GT SoftGOT2を終了する。
	GT SoftGOT2を終了してからWindowsのログオフ／終了処理を行ってください。	GT SoftGOT2を終了する前にWindowsのログオフ／終了処理を実行した。	GT SoftGOT2を終了後，Windowsのログオフ／終了処理を実行する。
	現在この機能は使えません。	GT SoftGOT2では使用できない機能を選択した。	「OK」を押す。
通信	通信回路をチェックしてください。	ケーブルが抜けている。 ケーブルが断線している。	ケーブルをチェックする。
		伝送速度（ボーレート）が正しくない。	CPU側の伝送速度（ボーレート）をチェックする。
		接続先のシーケンサがプロジェクトのPCタイプと異なる。	接続先のシーケンサをチェックする。
	通信エラーが発生しました ・再試行　　:通信を再実行します。 ・キャンセル:以降全ての通信を行いません。 再度通信を行う場合は‘GT SoftGOT2’を再起動してください。 <ES:XXXXXXXX>	ケーブルが抜けている。 ケーブルが断線している。	左記原因チェック後，表示されているダイアログボックスのボタンを選択する。 「再試行」 通信を再実行します。 「キャンセル」 キャンセルを選択した場合,以降すべての通信を行いません。 モニタを行う場合,GT SoftGOT2を再起動してください。
		伝送速度（ボーレート）が正しくない。	
		接続先のシーケンサがプロジェクトのPCタイプと異なる。	
ライセンスキー（DOS/Vパソコン用）	GT SoftGOT2を動作（オンライン）させるためには，ライセンスキーが必要です。 ライセンスキーを装着せずに実行した場合は，約10分後にGT SoftGOT2を終了します。続行しますか？	ライセンスキーが装着されていない。	ライセンスキーの装着を確認する。
	ライセンスキーが装着されていません。 GT SoftGOT2を終了します。		
ライセンスキーFD（パソコンCPUユニット用）	SWnD5F-SGLKEY-Jは，パソコンCPUユニット専用品です。	ライセンスの登録先がパソコンCPUユニットではない。	パソコンCPUユニットにライセンスキーFDでライセンス登録する。
	本FDは正規のライセンスキーFDではありません。正しいライセンスキーFDを挿入してください。	複製されたライセンスキーFDのフロッピーディスクが挿入されている。	正規のライセンスキーのフロッピーディスクよりライセンス登録する。
	本FDはライセンスを保持しています。 本FDでライセンスの解除はできません。	既にライセンス登録済みのパソコンCPUユニットに，新たなライセンスを登録しようとした。	ライセンスを登録したライセンスキーFDによりライセンスを解除した後，新たにライセンスを登録する。
	本FDにはライセンスがありません。 本FDでライセンスの登録はできません。	ライセンスを保持していないライセンスキーFDでライセンスを登録しようとした。	ライセンスを保持しているライセンスキーFDにより，ライセンスを登録する。
	FDへの書き込みができません。 FDのライトプロテクトを外してください。	ライセンスキーFDにライトプロテクトがかかっている。	ライセンスキーFD にかかっているライトプロテクトをはずす。
その他	ライセンスキーにアクセスできません。 以下の原因が考えられます。 ・システムドライバがインストールされていない ・パラレルポートが使用不可，または存在しない	システムドライバがインストールされていない。	システムドライバをインストールする。
		パラレルポートが使用不可状態	パソコンやWindows® などの設定により，パラレルポートを使用可能状態にする。

7 - 2

ポイント

Ethernet接続時の通信タイムアウト（システムアラーム402）について
一部の通信がタイムアウトエラーになった場合，システムアラームに「402 通信タイムアウト」が表示されます。（通信エラーのダイアログは表示されません。）
上記のエラーが発生した場合は，下記を確認してください。

- Ethernet設定（N/W No，PC No，IPアドレス）が間違っている。
- 存在しない他局を指定したデバイス設定がある。
- シーケンサの負荷が重いため，既設定のタイムアウト値以内に通信が完了しなかった。（タイムアウト値を大きくしてください。）

7.2　ライセンスキーに関するトラブルシューティング

DOS/Vパソコンにライセンスキーを装着しても認識されない場合や，ライセンスキーに接続して使用するプリンタで異常がある場合は下記内容を確認してください。

現　　象	異常内容と原因	処置方法
ライセンスキーが認識されない	ライセンスキーがDOS/Vパソコンのシリアルポートに接続されている。	ライセンスキーをプリンタポートに接続する。
	DOS/Vパソコンからプリンタ切換え機を経由してライセンスキーを装着している。 （DOS/Vパソコン-プリンタ切換え機－ライセンスキーの順に装着されている。）	プリンタ切換え機よりDOS/Vパソコン側にライセンスキーを装着する。 （DOS/Vパソコン-ライセンスキー-プリンタ切換え機の順に装着する。）
	DOS/Vパソコンの設定により,プリンタポートの電源が遮断されている可能性がある。	設定変更を行ってプリンタポートを使用可能にする。
	システムドライバが導入されていない	システムドライバをインストールする。
	パラレルポートが使用不可状態	パソコンやWindows® などの設定により，パラレルポートを使用可能状態にする。
	Microsoft® WindowsNT® Workstation4.0 operating system使用時，ローカルポートにプリンタドライバが設定されていないとパラレルポートが使用できない可能性がある。	プリンタドライバを設定する。 （プリンタを使用しない場合でも設定する）
	富士通社製FM/Vシリーズ使用の場合。	システムドライバをインストール後,DOS/Vパソコンを再起動する。
印刷ができない	ケーブル長が5m以上のプリンタケーブルを使用した場合，周辺のノイズの影響により印字が乱れることがある。	ケーブル長を確認する。 （切替機を使用している場合は総延長距離が対象）

7.3　メール送信に関するトラブルシューティング

(1) トラブルシューティング

現　　象	異常内容と原因	処置方法
メールが送信されない	GT SoftGOT2のメール送信設定がされていない。	GT SoftGOT2のメール送信設定を行う。 （6.4節参照）
	GT Designer2でメール送信設定をしている。	
	メール送信の設定方法が間違っている。	GT SoftGOT2のメール送信設定を見直す。

(2) エラーコード

メール送信，ダイアルアップに関して発生したエラーはGT SoftGOT2上にダイアログボックスを表示しません。
エラーコード，エラーメッセージについてはメール送信履歴データを参照してください。
メール送信履歴データの参照方法は6.4.5項を参照してください。
メール送信，ダイアルアップに関するエラーコード，異常内容と原因，処置方法を下記に示します。

エラーコード	異常内容と原因	処置方法
600～750番台	パソコンおよび周辺機器（モデムなど）側の設定によるエラー。	Windows® のヘルプを参照する。

ポイント

メールサーバからエラーの通知があった場合，メール送信履歴データに「サーバのエラー通知：**********」と表示されます。
上記のようなエラーが発生した場合は，サーバの管理者に確認してください。

7.4　遠隔デバイスモニタに関するトラブルシューティング

遠隔デバイスモニタ使用時，デバイスがモニタできない場合は，下記内容を確認してください。

現　　象	異常内容と原因	処置方法
デバイスがモニタができない	Webサーバソフトウェアがインストールされていない。	Webサーバソフトウェアをインストールする。
	サーバにGT SoftGOT2用の設定がされていない。	サーバにGT SoftGOT2用の設定をする。（ディレクトリ，エイリアス，アクセスの実行を確認する。）
	LAN環境で使用時にプロキシを使用する設定になっている。	プロキシを使用しないように設定する。
	モデムが正しく動作していない。	モデムの電源，配線，ドライバ，設定内容を確認する。
「サーバーが見つかりません」と表示される	契約プロバイダが端末のWebサーバの使用を許可していない可能性がある。	プロバイダとの契約を確認する。
「指定されたサイトは非常に混み合っています。」と表示される。	サーバ側のシステムに問題がある。	サーバのシステムが正常か確認する。
	回線が混み合っている。	しばらくしてから，再度モニタを実行する。
「1ページの最大サイズを超えたので，中断しました。」と表示される。	使用している携帯端末では全ての表示が行えない。	モニタするデバイスの点数を減らす。

ポイント

デバイスモニタ機能が行えない場合，環境の設定による場合があります。
WebサーバソフトウェアやダイアルアップなどのWindows® の設定についてはWindows® のヘルプを参照してください。

7.5　エラーコード・エラーメッセージ一覧

システムアラームで表示するエラーコード・エラーメッセージを下記に示します。

エラーコード	エラーメッセージ	エラー内容	処　置
303	指定されたモニタ点数が多すぎる	表示しようとした画面のオブジェクト設定数が多いため，システムのワークエリアを確保できない	オブジェクト点数を減らす
304	指定されたトリガ点数が多すぎる		
305	指定されたプリントアウト点数が多すぎる	ハードコピー機能でプリントアウト使用とした画面のオブジェクト設定数が多いため，システムのワークエリアを確保できない	
306	モニタデータがない	内蔵メモリに画面データがダウンロードされていない	画面データを内蔵メモリにダウンロードする
307	モニタデバイスが設定されてません	オブジェクトのモニタデバイスが決定されてない	オブジェクトのモニタデバイスを決定する
308	コメントデータがない	コメント表示で設定したコメントNo.が存在しない，またはコメントファイルが存在しない	コメントファイルを作成し，GOTにダウンロードする
309	デバイス読み出しエラー	デバイスを読み出ししたとき，エラーが発生した	デバイスを修正する
310	指定モニタデータが存在しないまたは範囲外	(1) 指定したベース画面／ウィンド画面が，プロジェクトデータに存在しない (2) 指定したベース画面／ウィンド画面が許容範囲外である	(1) 存在するベース画面／ウィンド画面を指定する (2) 存在するベース画面／ウィンド画面を指定する
311	アラーム履歴件数が1024を越えた	アラーム履歴表示機能で履歴件数が監視できる最大点数（1024点）を越えた	アラーム履歴件数を減らす （復旧した履歴を削除する）
312	散布グラフの収集回数が上限を超えました	散布グラフで以下の設定をしている場合に，収集回数が上限を超えた “メモリ保存” “累積回数／平均値書込み”	1. 散布グラフで設定した“消去トリガ”を成立させる 2. 散布グラフの“回数オーバ時動作”を“初期化して継続”に設定する
315	デバイス書き込みエラー	デバイスへ書込みをしたとき，エラーが発生した	デバイスを修正する
316	演算結果の値が表示／入力できない	データ演算結果がデバイス型で表現できる範囲を越えた	データ演算式を見直し，デバイス型で表現できる範囲を越えないようにする
320	指定部品が存在しないまたは範囲外	部品表示で設定した部品No.が存在しない	画面データの部品表示の指定部品No.を確認する
321	モニタデバイスの指定局番不正	指定したモニタ先の局番が存在しないまたはモニタ対象局でない	画面データのモニタ先局番を確認する
322	指定デバイスが範囲外	モニタするデバイスNo.が対象シーケンサCPUの許容範囲外である	モニタするシーケンサCPUおよびパラメータ設定によりモニタ可能範囲のデバイスを設定する
323	指定ファイルレジスタが範囲外		
324	AD51H用専用デバイスをAD51H無しで使用	AD51H専用のデバイスを，AD51Hを使用していないシステムでモニタした	AD51Hをシステムに組込むか，AD51H専用デバイスのモニタを中止する

エラーコード	エラーメッセージ	エラー内容	処　置
325	指定特殊ユニット未装着	指定した特殊ユニットが装着されていない	指定した特殊ユニットの装着状態を確認する
330	PCカードの容量不足	PCカードの容量が足りない	容量を確認する
331	PCカード未装着またはメモリカードアクセススイッチOFF	PCカードが装着されていないまたはメモリカードアクセススイッチがOFFになっている	1.PCカードを装着する 2.アクセススイッチをONする
332	フォーマットエラー	PCカードがフォーマットされていない	PCカードをフォーマットする
333	PCカードがライトプロテクトのため書き込み不可	PCカードがライトプロテクトされている	PCカードのライトプロテクトを解除する
334	PCカードの異常	PCカードの故障	PCカードを交換する
335	PCカードバッテリ電圧低下	PCカードのバッテリの電圧が低下している	PCカードのバッテリを交換する
340	プリンタでエラー発生または電源断	プリンタの異常，プリンタの電源が投入されていない	1.プリンタを確認する 2.プリンタの電源を投入する
341	プリンタ異常		
342	KBFオプションユニットのヒューズ断が発生した	外部入出力インタフェースユニットで異常が発生した	1.外部電源(DC24V)が未供給の場合，外部電源を供給する 2.外部電源が供給されている場合，外部入出力インタフェースユニットを交換する
343	KBFオプションユニットの装着不良	外部入出力インタフェースユニットが正しく装着されていない	外部入出力インタフェースユニットを正しく装着する
345	BCD/BIN変換エラー	BCD/BIN変換できない値を表示／入力しようとした	1.表示対象のデバイスデータをBCD値にする 2.入力値を整数4桁にする
350	RS-232-C通信エラー	GOTとパソコンを接続しているケーブルの異常	1.通信ケーブルのコネクタ抜けを確認する 2.使用しているケーブルを確認する
351	レシピファイルの異常	レシピファイルの内容が正常でない	1.PCカード内のレシピファイルの内容を確認する 2.PCカード内のレシピファイルを削除してからGOTを起動する
352	レシピファイル生成エラー	レシピファイルの生成に失敗した	PCカードを装着してからGOTを起動する
353	レシピファイル書き込み不可	レシピファイルへの書込みに失敗した	1.PCカードのライトプロテクトを確認する 2.PCカードの容量を確認する 3.レシピ動作中にPCカードを抜かない
354	レシピファイル書込み中エラー	レシピファイルの書込み中にエラーが発生した	レシピ動作中にPCカードを抜かない
355	レシピファイル読込み中エラー	レシピファイルの読込み中にエラーが発生した	1.レシピ動作中にPCカードを抜かない 2.PCカード内のレシピファイルの内容（デバイス値）を確認する

エラーコード	エラーメッセージ	エラー内容	処　置
356	PLCでファイルシステムエラーが発生しました	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，指定したファイルレジスタにエラーが発生した	1.ファイルレジスタ名を確認後，再度レシピ機能を実行する 2.指定したCPUドライブを，GX DeveloperでPCメモリフォーマット後，再度レシピ機能を実行する
357	指定されたPLCのドライブが異常です	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，CPUのドライブに異常がある	1.指定したCPUドライブを確認後，再度レシピ機能を実行する 2.指定したCPUドライブを，GX DeveloperでPCメモリフォーマット後，再度レシピ機能を実行する。
358	PLCのファイルアクセスに失敗しました	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，CPUのファイルレジスタにアクセスできなかった	1.指定したCPUのドライブ/ファイルレジスタ名を確認後，再度レシピ機能を実行する（ドライブ0を指定していた場合は，他のドライブに変更後，再度レシピ機能を実行する） 2.メモリカードがライトプロテクトされていないかを確認して，再度レシピ機能を実行する
359	他の周辺機器から処理を行っています	ファイルレジスタ名を指定してレシピ機能実行時，他の周辺機器がファイルレジスタに対して処理を行っている	他の周辺機器の処理が終了するまで待って，再度レシピ機能を実行する
360	除数0で除算エラー	データ演算式で除数0が発生した	データ演算式を見直し，除数が0にならないようにする
370	上下限値の大小関係に矛盾がある	上下限値の設定内容が[上限≦下限]になっている	上下限値の設定内容を確認し，[上限≧下限]になるよう修正する
402	通信タイムアウト	通信時にタイムアウトエラーが発生した	1.ケーブル抜け，通信ボード／通信ユニットの装着状態，シーケンサの状態を確認する 2.他局アクセス時，シーケンサの負荷が重くなると発生する場合があるので，その時は，他局のデータを自局のシーケンサへ移し，自局でモニタするようにする 3.シーケンススキャンが長い場合は，COM命令を入れる 4.GT SoftGOT2の「登録モード」にチェックが入っているか確認する。 チェックが入っている場合は，モニタデータで設定しているデバイスが範囲内か確認する。
403	通信のSIO受信ステータス異常	RS-422/RS-232C通信の受信時に，オーバランエラー，パリティビットエラー，フレミングエラーのいずれかのエラーが発生した	ケーブル抜け，通信ボード／通信ユニットの装着状態，シーケンサの状態，計算機リンクの伝送速度を確認する
406	指定局がアクセス範囲外です	(1) CC-Link 接続(G4経由)時にマスタ／ローカル局以外の局番を指定している (2) QCPU以外のCPUにアクセスした	モニタ画面データの局番を確認する
407	MNET10ユニットで他ネットワークをアクセスした	MELSECNET接続（ネットワークシステム）時に他ネットワークにアクセスした	画面データのネットワークNo.を確認し他ネットワークにアクセスしないようにする
421	E71が書込み禁止に設定されている。	シーケンサ側のEthernetユニットが，書込み禁止に設定されている	シーケンサ側のEthernetユニットを書込み可能に設定する。
422	CPUとE71の間で交信ができない	CPUの異常，CPUとシーケンサ側のEthernetユニットが交信できない	GX DeveloperなどでCPUに異常がないか確認する。（バッファメモリを確認）

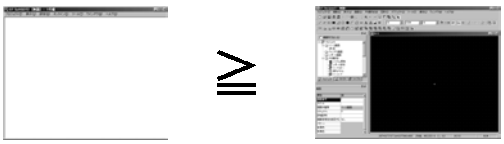
エラーコード	エラーメッセージ	エラー内容	処　置
423	ネットワークテーブルに局情報が不足している	GT DesignerのEthernet設定に，画面データで設定している局番が存在しない	GT DesignerのEthernet設定に，画面データで設定している局番を追加する。 （GX Developerのパラメータ設定で設定している，シーケンサ側のEthernetユニットの局番と同じになるようにしてください。）
423	ネットワークテーブルに局情報が不足している	GT DesignerのEthernet設定に，画面データで設定している局番が存在しない	GT DesignerのEthernet設定に，画面データで設定している局番を追加する。 （GX Developerのパラメータ設定で設定している，シーケンサ側のEthernetユニットの局番と同じになるようにしてください。）
424	GOTとモニタデータで同じ局が設定されている	GOTのユーティリティ画面で設定した局番が，GT DesignerのEthernet設定で設定した局番（シーケンサ側のEthernetユニットの局番）や画面データで設定した局番と同じになっている	下記内容を確認し，局番が重ならないようにする。 1.GOTのユーティリティ画面でGOTの局番を確認する。 2.画面データで設定している局番を確認する。 3.Ethernet設定で設定している局番を確認する。 （GX Developerのパラメータ設定で設定している，シーケンサ側のEthernetユニットの局番と同じになるようにしてください。）
448	ファイルレジスタ等の範囲外のデバイスが含まれています	QnACPUのファイルレジスタ，バッファメモリの範囲外のデバイスを指定した	シーケンサのファイルレジスタを設定して，モニタデバイスも修正する。
470	通信先が異常	MELSECNET/10経由の他局モニタ時，通信該当局で異常が発生している	通信該当局が管理局で正しく設定されているか確認する（パラメータ，スイッチ設定などの見直し）
499	CPU交信エラー	その他の通信エラー	ケーブル抜け，通信ボード／通信ユニットの装着状態を確認する

付　　録

付1　使用するモニタデータについて

GT SoftGOT2は，モニタデータを作成したGT Designer2と同じ，もしくはそれより新しいバージョンを使用してください。

万一，古いGT SoftGOT2を使用した場合，ファイルを開くことができなかったり，機能や設定が無効，または正常に動作しなくなることがあります。



GT Designerで作成したモニタデータは，GT Designerのバージョンに関係なくGT SoftGOT2で開くことができます。

＜モニタデータの互換性＞

以下に，作成したソフトウェアと開くソフトウェアのバージョンによる，モニタデータの互換性一覧を示します。

開く ソフトウェア	作成したソフトウェア	
	GT Designer2	GT Designer
GT SoftGOT2	△	○
GT SoftGOT	×	△

○：正常に動作します。

△：開くソフトウェアのバージョンが作成したソフトウェアより古い場合，サポートしていない機能や設定は無効になります。

×：GT SoftGOTでは，GT Designer2形式のファイルをサポートしていないので，開くことはできません。
GT SoftGOT2を使用してください。

付

付 - 1

付2　GT SoftGOT2のバージョンアップによる追加機能一覧

ポイント

GT SoftGOT2は，GT Designer2のバージョンアップ（共通設定／オブジェクト機能，GOT本体の機能など）にも対応しています。
GT Designer2のバージョンアップについては，GT Designer2 Version□リファレンスマニュアルを参照してください。

GT SoftGOT2 Version1の18U版までに追加された機能を下記に示します。
表中の記載は以下のようになっています。

○：使用可能
×：使用不可能

項　目	内　容	Version1		
		00A	02C	09K
メール送信	システムアラームをメールで送信	○	○	○
複数起動	1台のパソコンでGT SoftGOT2を複数起動	○	○	○
ウィンドウ移動	マウスや専用ウィンドウで，GT SoftGOT2を移動	○	○	○
エラー表示	システムアラームをGT SoftGOT2上で表示	○	○	○
	スクリプトエラーをGT SoftGOT2上で表示	○	○	○
ファイル	GT Designer2形式のファイル読出し	○	○	○
動作環境	Windows® XP Professional, Windows® XP Home Editionに対応	×	○	○
計算機リンク接続	QJ71C24N(-R2)との接続をサポート	×	×	○

付

付 - 2

メ　モ

付 - 3

索　引

【E】
Ethernet接続時の設定方法 ····· 5- 6
Ethernetユニット，Ethernetボード／カード ····· 2- 6

【G】
GT SoftGOT2使用時の制約事項および注意事項 ····· 3- 4
GT SoftGOT2でモニタを行うまでの概略手順 ·5- 1
GT SoftGOT2の終了 ····· 5-32
GT SoftGOT2の操作方法 ····· 5- 1
GT SoftGOT2のバージョンアップによる追加機能一覧 ····· 付- 2

【M】
MELFANSWebへの接続 ····· 4- 4

【Q】
Qバス接続 ····· 2-20

【あ】
アクセス範囲 ····· 2-19
印刷機能 ····· 6- 2
印刷プレビュー ····· 6- 2
ウィンドウ移動 ····· 6-37
エラーメッセージ ····· 7- 1
遠隔デバイスモニタ機能 ····· 6-15
遠隔デバイスモニタに関するトラブルシューティング ····· 7- 5

【か】
画面構成
　タイトルバー ····· 4- 1
　メニューバー ····· 4- 1
　ドロップダウンメニュー ····· 4- 1
　モニタ画面 ····· 4- 1
　ツールバー ····· 4- 2
　ステータスバー ····· 4- 3
環境設定 ····· 5-25
　環境設定ダイアログの内容 ····· 5-26
キーボード入力機能 ····· 6-27
計算機リンク接続時の設定方法 ····· 5-19
計算機リンクユニット ····· 2- 6
ケーブル ····· 2- 8

【さ】
システムアラーム表示 ····· 6-39
システム構成
　GT SoftGOT2インストール時 ····· 2- 1
　GT SoftGOT2実行時 ····· 2- 1
システムドライバのインストール ····· 5- 2
自動起動 ····· 5-33
使用可能なモニタデータ ····· 3- 4
使用できるモニタデータについて ····· 付- 1
仕様
　GT SoftGOT2の仕様 ····· 3- 1
　使用できない機能 ····· 3- 2
シリアルコミュニケーションユニット ···· 2- 6
シーケンサCPU ····· 2- 3
シーケンサCPU接続時の制約事項および注意事項 ····· 3- 5
スクリプトエラー情報 ····· 6-40
スナップショット機能 ····· 6- 1
全画面表示機能 ····· 6-29

【た】
タイトルバー ····· 4- 2
データ参照機能 ····· 6- 3
動作環境 ····· 2- 1
トラブルシューティング ····· 7- 1
通信設定 ····· 5-22
通信設定ダイアログボックスの内容 ····· 5-23

【は】
複数起動 ····· 6-34
プロジェクトを開く ····· 5-28
ページ設定 ····· 6- 2
変換器 ····· 2- 8
ポップアップメニューの無効／有効 ····· 6-33

【な】
ネットワークユニット，ネットワークボード ····· 2- 7

【ま】
メール送信機能 ····· 6- 4
メール送信機能の概要 ····· 6- 4
メール送信機能使用時の操作の流れ ····· 6- 5

索引 - 1

メール送信機能の設定方法 ・・・・・・・・・・・・・・ 6- 6
メールの送信について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-12
メール送信履歴について ・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-14
メール送信機能に関するトラブルシューティング
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7- 4
メニュー構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4- 4
メモリカード保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3- 4
モニタデータの読出しダイアログボックスの内容
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-30
モニタの実行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-27
モニタ時の操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-31

【や】

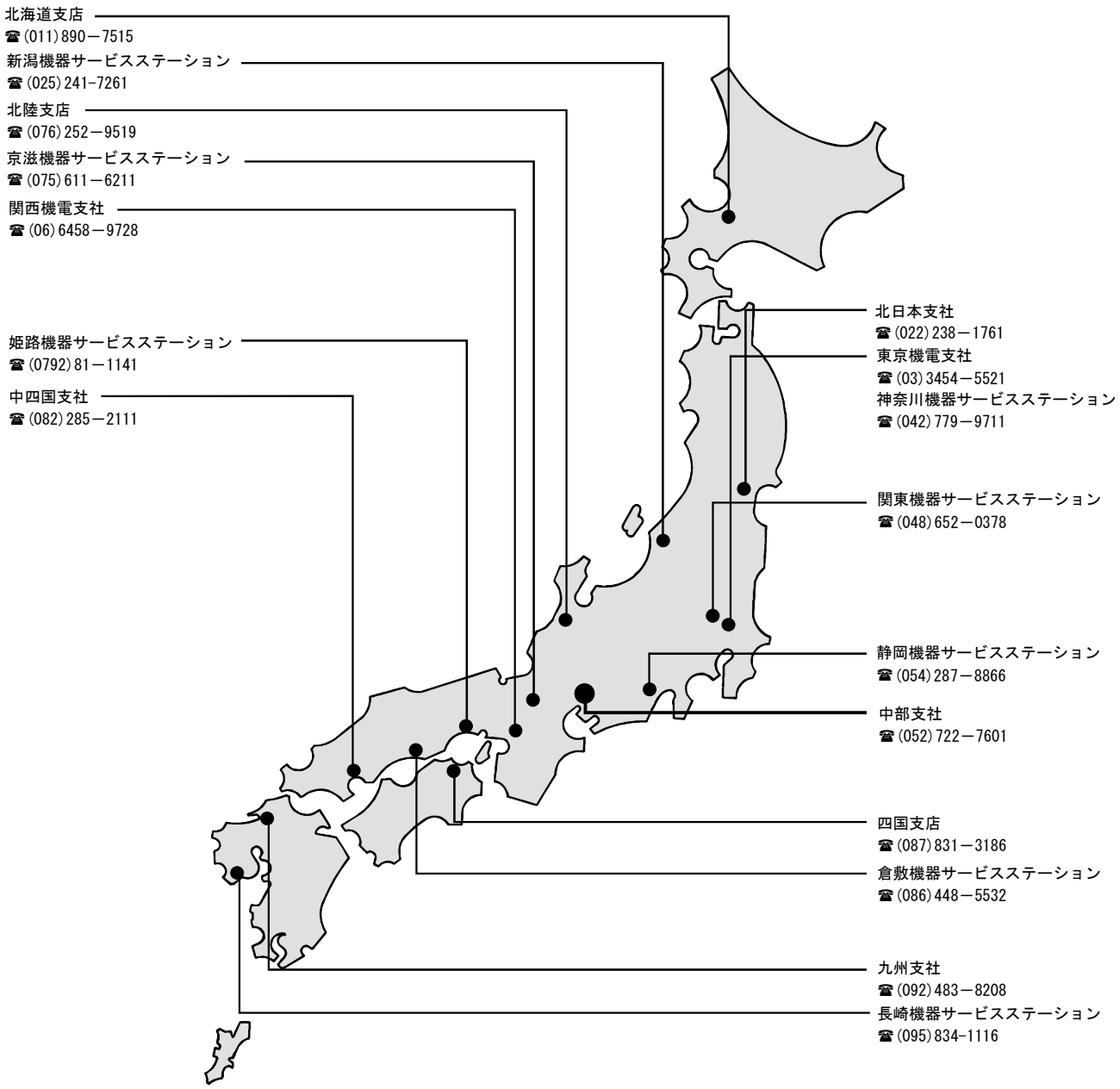
ユーティリティ機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3- 3

【ら】

ライセンスキー／ライセンスキーFDの使用方法
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5- 2
ライセンスキーに関するトラブルシューティング
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7- 4

索引 - 2

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft, Windows, Microsoft WindowsNT は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Adobe, Acorbat は，Adobe Systems Incorporated の登録商標です。
Pentium, Celeron は，Intel Corpration の米国およびその他の各国における商標および登録商標です。
Ethernet は，米国 Xerox.co.ltd の登録商標です。
PC-9800, PC98-NX は，日本電気株式会社の登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。
LEADTOOLS
Copyright (C) 2001 LEAD Technologies, Inc.

GT SoftGOT2 Version1

オペレーティングマニュアル

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル）

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部 …… 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル） …… (03) 3218-6760
北海道支社 …… 〒060-8693 札幌市中央区北二条西4-1（北海道ビル） …… (011) 212-3792
東北支社 …… 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-7（仙台上杉ビル） …… (022) 216-4546
関越支社 …… 〒330-6034 さいたま市中央区新都心11番地2（明治安田生命さいたま新都心ビル ランド・アクシス・タワー34F） … (048) 600-5835
新潟支店 …… 〒950-8504 新潟市東大通2-4-10（日本生命ビル） …… (025) 241-7227
神奈川支社 …… 〒220-8118 横浜市西区みなとみらい2-2-1（横浜ランドマークタワー） …… (045) 224-2624
北陸支社 …… 〒920-0031 金沢市広岡3-1-1（金沢パークビル） …… (076) 233-5502
中部支社 …… 〒450-8522 名古屋市中村区名駅3-28-12（大名古屋ビル） …… (052) 565-3314
豊田支店 …… 〒471-0034 豊田市小坂本町1-5-10（矢作豊田ビル） …… (0565) 34-4112
関西支社 …… 〒530-8206 大阪市北区堂島2-2-2（近鉄堂島ビル） …… (06) 6347-2882
中国支社 …… 〒730-8657 広島市中区中島町3-25（ニッセイ平和公園ビル） …… (082) 248-5445
四国支社 …… 〒760-8654 高松市寿町1-1-8（日本生命高松駅前ビル） …… (087) 825-0055
九州支社 …… 〒810-8686 福岡市中央区天神2-12-1（天神ビル） …… (092) 721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ:http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb
MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録（無料）が必要です。

電話技術相談窓口

対象機種		電話番号	受付時間※1
GOT表示器	GOT1000、MELSOFT GTシリーズなど	052-712-2417	月曜～金曜 9:00～19:00
	GOT-A900シリーズなど		
FGOT表示器	GOT-F900/ハンディGOT/ETシリーズなど	052-725-2271	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00
MELSEC-F	FX/Fシーケンサ全般		
MELSEC-Q/QnA/A シーケンサ	シーケンサー般（下記以外）	052-711-5111	月曜～金曜 9:00～19:00
	ネットワーク、シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578	
	位置決めユニット ※2	052-712-6607	
	アナログ、温調、温度入力、高速カウンタユニットなど	052-712-2579	
MELSOFTシーケンサ プログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037	
	SW□IVD-GPPA/GPPQなど		
MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	052-712-2370	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00
	SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど		
MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど		
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU（Q12PHCPU/Q25PHCPU）	052-712-2830	
	MELSOFT PXシリーズ		
	Q二重化CPU（Q12PRHCPU/Q25PRHCPU）		

FAX技術相談窓口

対象機種	FAX番号	受付時間※1
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00（受信は常時※3）

※1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始の休日を除く通常業務日
※2: ACサーボ、モーション窓口にて対応します
※3: 春期・夏期・年末年始の休日を除く

形名	SW1-SOFTGOT2-O
形名コード	1DM202
SH(名)-080354-K(0603)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

この印刷物は2006年3月の発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。 2006年3月作成

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知置き願います。 標準価格 3,000円